

堀 嘉昭教授退官記念  
堀 嘉昭教授業績ならびに教室業績

九州大学医学部皮膚科教室 編

堀 嘉昭教授退官記念  
堀 嘉昭教授業績ならびに教室業績

九州大学医学部皮膚科教室 編



堀 嘉 昭 教 授

# 堀 嘉昭教授略歴

生年月日 昭和8年12月26日

本籍地 東京都

## 【学歴および職歴】

昭和35年3月 東京大学医学部医学科卒業  
昭和35年4月 一年間東大病院にて実地修練  
昭和36年4月 東京大学大学院医学研究科入学  
昭和36年5月 東京大学医学部皮膚科入局（主任：川村太郎 教授）  
昭和40年3月 東京大学大学院医学研究科修了、医学博士  
昭和40年6月 国家公務員共済組合 虎の門病院皮膚科医員（主任：船橋俊行 部長）  
昭和41年6月 東京大学医学部皮膚科助手  
昭和41年9月 アメリカ合衆国ボストン市ハーバード大学医学部皮膚科リサーチフェロー  
（主任：T. B. Fitzpatrick 教授）  
昭和44年2月 同上より帰国  
昭和46年1月 北里大学医学部皮膚科助教授（主任：西山茂夫 教授）  
昭和53年1月 東京大学医学部皮膚科助教授（主任：久木田 淳 教授）  
東京大学医学部附属病院分院皮膚科 科長  
昭和58年4月 山梨医科大学皮膚科 教授  
昭和62年10月 九州大学医学部皮膚科 教授  
平成8年12月1日 同上退官  
平成8年12月2日 麻生飯塚病院院長

## 【研究テーマ】

メラニン色素、色素異常症、皮膚悪性腫瘍、母斑症

## 【学会活動】

US-Japan Cancer Cooperative Research Programme: US-Japan Melanoma and Skin Cancer, Biology and Comparative Features in the US and Japan: 副会長  
（昭和62年11月13日～15日、東京都）  
第13回 日本研究皮膚科学会年次学術大会：会頭  
（昭和63年7月21日～23日、福岡市）  
第8回 皮膚リンフォーマ研究学会：会長  
（平成元年7月8、9日、福岡市）  
第4回 日本色素細胞学会年次学術大会：会長  
（平成元年12月8、9日、福岡市）  
第93回 日本皮膚科学会総会・学術大会：会頭  
（平成6年4月21日～23日、福岡市）  
International Symposium "Melanogenesis and Malignant Melanoma": 会長  
（平成7年12月5、6日、福岡市）

日本皮膚科学会：理事、理事長、西部支部支部長

日本研究皮膚科学会：理事、監事

日本皮膚悪性腫瘍学会：理事

日本色素細胞学会：理事

日本乾癬学会：理事

皮膚リンフォーマ研究学会：世話人

日本毛髪美容学会：理事

日本臨床電子顕微鏡学会：評議員

日本結合組織学会：評議員

日本皮膚アレルギー学会：評議員

国際色素細胞学会：副会長

国際皮膚病理組織学会：The Member of Executive Committee

米国皮膚科学会：国際名誉会員

#### 【受賞】

日本リディアオリリー協会・清寺眞記念賞（昭和61年）

#### 【学内活動】

九州大学油症治療研究班班長

九州大学医学部動物実験施設長

九州大学純系動物飼育場長

九州大学医学部国際交流委員会委員長

#### 【学外活動】

聖マリアンナ医科大学客員教授

東京大学医学部非常勤講師

北里大学医学部非常勤講師

山梨医科大学非常勤講師

群馬大学医学部非常勤講師

東邦大学医学部非常勤講師

産業医科大学非常勤講師

福岡大学医学部非常勤講師

富山医科薬科大学非常勤講師

岡山大学医学部非常勤講師

長崎大学医学部非常勤講師

鹿児島大学医学部非常勤講師

大分医科大学非常勤講師

高知医科大学非常勤講師

文部省学術審議会専門委員（昭和60年1月～昭和62年1月・平成7年1月～平成9年1月）

文部省大学設置・学校法人審議会専門委員（平成元年8月～平成6年3月）

文部省学位授与機構審査会専門委員（平成3年8月～平成8年12月）

藤楓協会福岡県支部理事

福岡県特定疾患審査会委員

【雑誌編集委員】

西日本皮膚科（編集長）

皮膚科の臨床

Journal of Dermatology (Tokyo)

Journal of Dermatological Science

Modern Medicine

American Journal of Dermatopathology

Melanoma Research

Pigment Cell Research

Herpes

# 退官にあたって

堀 嘉 昭

思い起こせば約10年前のある日、当時、九州大学医学部皮膚科の占部治邦教授から突然のご連絡をいただきお会いしました。用件は九州大学医学部皮膚科教室の立て直しと活性化のために、後任教授候補として立候補して欲しいというものでした。勿論、教授として決まるのは九州大学医学部教授会での選考と投票の結果によるものであり、私自身の立候補はその前段階であることはいうまでもありませんでしたが、立候補するかどうか私には即断できませんでした。

私は当時、山梨医科大学の皮膚科教授に就任して4年、初代教授として優秀な方々にきていただいて教室の基礎を固めていた段階でしたから、私の一存では到底決められる状況ではありませんでした。現山梨医科大学皮膚科教授の島田眞路先生（三代教授、当時山梨医科大皮膚科助教授）に相談したところ、もし九州大学医学部皮膚科教授に決まったとしても、後のことは心配なくてよいから、立候補してはどうかと言ってくれました。また、九州大学医学部皮膚科教室は東京大学医学部の大先輩である旭憲吉初代教授が創設され、皆見省吾二代教授が発展させた教室であることを占部治邦教授が説明されましたし、東京大学医学部皮膚科教室の先輩方からもこの伝統ある教室の教授選考に立候補してはどうかとのご助言をいただきましたので、周囲に反対の声が少なくありませんでしたが、立候補することを決意しました。幸いに、教授に選任され昭和62年10月16日付で九州大学医学部皮膚科学講座の五代教授として着任しました。

私は就任にあたり、いくつかの目標を掲げましたが、それらのうち、特に次の2点を強く打ち出しました。

第一に、皮膚科教室の発展のための長期的展望にたち、やる気のある若手の育成を考えました。そのために積極的に国内外の優れた施設に若くて優秀な教室員を留学、派遣することに努

めました。九州大学医学部の基礎医学教室、九州大学生体防御医学研究所、他大学医学部の基礎医学教室、形成外科の発展のために優れた形成外科の指導者の主宰する国内の施設は勿論、米国をはじめ諸外国の施設での研究留学を積極的におし進めました。大学医学部の臨床教室は教育、診療のみならず、医学の発展のための研究施設でもあるわけで、これらの優れた、やる気のある若手がそれぞれの得意の分野で近い将来、大いに活躍することを期待しています。

第二に、教室員が一丸となれる目標として日本皮膚科学会総会・学術大会の開催に向け努力致しました。学会の主催はどの教室の教室員にとっても苦勞と負担の多いことではありますが、学会の主催により、教室員の診療、研究に対する意欲が高められ、教室に活気が出てくると考えました。幸いに、日本皮膚科学会の会員の皆様、九州大学医学部皮膚科同窓会の皆様及び教室の皆様のご支援、ご協力を得まして平成4年4月に盛会裡に開催することができました。

この間、故樋口謙太郎三代教授をはじめ、教室の多くの先輩の先生方の励ましを受け、心強く感じておりました。

九州大学医学部皮膚科はこの約9年間でそれなりの業績を挙げ、学会での評価を高めることができ、責任を果たせたのではないかと考えておりますが、新任の教授を迎えて益々の発展を期待し、祈念しております。

退官後は麻生飯塚病院（院長）と聖マリアンナ医科大学（客員教授）にお世話になります。これからも尚一層のご指導、ご鞭撻、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、私の九州大学在任中に寄せられた九州大学、日本皮膚科学会、九州大学医学部皮膚科同窓会ならびに皮膚科教室の方々からのご指導、ご鞭撻、ご支援に心より深く感謝申し上げます。厚く御礼致します。

# 業 績 目 録



## 1) 九州大学教授就任前の業績

### 論文

- |     |   |   |   |                          |
|-----|---|---|---|--------------------------|
| 1.  | 堀 嘉昭  | 先天性表皮水疱症(図譜).   | 臨床皮膚泌尿.   | 15 : 650,<br>1961.       |
| 2.  | 堀 嘉昭  | 家族性良性慢性天疱瘡(図譜).   | 臨床皮膚泌尿.   | 15 : 1001,<br>1961.      |
| 3.  | 堀 嘉昭  | 老人性脂腺腫.   | 臨床皮膚泌尿.   | 16 : 1049-1051,<br>1962. |
| 4.  | H. Ishikawa<br>Y. Hori  | Systematisierte Hyalinose in<br>Zusammenhang mit Epidermolysis<br>bullosa polydystrophica und<br>Hyalinosis cutis et mucosae. | Archiv für Klinische<br>und Experimentelle<br>Dermatologie. | 218 : 30-51,<br>1964.    |
| 5.  | 堀 嘉昭  | 母斑細胞母斑の組織培養所見並びに<br>病理発生に関する考察.   | 日皮会誌.   | 75 : 161-194,<br>1965.   |
| 6.  | Y. Hori   | Tissue culture study of nevus<br>cell nevus.  | J Dermatol, Series B.                                       | 75 : 76-88,<br>1965.     |
| 7.  | 堀 嘉昭<br>木下 正子<br>高岩 堯   | アミロイドーシスについて.   | 皮膚臨床.   | 7 : 380-388,<br>1965.    |
| 8.  | 古谷 達孝<br>石原 文之<br>中内 玲子<br>佐々木伸子<br>中内 洋一<br>堀 嘉昭                                     | 内臓癌に基因する各種皮膚病変.   | 皮膚臨床.   | 7 : 792-802,<br>1965.    |
| 9.  | T. Kawamura<br>S. Mori<br>Y. Hori   | On the origin of the nevus cells.   | Giornale Italiano di<br>Dermatologia.                       | 107 : 837-844,<br>1966.  |
| 10. | S.S. Bleehan<br>M.A. Pathak<br>Y. Hori<br>T.B. Fitzpatrick                            | Depigmentation of skin with<br>4-isopropylcatechol, mercapto-<br>amines, and other compounds.                                 | J Invest Dermatol.  | 50 : 103-117,<br>1968.   |
| 11. | T.B. Fitzpatrick<br>G. Szabó<br>Y. Hori<br>A.A. Simone<br>W.B. Reed<br>M.H. Greenberg | White leaf-shaped macules.<br>Earliest visible sign of tuberous<br>sclerosis.   | Arch Dermatol.  | 98 : 1-6,<br>1968.       |
| 12. | Y. Hori<br>K. Toda<br>M.A. Pathak<br>W.H. Clark, Jr.<br>T.B. Fitzpatrick              | A fine-structure study of the<br>human epidermal melanosome<br>complex and its acid phosphatase<br>activity.                  | J Ultrastruct Res.  | 25 : 109-120,<br>1968.   |

- |     |  |  |  |                         |
|-----|--|--|--|-------------------------|
| 13. | H.P. Baden<br>Y. Hori<br>M.A. Pathak<br>H.L. Levy                  | Epidermis in histidinemia.   | Arch Dermatol.   | 100 : 432-435,<br>1969. |
| 14. | T.B. Fitzpatrick<br>堀 嘉昭<br>戸田 浄<br>清寺 眞                           | メラニン1969 : 定義と問題について.  | 日皮会誌.  | 79 : 713-714,<br>1969.  |
| 15. | M.A. Pathak<br>Y. Hori<br>G. Szabó<br>T.B. Fitzpatrick             | The photobiology of melanin pigmentation in human skin.  | Biology of Normal and Abnormal Melanocytes.<br>(T. Kawamura, T.B. Fitzpatrick & M. Seiji ed.)<br>Univ. of Tokyo Press. | pp. 149-169.<br>1971.   |
| 16. | S. Kinebuchi<br>T. Kobori<br>Y. Hori                               | Behavior of melanosomes in melanocytes and keratinocytes of Japanese skin and black hair.      | Biology of Normal and Abnormal Melanocytes.<br>(T. Kawamura, T.B. Fitzpatrick & M. Seiji ed.)<br>Univ. of Tokyo Press. | pp. 195-205.<br>1971.   |
| 17. | 堀 嘉昭   | メラニン色素の生合成と崩壊.   | 北里医学.  | 1 : 82-97,<br>1971.     |
| 18. | 堀 嘉昭<br>木根潤承一  | 皮膚と毛のメラニン.   | 皮膚と美容.   | 3 : 387-398,<br>1971.   |
| 19. | 堀 嘉昭<br>新村 眞人<br>石橋 康正<br>池田 重雄                                    | Malignant hemangioendothelioma.  | 臨床皮膚.  | 25 : 331-339,<br>1971.  |
| 20. | T. Kawamura<br>S. Ikeda<br>Y. Hori<br>H. Obata<br>M. Niimura       | Pigmentary disorders in Asiatics.  | Biology of Normal and Abnormal Melanocytes.<br>(T. Kawamura, T.B. Fitzpatrick & M. Seiji ed.)<br>Univ. of Tokyo Press. | pp. 351-367,<br>1971.   |
| 21. | T.B. Fitzpatrick<br>Y. Hori<br>K. Toda<br>S. Kinebuchi<br>G. Szabó | Mechanism of normal melanin pigmentation and of some pigmentary disorders.                     | Biology of Normal and Abnormal Melanocytes.<br>(T. Kawamura, T.B. Fitzpatrick & M. Seiji ed.)<br>Univ. of Tokyo Press. | pp. 369-401,<br>1971.   |
| 22. | 堀 嘉昭   | 白斑及び白皮症におけるメラノサイト及びメラノソームの電顕的観察.   | 日皮会誌.  | 81 : 310-326,<br>1971.  |
| 23. | Y. Hori  | Ultrastructural observation of epidermal melanocytes and melanosomes in depigmented disorders. | J Dermatol, Series B.  | 81 : 118-119,<br>1971.  |
| 24. | Y. Hori<br>S. Ikeda<br>Y. Torii<br>A. Moro<br>M. Jibiki            | Cytological aspects of human amelanotic melanoma.  | J Dermatol, Series B.  | 81 : 139-146,<br>1971.  |

- |     |  |   |  |                        |
|-----|--|---|--|------------------------|
| 25. | 堀 嘉昭   | 汎発性白皮症における表皮及び毛囊メラノサイトの微細構造.  | 日臨電顕会誌.  | 4 : 19~23,<br>1971.    |
| 26. | 堀 嘉昭   | Partial albinism (Piebaldism).  | 皮膚臨床.  | 14 : 123-130,<br>1972. |
| 27. | 堀 嘉昭   | 薬疹とその治療.  | 臨牀と研究.   | 49 : 177-181,<br>1972. |
| 28. | 堀 嘉昭   | 老人の皮膚腫瘍とその治療.   | 臨牀と研究.   | 50 : 145-153,<br>1973. |
| 29. | 堀 嘉昭   | 皮膚科からみたアミロイドーシス.  | Minophagen Medical Review.   | 18 : 285-301,<br>1973. |
| 30. | 堀 嘉昭<br>下重 孝子  | Hidradenoma papilliferum.   | 皮膚臨床.  | 15 : 別表,<br>1973.      |
| 31. | Y. Hori  | Ultrastructural study of <sup>3</sup> H incorporation from <sup>3</sup> H-DOPA into retinal pigment epithelium of chick embryo.                             | Pigmentation : Its Genesis and Biologic Control. (V. Riley ed.) Appleton-Century-Crofts, New York. | pp. 143-154,<br>1972.  |
| 32. | 西山 茂夫<br>堀 嘉昭<br>村上 通敏<br>宮沢 七郎<br>太田美津子<br>前島 和樹    | Behçet 病と微量金属.  | 西日皮膚,  | 37 : 7-14,<br>1975.    |
| 33. | K. Jimbow<br>T.B. Fitzpatrick<br>G. Szabó<br>Y. Hori | Congenital circumscribed hypomelanosis : A characterization based on electron microscopic study of tuberous sclerosis, nevus depigmentosus, and piebaldism. | J Invest Dermatol.   | 64 : 50-62,<br>1975.   |
| 34. | 堀 嘉昭<br>宮沢 七郎  | Hidradenoma papilliferum.   | 日臨電顕会誌.  | 8 : 205-212,<br>1975.  |
| 35. | 堀 嘉昭<br>宮沢 七郎<br>斉藤 隆三<br>新井 春枝<br>鎌田 直子             | 隆起性皮膚線維肉腫—特に形態的観察とマクロファージ遊走阻止試験.  | 臨床皮膚.  | 29 : 769-776,<br>1975. |
| 36. | 斉藤 隆三<br>鎌田 直子<br>堀 嘉昭                               | いわゆる Weber-Christian 脂肪織炎.  | 臨床皮膚.  | 29 : 9-15,<br>1975.    |
| 37. | 伊藤 直子<br>堀 嘉昭<br>宮沢 七郎                               | 特異な毛細血管拡張を伴うクリオグロプリン血症の1例.  | 皮膚臨床.  | 18 : 101-111,<br>1976. |
| 38. | 新井 春枝<br>伊勢 信子<br>堀 嘉昭<br>五十嵐 孝                      | Nevoid basal cell epithelioma syndrome.   | 皮膚臨床.  | 18 : 503-508,<br>1976. |

39. 堀山手 嘉昭  
伊勢 哲明  
鎌田 信子  
村上 直子  
新井 通敏  
齊藤 春枝  
宮沢 隆三  
宮沢 七郎  
アミロイド沈着を伴ったボーエン病。 皮膚臨床。 18 : 562-570,  
1976.
40. 堀山手 嘉昭  
山手 哲明  
自然消退したボーエン病様病変。 皮膚臨床。 18 : 1067-1072,  
1976.
41. 島田 義昌  
山手 哲明  
竹崎伸 一郎  
宮沢 七郎  
堀 嘉昭  
悪性血管内皮膚細胞腫—その発症機  
序について。 皮膚臨床。 18 : 405-413,  
1976.
42. 堀 嘉昭  
竹崎伸 一郎  
宮沢 七郎  
尿素含有軟膏による角化症の治療と  
走査型電子顕微鏡による観察。 臨床皮膚。 30 : 821-826,  
1976.
43. 新井 春枝  
堀 嘉昭  
ダリエ病の電子顕微鏡的観察。 日皮会誌。 86 : 871-891,  
1976.
44. R. Saito Alopecia in hypothyroidism. Biology and Disease  
Y. Hori of the Hair. pp. 279-285,  
T. Kuribayashi (K. Toda, Y. Ishibashi,  
Y. Hori & F. Morikawa  
ed.) Univ. of Tokyo  
Press. 1976.
45. Y. Hori "Naevus caeruleus tardus" in Pigment Cell, Vol. 2. pp. 273-283,  
S. Miyazawa association with progressive (V. Riley ed.). 1976.  
S. Nishiyama systemic scleroderma. S. Karger, Basel,  
Switzerland.
46. 堀 嘉昭  
新井 春枝  
竹崎伸 一郎  
西山 茂夫  
全身性強皮症に伴う青色斑。 皮膚臨床。 19 : 45-49,  
1977.
47. 堀 嘉昭  
伊勢 信子  
竹崎伸 一郎  
増沢 幹男  
下重 孝子  
鎌田 直子  
村上 通敏  
新井 春枝  
齊藤 隆三  
西山 茂夫  
口腔粘膜の癌について。 皮膚臨床。 19 : 679-686,  
1977.
48. 堀 嘉昭  
宮沢 七郎  
毛孔性紅色秕糠疹 (Devergie) の1  
例—特に異常角化部の超微構造につ  
いて。 臨床皮膚。 31 : 695-700,  
1977.

- |     |   |  |  |                              |
|-----|---|--|--|------------------------------|
| 49. | Y. Hori<br>S. Miyazawa                            | Argyria : Electron microscopy<br>and X-ray microanalysis.                                | J Electron Microsc.                      | 26 : 193-201,<br>1977.       |
| 50. | 堀 嘉昭  | 白皮症.   | 皮膚臨床.                                    | 19 : 1003-1016,<br>1977.     |
| 51. | 堀 嘉昭<br>宮沢 七郎                                     | 悪性血管内皮細胞腫, その微細構造<br>とアルカリフォスファターゼ活性に<br>ついて.  | 日臨電顕会誌.                                  | 10 : 223-233,<br>1977.       |
| 52. | H. Arai<br>Y. Hori                                | An ultrastructural observation<br>of intracytoplasmic desmosomes<br>in Darier's disease. | J Dermatol.                              | 4 : 223-234,<br>1977.        |
| 53. | 堀 嘉昭  | 顔色の異常.   | 臨床栄養.                                    | 51 : 431-435,<br>1977.       |
| 54. | 堀 嘉昭  | 爪の異常.  | 臨床栄養.                                    | 51 : 535-537,<br>1977.       |
| 55. | 堀 嘉昭  | 汎発性黒子症候群.  | 日本臨牀, 1977年春季増<br>刊413号, 症候群             | 788-789,<br>1977.            |
| 56. | 川名 誠司<br>新井 春枝<br>堀 嘉昭                            | Epidermolysis bullosa の2例とそ<br>のビタミンEによる治療.  | 皮膚臨床.                                    | 20 : 111-115,<br>1978.       |
| 57. | 向井 秀樹<br>村上 通敏<br>堀 嘉昭                            | 舌に限局した局所アミロイド腫瘍.   | 皮膚臨床.                                    | 20 : 601-606,<br>1978.       |
| 58. | 上村 仁夫<br>長谷川正次<br>増沢 幹夫<br>竹崎伸一郎<br>齊藤 隆三<br>堀 嘉昭 | 魚鱗癬様皮膚を呈した悪性細網症.   | 臨床皮膚.                                    | 32 : 785-791,<br>1978.       |
| 59. | 堀 嘉昭<br>伊勢 信子                                     | 悪性血管内皮細胞腫.   | 西日皮膚.                                    | 40 : 1128-1132,<br>1978.     |
| 60. | B.W. Berger<br>Y. Hori                            | Multicentric Bowen's disease of<br>the genitalia.  | Arch Dermatol.                           | 114 :<br>1698-1699,<br>1978. |
| 61. | H. Ohtsuka<br>Y. Hori<br>M. Ando                  | Nevus of the little finger with<br>a remarkable nail deformity.                          | J Plast Reconstr<br>Surg.                | 61 : 108-111,<br>1978.       |
| 62. | 石川 哲<br>宮田 幹夫<br>堀 嘉昭<br>宮沢 七郎<br>中野 健司<br>諸星 康雄  | 実験的粘膜, 皮膚, 会陰部, 腸症候<br>群一ペーチェット病モデル実験とし<br>て.  | 厚生省特定疾患ペーチェッ<br>ト病調査研究班, 昭和52<br>年度研究業績. | 81-87,<br>1978.              |

63. 堀 嘉昭 白皮症—病因を中心として. 日臨. 36 : 2386-2387, 1978.
64. 堀 嘉昭 全身性アミロイドーシスの皮膚変化. *Medicina*, 15 : 1579-1581, 1978.
65. 堀 嘉昭 *Nevus depigmentosus*. 皮膚病診療. 1 : 121-124, 1979.
66. 堀 嘉昭 *Partial albinism*. 皮膚病診療. 1 : 129-132, 1979.
67. 堀 嘉昭 血管肉腫 (悪性血管内皮細胞腫) 皮膚病診療. 1 : 503-506, 1979.
68. 神崎 保  
堀 嘉昭 外陰部の黒い小腫瘍. 皮膚病診療. 1 : 529-530, 1979.
69. 堀 嘉昭  
久木田 淳 新生児の色素異常. 周産期医学. 9 : 1199-1204, 1979.
70. M. Seiji  
Y. Hori *Hypomelanotische Haaranomalien* *Haar und Haarkrankheiten*. (C.E. Orfanos ed.). Gustav-Fischer Verlag, Berlin. 467-492, 1979.
71. 都留 紀子  
堀 嘉昭  
石橋 康正  
岡田 吉博  
定 利勝  
長谷川 吉康  
遠藤 久子  
毛利 昇 多発性骨髄腫に伴う全身性アミロイドーシスの1剖検例. 皮膚臨床. 21 : 101-107, 1979.
72. Y. Hori  
S. Takezaki *Spontaneous regression of Bowenoid eruptions of the vulva*. *Proceedings of the XI International Congress of Dermatology, Oct. 1977*. (A. Gonzales-Ochoa, L. Dominguez-Soto & Y. Ortiz ed.). *Excerpta Medica, Amsterdam*. pp. 404-407, 1979.
73. 長谷川正次  
安藤 敏子  
堀 嘉昭  
井上由紀子 全身型PNとSjogren症候群とのoverlapを呈した1例. 皮膚臨床. 21 : 441-444, 1979.
74. Y. Hori  
S. Miyazawa  
S. Nishiyama  
M. Miyata  
S. Ishikawa *Experimental Behçet's disease and ultrastructural X-ray microanalysis of pathological tissues*. *J Dermatol*. 6 : 31-37, 1979.
75. 堀 嘉昭 色素沈着型薬疹. 皮膚病診療. 2 : 45-48, 1980.

- |     |   |   |           |                          |
|-----|---|---|-----------|--------------------------|
| 76. | 堀 嘉昭  | ペブレオマイシン,   | 医薬ジャーナル,  | 16 : 1605-1610,<br>1980. |
| 77. | 堀 嘉昭  | 皮膚アレルギー性血管炎 vs 結節性動脈周囲炎.  | Medicina, | 17 : 2128-2129,<br>1980. |
| 78. | 三代 道子<br>金村 京子<br>茂木富美子<br>関 利仁<br>堀 嘉昭<br>吉村 重華<br>古屋 清一 | 壊疽性膿皮症を伴った潰瘍性大腸炎の1歳女児例.   | 小児外科.     | 12 : 539-547,<br>1980.   |
| 79. | 余 幸司<br>飯島 正文<br>中内 洋一<br>堀 嘉昭                            | 陰囊の丘疹と dyschromatosis 様皮疹を伴った Pringle 病の1例.   | 臨床皮膚.     | 34 : 465-470,<br>1980.   |
| 80. | 中林 康青<br>新村 真人<br>堀 嘉昭                                    | Clear cell syringoma の1例.   | 皮膚臨床.     | 22 : 599-603,<br>1980.   |
| 81. | 長谷川 正次<br>鳥居 ユキ<br>堀 嘉昭                                   | 急性骨髄性白血病に先駆した非定型的有痛性紅斑性皮疹.  | 皮膚臨床.     | 22 : 717-719,<br>1980.   |
| 82. | 関 利仁<br>堀 嘉昭<br>三代 道子<br>茂木富美子<br>古屋 清一                   | 潰瘍性大腸炎を合併した壊疽性膿皮症の女児例.  | 皮膚臨床.     | 22 : 951-955,<br>1980.   |
| 83. | 堀 嘉昭<br>高田 温子   | Zosteriform lentiginous pigmented nevus.  | 臨床皮膚.     | 34 : 921-925,<br>1980.   |
| 84. | 宇野 明彦<br>石原 勝<br>堀 嘉昭                                     | 特異疹を認めた Hodgkin 病の1例.   | 皮膚臨床.     | 22 : 1147-1152,<br>1980. |
| 85. | 関 利仁<br>新村 真人<br>堀 嘉昭                                     | Pseudopyogenic granuloma.   | 皮膚臨床.     | 22 : 1174-1175,<br>1980. |
| 86. | 渡辺 晋一<br>堀 嘉昭<br>小堀 辰治                                    | 特異な臨床像を呈した乳児の mastocytosis の1例.   | 臨床皮膚.     | 34 : 1156-1160,<br>1980. |
| 87. | 島田 眞路<br>川島 眞<br>渡辺 晋一<br>山田 清<br>溝口 昌子<br>堀 嘉昭<br>久木田 淳  | 悪性黒色腫の phase-synchronization に関する基礎的研究<br>I. DTIC による細胞周期の変動ならびに蛍光照射及び紫外線照射による作用の増強 | 日皮会誌.     | 90 : 815-824,<br>1980.   |

88. 島田 眞路 悪性黒色腫の phase-synchroni- 日皮会誌. 90 : 825-831,  
川島 眞 zation に関する基礎的研究 1980.  
渡辺 晋一 II. 各種制癌剤による細胞周期の変  
山田 清 動  
溝口 昌子  
堀 嘉昭  
久木田 淳
89. 島田 眞路 悪性黒色腫の phase-synchroni- 日皮会誌. 90 : 833-841,  
川島 眞 zation に関する基礎的研究 1980.  
渡辺 晋一 III. PUVA による細胞周期の変動  
山田 清  
溝口 昌子  
堀 嘉昭  
久木田 淳
90. S. Hasegawa Suppression of allergic contact J Invest Dermatol. 75 : 284-287,  
B. Baba dermatitis by  $\alpha$ -L-fucose. 1980.  
Y. Hori
91. 堀 嘉昭 チロジナーゼ活性陽性型白皮症動物 日皮会誌. 90 : 987-994,  
宮沢 七郎 モデル (チンチラマウス<sup>c<sup>ch</sup>/c<sup>ch</sup></sup>) の 1980.  
溝口 昌子 毛母メラノサイトのチロジナーゼ活  
性と超微構造.
92. S. Hasegawa Elevated levels of chemotaxis J Dermatol. 7 : 309-315,  
T. Baba inhibitory activity in sera of 1980.  
Y. Koitabashi patients with systemic lupus.  
H. Sonozaki  
Y. Hori  
S. Nishiyama
93. 堀 嘉昭 全身性蕁皮症における色素沈着及び 臨床皮膚. 34 : 1063-1068,  
中林 康青 脱失について. 1980.  
飯島 正文  
土田 哲也  
久木田 淳
94. 堀 嘉昭 Behçet 病について—特に病変部お 細胞. 12 : 562-568,  
よび末梢血好中球の電顕的 X 線微量 1980.  
分析.
95. Y. Hori Melanogenesis of retinal pigment J Electron Microsc. 30 : 8-21,  
H-S. Yu epithelium of chick embryo. 1981.  
M. Miyamoto  
T.B. Fitzpatrick
96. Y. Hori Malignant hemangioendothelioma J Dermatol Surg 7 : 130-136,  
of the skin. Oncol. 1981.
97. 中川 秀己 多発性骨髄腫に合併する全身性アミ 日皮会誌. 91 : 1221-1228,  
都留 紀子 ロイドーシス. 1981.  
堀 嘉昭  
長谷川吉康
98. K. Yamada Ultrastructural studies on pig- J Dermatol. 8 : 367-377,  
A. Matsukawa mented macules of Peutz-Jeghers 1981.  
Y. Hori syndrome.  
A. Kukita



99. Y. Hori  
M. Mizoguchi  
A. Kukita      Mouse model for tyrosinase positive-type oculocutaneous albinism: Tyrosinase activity and ultrastructure of melanocytes.      Pigment Cell, 1981. (M. Seiji ed.) Univ. of Tokyo Press.      pp. 159-165, 1981.
100. H-S. Yu  
M. Iijima  
M. Mizoguchi  
Y. Hori  
Y. Ishibashi  
A. Kukita      Chemical vitiligo caused by parateritary butyl phenol.      Pigment Cell, 1981. (M. Seiji ed.) Univ. of Tokyo Press.      pp. 467-474, 1981.
101. Y. Hori  
T. Kobori      Macular amyloidosis: Clinical and pathological studies.      Biology and Diseases of Dermal Pigmentation. (T.B. Fitzpatrick et al. ed.) Univ. of Tokyo Press.      pp. 299-309, 1981.
102. Y. Hori  
M. Masuzawa  
S. Takezaki  
H. Arai      Spontaneous regression of human malignant melanoma.      J Dermatol.      8 : 69-74, 1981.
103. 堀 嘉昭  
関 利仁  
新村 真人  
久木田 淳      Lentigo maligna melanoma (悪性黒子黒色腫) の顔面発生例について.      皮膚臨床.      23 : 855-861, 1981.
104. M. Mizoguchi  
Y. Ishibashi  
H-S. Yu  
M. Iijima  
Y. Hori  
A. Kukita      Atypical tyrosinase positive albinos.      J Dermatol.      8 : 335-341, 1981.
105. 川島 眞  
堀 嘉昭  
新村 真人  
木内 美南  
門脇 弘子      皮膚腫瘍を初発症状とした小児の皮膚白血病の1例.      皮膚臨床.      23 : 1777-1781, 1981.
106. 窪田 泰夫  
堀 嘉昭      汎発性にみられた糖尿病性脂肪類壊死の1例.      臨床皮膚.      35 : 1117-1124, 1981.
107. 堀 嘉昭      全身性アミロイドーシスの皮膚症状.      皮膚病診療.      3 : 611-614, 1981.
108. A. Kukita  
Y. Hori  
K. Oohara  
M. Kawashima  
K. Takehara      Nevus of Ota.      Biology and Diseases of Dermal Pigmentation (T.B. Fitzpatrick et al. ed.) Univ. of Tokyo Press.      pp. 67-76, 1981.
109. 堀 嘉昭      表皮におけるメラニンの生成: 正常と異常.      日皮会誌.      91 : 1451-1454, 1981.

110.	堀 嘉昭	Waardenburg 症候群.	日臨.	40 : 230-231, 1982.
111.	堀 嘉昭	色素沈着.	内科.	46 : 575-577, 1980.
112.	堀 嘉昭 中川 秀己 都留 紀子	多発性骨髄腫に伴うアミロイド物質 のアミノ酸分析とアミロイドの沈着 の機序について.	昭和56年度文部省科学 研究班アミロイドーシ ス, とくに皮膚アミロ イドーシスの病因, 病 態および治療に関する 研究.	51-53 1982.
113.	堀 嘉昭 中川 秀己 都留 紀子	斑状アミロイドーシスの発症機序に ついて.	昭和56年度文部省科学 研究班アミロイドーシ ス, とくに皮膚アミロ イドーシスの病因, 病 態および治療に関する 研究.	55-57 1982.
114.	堀 嘉昭	皮膚良性および悪性血管内皮細胞腫: 腫瘍細胞細胞膜のアルカリフォスファ ターゼ活性.	細胞.	14 : 143-149, 1982.
115.	Y. Hori M. Niimura K. Oohara A. Kukita	Ultrastructural observations of the extracellular sheath of der- mal melanocytes in the nevus of Ota.	Am J Dermatopathol.	4 : 245-251, 1982.
116.	S. Shimada M. Kawashima S. Watanabe K. Yamada M. Mizoguchi Y. Hori A. Kukita	Cell kinetic studies of the effect of DTIC combined with fluores- cent light or UVA irradiation on human melanoma cell line (SEKI II).	J Dermatol.	9 : 265-270, 1982.
117.	中林 康青 新村 真人 堀 嘉昭	Livedo reticularis with summer ulcerations.	臨床皮膚.	34 : 27-32, 1980.
118.	S. Shimada M. Kawashima S. Watanabe K. Yamada M. Mizoguchi Y. Hori A. Kukita	Cell kinetic studies of the effect of various kinds of chemothera- peutic agents on a human mela- noma cell line (SEKI II).	J Dermatol.	9 : 271-278, 1982.
119.	S. Shimada M. Kawashima S. Watanabe K. Yamada M. Mizoguchi Y. Hori A. Kukita	Cell kinetic studies of the effect of 8-methoxypsoralen with long wave ultraviolet irradiation on human melanoma cell line (SEKI II).	J Dermatol.	9 : 279-289, 1982.
120.	堀 嘉昭	Lentiginosis profusa syndrome (LEOPARD 症候群)	日本臨牀.	40 : 1198-1199, 1982.

- |      |   |  |                               |                         |
|------|---|--|-------------------------------|-------------------------|
| 121. | 竹原 和彦<br>中林 康青<br>井上由紀子<br>堀 嘉昭   | Mixed connective tissue disease.   | 皮膚臨床.                         | 24 : 471-477,<br>1982.  |
| 122. | 堀 嘉昭  | アミロイドと皮膚.  | Geriatric Medicine<br>(老年医学). | 20 : 811-818,<br>1982.  |
| 123. | 窪田 泰夫<br>斉田 俊明<br>堀 嘉昭  | Borrmann IV型胃癌 (スキルス)<br>を原発とした丹毒様癌の1例.  | 皮膚臨床.                         | 24 : 75-79,<br>1982.    |
| 124. | 窪田 泰夫<br>新村 真人<br>堀 嘉昭<br>西本 育夫   | 下垂体腫瘍患者にみられた糖尿病性<br>黄色腫の1例.  | 皮膚臨床.                         | 24 : 171-177,<br>1982.  |
| 125. | 水野 淳子<br>石原 勝<br>宇野 明彦<br>堀 嘉昭  | T cell lymphoma - 自験例ならび<br>に本邦報告例のまとめ.  | 西日皮膚.                         | 44 : 17-24,<br>1982.    |
| 126. | 窪田 泰夫<br>堀 嘉昭   | Pigmentatio reticularis faciei et<br>colli with multiple epithelial<br>cysts.                                      | 皮膚臨床.                         | 24 : 297-304,<br>1982.  |
| 127. | 宇野 明彦<br>新村 真人<br>堀 嘉昭  | 菌状息肉症に合併した<br>normolipemic plane xanthoma.   | 皮膚臨床.                         | 24 : 345-350,<br>1982.  |
| 128. | Y. Hori<br>N. Tsuru<br>M. Niimura   | Bullous Darier's disease.  | Arch Dermatol.                | 118 : 278-279,<br>1982. |
| 129. | 窪田 泰夫<br>堀 嘉昭<br>中川 秀己  | 糖尿病患者にみられた Palmar<br>fibromatosis (Dupuytren) の2例.   | 臨床皮膚.                         | 36 : 595-599,<br>1982.  |
| 130. | T. Saida<br>K. Oohara<br>Y. Hori<br>S. Tsuchiya   | Development of a malignant<br>proliferating trichilemmal cyst<br>in a patient with multiple<br>trichilemmal cysts. | Dermatologica<br>(Basel).     | 166 : 203-208,<br>1983. |
| 131. | 大路 昌孝<br>堀 嘉昭   | Eccrine poroepithelioma.   | 皮膚臨床.                         | 25 : 321-325,<br>1983.  |
| 132. | 鳥田 眞路<br>北鳥 拓弥<br>今野 保敏<br>西脇 宗一<br>土田 哲也<br>堀 嘉昭<br>田苗 綾子<br>江木 晋三<br>山本 通子<br>尾形 悦郎<br>岡野 一年<br>原沢 道美 | Albright hereditary osteody-<br>strophy-pseudohypopara-<br>thyroidism pseudopseudo-<br>poparathyroidism.           | 皮膚臨床.                         | 25 : 891-899,<br>1983.  |

- |      |   |  |                                   |                          |
|------|---|--|-----------------------------------|--------------------------|
| 133. | 堀 嘉昭<br>齐田 俊明   | 若年性黒色腫 juvenile melanoma.  | 皮膚病診療.                            | 5 : 221-224,<br>1983.    |
| 134. | 堀 嘉昭  | 色素脱失症.   | 皮膚病診療.                            | 5 : 595-602,<br>1983.    |
| 135. | 堀 嘉昭  | Partial albinism (piebaldism).   | 皮膚病診療.                            | 5 : 619-622,<br>1983.    |
| 136. | 堀 嘉昭  | Darier's disease.  | 小児内科.                             | 15 : 187,<br>1983.       |
| 137. | 堀 嘉昭  | LEOPARD syndrome.  | 小児内科.                             | 15 : 407-408,<br>1983.   |
| 138. | 石井 晶子<br>齐田 俊明<br>堀 嘉昭<br>小堀 辰治   | Herpetiform pemphigus.   | 皮膚臨床.                             | 25 : 1191-1195,<br>1983. |
| 139. | 鳥田 眞路<br>都留 紀子<br>堀 嘉昭<br>山本 通子<br>尾形 悦郎                                    | 皮膚骨腫を伴った偽性副甲状腺機能低下症の1例.  | 臨床皮膚.                             | 37 : 1121-1123,<br>1983. |
| 140. | 安藤 巖夫<br>齐田 俊明<br>堀 嘉昭  | 亜鉛欠乏症.   | 皮膚病診療.                            | 5 : 1125-1128,<br>1983.  |
| 141. | 堀 嘉昭<br>中川 秀己<br>古江 増隆  | 汎発性強皮症と免疫調節.   | 臨床医.                              | 8 : 2476-2478,<br>1983.  |
| 142. | 堀 嘉昭<br>中川 秀己<br>T.B. Fitzpatrick   | レックリングハウゼン病のカフェ・オ・レ斑にみられた巨大メラニン顆粒の電顕的観察.   | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班, 昭和57年度研究報告書. | 123-130,<br>1983.        |
| 143. | 宇野 明彦<br>堀 嘉昭<br>齐田 俊明<br>関 利仁<br>大原 国章<br>久木田 淳<br>平野 寛                    | ヒト正常皮膚表皮及び悪性上皮性腫瘍におけるレクチン結合部位-ペルオキシダーゼ法による組織化学的検討.                                       | 日皮会誌.                             | 93 : 1021-1026,<br>1983. |
| 144. | 小堀 辰治<br>堀 嘉昭   | ヒトの鼻背に毛があるか.   | 西日皮膚.                             | 45 : 953-957,<br>1982.   |
| 145. | K. Jimbow<br>O. Ishida<br>S. Ito<br>Y. Hori<br>C.J. Witkop, Jr<br>R.A. King | Combined chemical and electron microscopic studies of pheomelanosomes in human red hair. | J Invest Dermatol.                | 81 : 506-511,<br>1983.   |

146. Y. Hori High sulfur content of pheomelanosomes in hair follicles of yellow mouse genotypes. 文部省総合研究(A)報告書,メラニンの物性構造と生体の生理機能への役割. Structure and Functions of Melanin. Vol. 1. pp. 37-42, 1984.
147. 堀 嘉昭 チロジナーゼ活性陽性型全身性白皮症. 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班, 昭和58年度報告書. 154-161, 1984.
148. M. Furue Clear cell syringoma. Am J Dermatopathol. 6 : 131-138, 1984.
149. Y. Hori Acquired, bilateral nevus of M. Kawashima Ota-like macules. J Am Acad Dermatol. 10 : 961-964, 1984.
150. 宇野 明彦 メラニン色素産生細胞におけるレクチン結合部位及び結合様式の検索. 日皮会誌. 94 : 897-905, 1984.
151. 堀 嘉昭 毛母メラノソームの電顕的観察—毛の色による形態的差異について. 日皮会誌. 94 : 1021-1029, 1984.
152. H. Nakagawa The nature and origin of the melanin macroglobule. J Invest Dermatol. 83 : 134-139, 1984.
153. H. Nakagawa Acid phosphatase in melanosome formation : A cytochemical study in normal human melanocytes. J Invest Dermatol. 83 : 140-144, 1984.
154. 窪田 泰夫 Granulocytic sarcoma (myeloblastoma)—腫瘤形成後3年を経て白血化を認めた症例— 臨床皮膚. 38 : 437-442, 1984.
155. Y. Hori Pigmentatio reticularis faciei et colli with multiple epithelial cysts. Arch Dermatol. 121 : 109-111, 1985.
156. 川部美智子 Partial Addison's disease. 皮膚臨床. 27 : 7-10, 1985.

157. 長谷川正次  
宇田川 晃  
宇野 明彦  
中林 康青  
堀 嘉昭  
DNCB 塗布にて軽快した成年性浮腫性硬化症.  
皮膚臨床.  
27 : 511-514,  
1985.
158. 長谷川正次  
川部美智子  
宇田川 晃  
宇野 明彦  
中林 康青  
堀 嘉昭  
Dysplastic nevus の 1 例.  
皮膚臨床.  
27 : 851-854,  
1985.
159. 宇田川 晃  
長谷川正次  
高山 修身  
堀 嘉昭  
小池 憲章  
安水 洗彦  
加藤 順三  
尋常性狼瘡の 1 例.  
皮膚臨床.  
27 : 1020-1021,  
1985.
160. 阿部 善俊  
宇野 明彦  
中林 康青  
堀 嘉昭  
Pruritic urticarial papules and plaques of pregnancy (PUPPP) の 1 例.  
皮膚臨床.  
27 : 1411-1416,  
1985.
161. 齊田 俊明  
川村美保子  
堀 嘉昭  
Dysplastic nevus syndrome (sporadic type).  
皮膚臨床.  
27 : 855-860,  
1985.
162. 堀 嘉昭  
皮膚の前癌病変.  
日医師会誌.  
94 : 423-426,  
1985.
163. 堀 嘉昭  
長谷川正次  
宇野 明彦  
齊田 俊明  
川村美保子  
Dysplastic nevus.  
皮膚病診療.  
7 : 701-704,  
1985.
164. 堀 嘉昭  
漢方治療の実際 : 皮膚疾患.  
内科.  
56 : 882-885,  
1985.
165. 堀 嘉昭  
内分泌疾患に伴う皮膚病変.  
綜合臨牀.  
34 : 2578-2583,  
1985.
166. Y. Hori  
H. Nakagawa  
T.B. Fitzpatrick  
High sulfur content of pheomelanosomes in hair follicles of yellow mouse genotypes.  
Pigment Cell 1985.  
Biological, Molecular and Clinical Aspects of Pigmentation (J. Bagnara et al. ed.) Univ. of Tokyo Press.  
pp. 59-68,  
1985.
167. A. Uno  
Y. Hori  
T. Saida  
Y. Seki  
K. Oohara  
A. Kukita  
Lectin-binding sites and patterns of melanin producing cells.  
Pigment Cell 1985.  
Biological, Molecular and Clinical Aspects of Pigmentation (J. Bagnara et al. ed.) Univ. of Tokyo Press.  
pp. 583-594,  
1985.

- |      |                                 |  |  |                          |
|------|---------------------------------|--|--|--------------------------|
| 168. | A. Uno<br>Y. Hori               | Disturbance of melanosome transfer in pigmented macules of Peutz-Jeghers syndrome. | Brown Melanoderma, Biology and Disease of Epidermal Pigmentation (T.B. Fitzpatrick et al. ed.) Univ. of Tokyo Press. | pp. 173-178,<br>1986.    |
| 169. | 日暮 眞<br>飯島 純夫<br>竹下 達也<br>堀 嘉昭  | 結節性硬化症由来線維芽細胞の細胞遺伝学的検討.  | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班, 昭和60年度報告書.  | 152-155,<br>1986.        |
| 170. | 宇野 明彦<br>堀 嘉昭                   | 汗器官腫におけるレクチン結合様式.  | 日皮会誌.  | 96 : 811-817,<br>1986.   |
| 171. | 堀 嘉昭                            | 内分泌代謝障害と色素異常.  | 皮膚科 Mook 5. 色素異常症 (堀 嘉昭編), 金原出版.   | 37-40,<br>1986.          |
| 172. | 堀 嘉昭                            | 限局性白皮症.  | 皮膚科 Mook 5. 色素異常症 (堀 嘉昭編), 金原出版.   | 45-49,<br>1986.          |
| 173. | 堀 嘉昭<br>川島 眞<br>大原 国章<br>久木田 淳  | 遅発性太田母斑様色素沈着.  | 皮膚科 Mook 5. 色素異常症 (堀 嘉昭編), 金原出版.   | 197-201,<br>1986.        |
| 174. | 中林 康青<br>堀 嘉昭                   | 全身性強皮症における色素沈着と色素脱失.   | 皮膚科 Mook 5. 色素異常症 (堀 嘉昭編), 金原出版.   | 276-281,<br>1986.        |
| 175. | 堀 嘉昭                            | 色素異常.  | 臨床医.   | 12 : 1666-1672,<br>1986. |
| 176. | Y. Hori<br>R. Osada             | Precancerous lesions of the skin.  | Asian Med J.   | 29 : 433-440,<br>1986.   |
| 177. | 宇野 明彦<br>堀 嘉昭                   | 外陰部に好発する皮膚疾患.  | 産婦人科 Mook 36. 婦人・新生児と皮膚疾患 (西山茂夫編), 金原出版.   | 18-27,<br>1986.          |
| 178. | 堀 嘉昭                            | 神経と皮膚.   | 日小児皮会誌.  | 5 : 96-99,<br>1986.      |
| 179. | 堀 嘉昭                            | 現代の漢方治療: 皮膚科疾患.  | 診断と治療.   | 74 : 2376-2380,<br>1986. |
| 180. | 堀 嘉昭                            | 母斑ならびに母斑症.   | 日香粧会誌.   | 10 : 160-173,<br>1986.   |
| 181. | 阿部 善俊<br>宇野 明彦<br>堀 嘉昭<br>多和田眞人 | 黒色表皮腫と卵巣機能異常を伴った A 型インシュリン抵抗性糖尿病.  | 皮膚臨床.  | 28 : 1417-1422,<br>1986. |

- |      |   |  |                                      |                          |
|------|---|--|--------------------------------------|--------------------------|
| 182. | P.S. Birnbaum<br>H.P. Baden<br>B.R. Bromstein<br>H. Nakagawa<br>Y. Hori | Intermittent hair follicle dystrophy.            | J Am Acad Dermatol.                  | 15 : 54-60,<br>1986.     |
| 183. | 宇田川 晃<br>宇野 明彦<br>長谷川正次<br>中林 康青<br>堀 嘉昭<br>赤羽 賢治<br>葉袋 勝               | 日本住血吸虫感染が誘因と考えられた porphyria cutanea tarda の 1 例. | 皮膚臨床.                                | 28 : 719-723,<br>1986.   |
| 184. | 堀 嘉昭<br>阿部 善俊<br>辻 敦敏<br>溝口 昌子  | 腎血管性高血圧症を合併したレックリングハウゼン症について.                    | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班,<br>昭和60年度, 報告書. | 52-57,<br>1986.          |
| 185. | 中林 康青<br>堀 嘉昭   | 強皮症と内臓悪性腫瘍.                                      | 山梨医誌.                                | 1 : 11-16,<br>1986.      |
| 186. | 長田 玲子<br>宇田川 晃<br>高山 修身<br>長谷川正次<br>堀 嘉昭                                | Eosinophilic pustular dermatosis の 1 例.          | 臨床皮膚.                                | 40 : 301-306,<br>1986.   |
| 187. | 堀 嘉昭  | 老人性皮膚瘙癢症.  | 現代医療.                                | 2 : 636-666,<br>1986.    |
| 188. | 長田 玲子<br>堀 嘉昭<br>栗原 淳<br>佐藤 進   | Hermansky-Pudlak 症候群.                            | 皮膚臨床.                                | 28 : 493-500,<br>1986.   |
| 189. | 堀 嘉昭  | 顔面色素異常症.   | 加齢と皮膚(高瀬吉雄他<br>編) 清至書院.              | 439-451,<br>1986.        |
| 190. | 長谷川正次<br>堀 嘉昭<br>向井 秀樹<br>衛藤 光  | liposome 内封入による bleomycin の制癌効果の増強.              | 日皮会誌.                                | 96 : 1619-1625,<br>1986. |
| 191. | 宇野 明彦<br>堀 嘉昭<br>斎田 俊明<br>高田 邦昭   | 汗器官腫瘍におけるレクチン結合様式-ABC 法による組織化学的検討.               | 日皮会誌.                                | 96 : 811-817,<br>1986.   |
| 192. | 阿部 善俊<br>宇野 明彦<br>堀 嘉昭<br>多和田真人   | 黒色表皮腫と卵巣機能異常を伴った A 型インシュリン抵抗性糖尿病.                | 皮膚臨床.                                | 28 : 1417-1422,<br>1986. |



193. 宇田川 晃  
宇野 明彦  
長谷川正次  
中林 康青  
堀 嘉昭  
赤羽 賢浩  
葉袋 勝  
感染が原因と考えられた porphyria cutanea tarda の1例.  
皮膚臨床.  
28 : 719-723,  
1986.
194. 堀 嘉昭  
神経と皮膚.  
日小皮会誌.  
5 : 96-99,  
1986.
195. 堀 嘉昭  
色素異常.  
臨床医.  
12 : 456-462,  
1986.
196. 阿部 善俊  
長田 玲子  
宇田川 晃  
宇野 明彦  
長谷川正次  
高山 修身  
中林 康青  
堀 嘉昭  
森 茂郎  
Cutaneous T-cell lymphoma の1例.  $\beta$ -インターフェロン局注によってNK 活性の著増を認めた症例.  
皮膚のリンフォーマV.  
79-81,  
1986.
197. 堀 嘉昭  
現代の漢方治療, 皮膚科疾患.  
診断と治療.  
75 : 2376-2380,  
1986.
198. 堀 嘉昭  
中林 康青  
長谷川正次  
宇野 明彦  
慢性蕁麻疹に対する十味敗毒湯 (ツムラ) 使用経験.  
皮膚紀要.  
81 : 337-342,  
1986.
199. 宇野 明彦  
堀 嘉昭  
汗器官腫瘍における糖鎖構造の解析.  
日本リディアオリリー  
協会  
昭和63年度年報.  
93-100,  
1986.
200. 宇野 明彦  
阿部 善俊  
宇田川 晃  
堀 嘉昭  
セファランチンによる皮膚原発性アミロイドーシスの治療.  
基礎と臨床.  
28 : 1159-1167,  
1986.
201. G. Imokawa  
Y. Yada  
Y. Hori  
Induction of melanization within hair bulb melanocytes in chin-chilla mutant by melanogenic stimulants.  
Proc Jpn Soc  
Invest Dermatol.  
11 : 91-92,  
1987.
202. A. Uno  
Y. Hori  
T. Saida  
Electron microscopic detection of p97 antigen on cell membranes of human melanoma cell lines.  
J Dermatol.  
14 : 322-325,  
1987.
203. 長田 玲子  
阿部 善俊  
宇野 明彦  
高山 修身  
堀 嘉昭  
赤須 文人  
鼻背部に生じた localized myxedema の1例. (図説)  
皮膚臨床.  
29 : 619-620,  
1987.

204.	長田 玲子 阿部 善俊 宇野 明彦 高山 修身 堀 嘉昭 赤須 文人	鼻背部に生じた localized myxedema の 1 例.	皮膚臨床.	29 : 635-639, 1987.
205.	堀 嘉昭	Phacomatosis の症状と症候.	Clinical Neuroscience.	5 : 1021-1024, 1987.
206.	阿部 善俊 林 暁 宇野 明彦 高山 修身 中林 康青 堀 嘉昭 森 茂郎	γ-インターフェロン全身投与が効果を示した皮膚 T 細胞リンパ腫の 1 例.	皮膚のリンフォーマ VI.	80-83, 1987.
207.	堀 嘉昭	色素脱失症 ; 白斑と白皮症 (albinism).	小児内科.	19 : 16-18, 1987.
208.	荒田 次郎 野波 英一郎 上野 賢一 堀 嘉昭	皮膚細菌感染症の治療.	皮膚臨床.	29 : 1069-1081, 1987.
209.	堀 嘉昭	Waardenburg 症候群.	日臨.	45 : 132, 1987.
210.	堀 嘉昭	かゆみ (痒痒).	Medical Practice.	4 : 16-18, 1987.
211.	堀 嘉昭 塚本 克彦	内臓癌に併発する掌蹠角化症.	医学のあゆみ.	141 : 85, 1987.
212.	堀 嘉昭	慢性蕁麻疹の治療法.	Medical Practice.	4 : 897, 1987.
213.	堀 嘉昭	外皮用薬の軟膏とクリームを使い分け.	Medical Practice.	4 : 1223, 1987.
214.	堀 嘉昭 細谷 律子	皮膚と全身病.	からだの科学.	135 : 22-26, 1987.
215.	宇野 明彦 堀 嘉昭	帯状疱疹に対するケトプロフェンの使用経験.	新薬と臨床.	41-45, 1987.
216.	林 暁 大竹 直人 阿部 善俊 高山 修身 島田 眞路 堀 嘉昭 森 茂郎	魚鱗癬様皮疹を伴った lymphomatoid papulosis の 1 例.	皮膚のリンフォーマ VII.	146-149, 1988.

## 著書

- |     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 1.  | 堀 嘉昭  | パラホルムアルデヒド・グルタールアルデヒド混合固定液.<br><br>平板包埋法.<br><br>飽和醋酸ウラニル水溶液とアセトン混合液による超薄切片の染色. | 電子顕微鏡試料技術集, 誠分堂新光社.<br><br><br><br>302-303, 1970.<br><br>315, 1970.<br><br>335, 1970. |
| 2.  | 堀 嘉昭  | 母斑.   | 今日の治療指針1971, 医学書院. 440-441, 1971.   |
| 3.  | 堀 嘉昭  | 色素沈着症.  | 今日の治療指針1972, 医学書院. 444-445, 1972.   |
| 4.  | 堀 嘉昭  | じんま疹.   | 今日の治療指針1973, 医学書院. 437-438, 1973.   |
| 5.  | 堀 嘉昭  | 掌蹠膿疱症.  | 今日の治療指針1974, 医学書院. 423-424, 1974.   |
| 6.  | 堀 嘉昭  | 尋常性白斑.  | 今日の治療指針1975, 医学書院. 441-442, 1975.   |
| 7.  | 堀 嘉昭  | 色素沈着.   | 今日の治療指針1976, 医学書院. 447-448, 1976.   |
| 8.  | 堀 嘉昭  | アミロイドーシス.   | 皮膚病治療 2 頁の秘訣, 金原出版. 112-113, 1976.  |
| 9.  | K. Toda<br>Y. Ishibashi<br>Y. Hori<br>F. Morikawa | Biology and Disease of the Hair.  | Univ. of Tokyo Press. 1976.   |
| 10. | 堀 嘉昭  | 抗癌剤投与中に起こる皮膚症状.<br>全身疾患および薬剤による皮膚の色素沈着.   | 内科診療 QUESTION & ANSWERS 3, 六法出版. 931-2~931-3, 940-943, 1977.                          |
| 11. | 堀 嘉昭  | 皮膚瘙癢症.  | 薬物療法の実際, 第2版, アサヒメジカル. 798-801, 1978.   |
| 12. | 堀 嘉昭  | Riehl 黒皮症.  | 今日の治療指針1978, 医学書院. 485, 1978.   |
| 13. | 堀 嘉昭  | 扁平苔癬.   | 今日の治療指針1979, 医学書院. 500, 1979.   |
| 14. | 堀 嘉昭  | ポーエン病.  | 老年病診療, 六法出版. 1026-1027, 1980.   |
| 15. | 堀 嘉昭  | 隆起性皮膚線維肉腫.  | 現代皮膚科学大系10, 中山書店. 29-31, 1980.  |
| 16. | 堀 嘉昭<br>中川 秀己                                     | 中毒と皮膚.  | 図説臨床内科講座13, グロビュー社. 60-65, 1980.  |

17.	堀 嘉昭	代謝異常症.	現代の皮膚科学(第1版), 金原出版.	133-145, 1981.
18.	堀 嘉昭	光線による障害, A.全身, B.皮膚.	今日の治療指針1981, 医学書院.	119-120, 1981.
19.	堀 嘉昭	色素性の母斑.	今日の小児治療指針 (第4版), 医学書院.	472-473, 1981.
20.	久木田 淳 堀 嘉昭	巨大色素性母斑.	現代皮膚科学大系11, 中山書店.	51-57, 1982.
21.	堀 嘉昭	悪性黒色腫の自然消褪.	現代皮膚科学大系11, 中山書店.	88-90, 1982.
22.	堀 嘉昭 大原 國章 新村 真人	悪性黒色腫.	臨床腫瘍学, 南江堂.	1053-1062, 1982.
23.	堀 嘉昭	銀皮症.	医学大事典12, 講談社.	12 : 21, 1982.
24.	堀 嘉昭	脂肪腫.	医学大事典20, 講談社.	189-190, 1982.
25.	堀 嘉昭	青色母斑.	医学大事典27, 講談社.	41-42, 1983.
26.	堀 嘉昭	尋常性白斑.	今日の治療指針1983, 医学書院.	606, 1983.
27.	堀 嘉昭	白斑.	医学大事典38, 講談社.	114-116, 1983.
28.	堀 嘉昭	白皮症.	医学大事典38, 講談社.	118-120, 1983.
29.	堀 嘉昭	脱色素性母斑.	現代皮膚科学大系15, 中山書店.	40-44, 1983.
30.	堀 嘉昭	全身性〔汎発性〕白皮症.	現代皮膚科学大系15, 中山書店.	44-55, 1983.
31.	堀 嘉昭	Piebaldism.	現代皮膚科学大系15, 中山書店.	55-60, 1983.
32.	堀 嘉昭	皮膚の異常.	グロービュー社.	1983.
33.	小堀 辰治 堀 嘉昭 戸田 浄	実地皮膚科学.	文光堂.	1984.
34.	堀 嘉昭	皮膚色素異常症.	今日の診断指針, 医学 書院.	58-59, 1985.

35.	堀 嘉昭	皮膚の色素とその異常, 太田母斑, 汎発性黒子症候群, 銀皮症, 白皮, 部分的白皮症.	皮膚科診断治療大系4, 講談社.	10-11, 32, 43, 71, 74-75, 76, 1985.
36.	堀 嘉昭	白皮症.	看護卒後研修セミナー, 皮膚, へるす出版社.	309-311, 1985.
37.	堀 嘉昭	皮膚科用薬.	図説 臨床薬理と基本 治療薬, メジカルビュー 社.	667-682, 1985.
38.	堀 嘉昭	幼小児の脱色素性病変.	皮膚科Q & A, 金原出 版.	116-118, 1985.
39.	堀 嘉昭	神経と皮膚, 内分泌と皮膚.	リフレッシュングシリ ーズ⑤ 皮膚を診る, 南 江堂.	97-107, 114-127, 1985.
40.	堀 嘉昭	皮膚アミロイドーシス.	今日の治療指針1986, 医学書院.	598-599, 1986.
41.	堀 嘉昭	皮膚の構造, 皮膚の機能, 診断法の 基礎, 治療法の基礎.	図説 臨床看護医学9, 同朋舎.	224-237, 1986.
42.	堀 嘉昭	代謝異常症.	現代の皮膚科学 (改訂 第2版), 金原出版.	155-172, 1986.
43.	堀 嘉昭	皮膚色素異常, 多毛と脱毛, 皮脂と 汗の異常.	臨床内分泌学, 朝倉書 店.	62-72, 1986.
44.	A, Uno Y. Hori T. Saida	Electron microscopic detection of p97 antigen on melanoma cell line.	Structure and Function of Melanin, vol.3 Fuji-shoin Co. Ltd Sapporo.	103-108, 1986.
45.	堀 嘉昭	内分泌・代謝障害と色素異常.	皮膚科 Mook. No.5, 色素異常症. 金原出版, 東京.	37-40, 1986.
46.	堀 嘉昭	限局性白皮症.	皮膚科 Mook. No.5, 色素異常症. 金原出版, 東京.	45-49, 1986.
47.	堀 嘉昭 川島 眞 大原 国章 久木田 淳	遅発性太田母斑様色素沈着.	皮膚科 Mook. No.5, 色素異常症. 金原出版, 東京.	197-201, 1986.
48.	堀 嘉昭	顔面色素異常症.	加齢と皮膚. 清本書院, 東京.	439-451, 1986.
49.	中村 康青 堀 嘉昭	全身性強皮症における色素沈着と色 素脱失.	皮膚科 Mook. No.5, 色素異常症, 金原出版, 東京.	276-281, 1986.

- |     |  |  |   |                   |
|-----|--|--|---|-------------------|
| 50. | 宇野 明彦<br>堀 嘉昭  | 外陰部に好発する皮膚疾患.  | 産婦人科 Mook.<br>No.36,<br>婦人・新生児と<br>皮膚疾患.  | 18-27,<br>1986.   |
| 51. | 赤松 功也<br>堀 嘉昭 編  | 整形外科/皮膚科.  | 臨床看護学<br>第9巻.<br>同朋舎, 東京.   | 1986.             |
| 52. | 堀 嘉昭   | 皮膚疾患患者の看護.   | 成人看護学5(第7版),<br>医学書院.   | 333-418,<br>1987. |
| 53. | 堀 嘉昭   | 先天性白皮症.  | 皮膚疾患最新の治療<br>'87~'88, 南江堂.  | 157,<br>1987.     |
| 54. | D.M. Mosher<br>T.B. Fitzpatrick<br>J-P. Ortonne<br>Y. Hori | Disorders of pigmentation.   | Dermatology in<br>General Medicine<br>(3rd edition),<br>McGraw-Hill Inc.<br>New York.   | 794-876,<br>1987. |
| 55. | G. Imokawa<br>Y. Yada<br>Y. Hori                           | Induction of melanization within<br>hair bulb melanocytes in<br>chinchila mutant by melanogenic<br>stimulants.                 | Structure and<br>Function of<br>Melanin. vol.4<br>Fuji-shoin Co. Ltd.<br>Sapporo.   | 60-68,<br>1987.   |
| 56. | T. Saida<br>A. Uno<br>Y. Hori                              | Detection of melanoma associ-<br>ated antigen p97 in human ma-<br>lignant melanoma cell lines by<br>immunoelectron microscopy. | Cellular, Molecular<br>and Genetic<br>Approaches to<br>Immunodiagnosis<br>and Immunotherapy.<br>Univ. of Tokyo<br>Press, Tokyo. | 407-411,<br>1987. |
| 57. | 堀 嘉昭   | 皮膚の色の異常とその病気.  | 皮膚病教室一気になる<br>皮膚病の正しい直し方.<br>同文書院, 東京.  | 197-218,<br>1987. |
| 58. | 堀 嘉昭<br>高山 修身  | 太田母斑と伊藤母斑.   | 皮膚科 Mook 9,<br>母斑, 母斑症.<br>金原出版, 東京.  | 37-46,<br>1987.   |
| 59. | 堀 嘉昭<br>阿部 善俊<br>高山 修身                                     | 菌状息肉腫.   | 皮膚科 Mook 8,<br>皮膚のリンフォーマ.<br>金原出版, 東京.  | 109-121,<br>1987. |
| 60. | 宇野 明彦<br>堀 嘉昭<br>阿部 善俊<br>長谷川正次<br>向井 秀樹<br>衛藤 光           | 接触皮膚炎・アトピー性皮膚炎と皮<br>膚限局性アミロイドーシス.  | アミロイドーシスー皮<br>膚と全身.<br>名古屋大学出版会,<br>名古屋.  | 154-159,<br>1987. |
| 61. | 向井 秀樹<br>神崎 保夫<br>西山 茂夫<br>堀 嘉昭                            | 皮膚限局性と全身性アミロイドーシ<br>スの DACM 染色による相違.   | アミロイドーシスー皮<br>膚と全身.<br>名古屋大学出版会,<br>名古屋.  | 178-182,<br>1987. |

62.	堀 嘉昭	色素異常.	現代病理学大系, 19B, 皮膚Ⅱ 中山書店, 東京.	157-191, 1987.
63.	堀 嘉昭 安藤 巖夫	皮膚科臨床と微量元素.	第22回日本医学会総会 総会誌Ⅰ, 第22回医 学会総会, 東京.	192, 1987.
64.	西山 茂夫 島雄 周平 堀 嘉昭 編	皮膚疾患.	最新の治療 '87-'88, 南江堂, 東京.	1987.
65.	堀 嘉昭	尋常性白斑.	皮膚科治療ハンドブッ ク, 南江堂, 東京.	310-315, 1987.
66.	堀 嘉昭	色素異常.	診断・治療マニュアル. Medical Treatment. 金原出版, 東京.	1424-1427, 1987.
67.	堀 嘉昭	疥癬.	小児疾患の診断治療基 準, 東京医学社, 東京.	756-757, 1987.
68.	堀 嘉昭	色素性母斑と扁平母斑.	今日の小児治療指針. 医学書院, 東京.	561-562, 1987.
69.	堀 嘉昭 斉田 俊明	皮膚.	マニュアル実験組織化 学. 丸善, 東京.	155-165, 1987.
70.	荒尾 龍喜 高島 巖 戸田 浄 堀 嘉昭 岡本暉公彦 編	毛の医学.	文光堂, 東京.	1987.
71.	堀 嘉昭 中川 秀己 川村美保子 H.P. Baden T.B. Fitzpatrick	毛の色とメラニン色素-人種による 相違.	毛の医学, 文光堂, 東京.	148-172, 1987.
72.	堀 嘉昭 荒川 正昭	臨床薬物治療学大系18. 皮膚疾患/泌尿器疾患.	情報開発研究所, 東京.	1987.
73.	堀 嘉昭 細谷 律子	皮膚疾患総論.	臨床薬物治療学大系18. 皮膚疾患/泌尿器疾患. 情報開発研究所, 東京.	3-14, 1987.
74.	堀 嘉昭	プリングル病 (Pringle's disease).	カラーアトラス 皮膚科診療. Question & Answers. 六法出版社, 東京.	146-147, 1987.
75.	堀 嘉昭	レックリングハウゼン病, (Recklinghausen's disease)	カラーアトラス 皮膚科診療. Question & Answers. 六法出版社, 東京.	148-149, 1987.

76. 堀 嘉昭 ポイツ・ジェガース症候群.  
(Peuts-Jeghers syndrome) カラーアトラス  
皮膚科診療.  
Question & Answers.  
六法出版社, 東京. 150-151,  
1987.



## 2) 九州大学教授在任中の業績

### 論文

- |     |   |  |  |                          |
|-----|---|--|--|--------------------------|
| 1   | 今山 修平<br>堀 嘉昭   | 悪性血管内皮細胞腫.   | 日医新報.  | 3357 : 12-15,<br>1988.   |
| 2.  | 堀 嘉昭  | 色素沈着.  | 小児.  | 29 : 1066-1067,<br>1988. |
| 3.  | 堀 嘉昭<br>山田 朗<br>谷崎 泰象<br>師井 洋一<br>福島 幸子<br>久保田由美子<br>清水 信之<br>田部 陽子<br>尾木 兵衛<br>安倍小百合<br>下川 りえ<br>野田 淳子 | 色のつく小腫瘍.   | 日小皮会誌.   | 7 : 71-74,<br>1988.      |
| 4.  | 塚田眞奈美<br>堀 嘉昭<br>高山 修身<br>島田 眞路<br>林 暁  | 帝切後腹壁癒痕下に生じた子宮内膜症の1例.  | 皮膚臨床.  | 30 : 1571-1575,<br>1988. |
| 5.  | 堀 嘉昭  | 色素異常症.   | 日皮会誌.  | 98 : 1321-1323,<br>1988. |
| 6.  | 堀 嘉昭  | 全身性疾患と色素異常.  | 福岡医誌.  | 79 : 862-865,<br>1988.   |
| 7.  | N. Ohtake<br>Y. Hori  | Ultrastructural studies on malignant hemangioendothelioma of the skin.   | J Clin Electron Microsc.   | 21 : 883-884,<br>1988.   |
| 8.  | Y. Hori<br>S. Nishiyama<br>M. Miyata<br>S. Ishikawa   | Toxic mucocutaneous-intestinal syndrome : Experimental Behçet's disease induced by organic chlorine and phosphorous compound administration. | Dermatology in Five Continents. Proceedings of the XVII World Congress of Dermatology. Berlin. | 298-299,<br>1988.        |
| 9.  | 中山樹一郎<br>福島 幸子<br>堀 嘉昭  | プロブコールの乾癬皮疹および血清脂質におよぼす影響.   | 西日皮膚.  | 50 : 945-948,<br>1988.   |
| 10. | 戸田 浄<br>堀 嘉昭<br>中山樹一郎 他   | 円形脱毛症を中心とする各種脱毛症に対するDS-4737の臨床評価.  | 薬理と治療.   | 16 : 4721-4729,<br>1988. |

- |     |  |   |                           |                              |
|-----|--|---|---------------------------|------------------------------|
| 11. | 中山樹一郎<br>和田秀敏<br>尾木兵衛<br>三原公彦<br>堀嘉昭   | 皮膚癌：有棘細胞癌と基底細胞癌。  | 臨床と研究.                    | 66 : 769-776,<br>1989.       |
| 12. | 高山修身<br>内田玲<br>堀嘉昭   | 幼児（3才～5才）1,522名における母斑の統計，山梨県における母斑の調査（その2）。   | 日本リディアオリリー協会<br>昭和63年度年報. | 105-109,<br>1989.            |
| 13. | 内田玲<br>塚本克彦<br>白土基次<br>宇野明彦<br>高山修身<br>島田眞路<br>堀嘉昭   | Acral lentiginous melanoma in situ の2例.   | 臨床皮膚.                     | 43 : 385-389,<br>1989.       |
| 14. | Y. Hori<br>J. Nakayama<br>M. Okamoto<br>S. Nagae<br>S. Taniguchi<br>O. Takayama<br>K. Oohara | Giant congenital nevus and malignant melanoma.  | J Invest Dermatol.        | 92 : 310-314,<br>1989.       |
| 15. | M. Nishimura<br>A. Urabe<br>Y. Hori  | Nature of so-called "matoplasia of apocrine epithelium".<br>Macrophages attack apocrine epithelium.                   | Am J Dermatopathol.       | 11 : 563-569,<br>1989.       |
| 16. | 堀嘉昭  | 色素異常.   | 日医新報.                     | 3401 : 28-31,<br>1989.       |
| 17. | 堀嘉昭  | 内臓疾患に伴う皮膚病変.  | クリニカ.                     | 16 : 445-450,<br>1989.       |
| 18. | 西村正幸<br>占部篤道<br>堀嘉昭  | 腋窩のアポクリン腺癌.   | 皮膚病診療.                    | 11 : 793-796,<br>1989.       |
| 19. | S. Taniguchi<br>M. Inoue<br>J. Nakayama<br>H. Sadano<br>Y. Hori<br>T. Baba                   | Differential expression of smooth muscle $\alpha$ -like actin between benign and malignant human pigment tissues.     | Cancer Lett.              | 47 : 29-36,<br>1989.         |
| 20. | M. Osaki<br>H. Sumimoto<br>K. Takeshige<br>E. J. Cragoe, Jr<br>Y. Hori<br>S. Minakami        | Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> exchange modulates the production of leukotriene B <sub>4</sub> by human neutrophils. | Biochem J.                | 257 : 751-758,<br>1989.      |
| 21. | M. Nishimura<br>M. Mashino<br>T. Suzuki<br>Y. Hori   | Digital arterial occlusions without acral ischemic change as the first manifestation of polycythemia vera.            | Arch Dermatol.            | 125 :<br>1439-1440,<br>1989. |

- |     |  |   |  |                          |
|-----|--|---|--|--------------------------|
| 22. | 堀 嘉昭   | 色素性乾皮症における発癌.   | 臨床検査.  | 33 : 1475-1476,<br>1989. |
| 23. | 堀 嘉昭<br>占部 篤道  | 成人の代謝異常症と皮膚.  | 日小皮会誌.   | 8 : 226-231,<br>1989.    |
| 24. | 堀 嘉昭   | 色素性母斑 (母斑細胞母斑) と類似疾患.   | 小児診療.  | 627-629,<br>1989.        |
| 25. | J. Nakayama<br>R. Higuchi<br>M. Kabemura<br>H. Kiryu<br>A. Takenaka<br>Y. Hori | Hyperthermic effects in vitro on the peripheral lymphocytes isolated from three cases of malignant lymphoma/leukemia. | J Dermatol.  | 16 : 31-36,<br>1989.     |
| 26. | 久保田由美子<br>谷崎 泰象<br>中山樹一郎<br>堀 嘉昭   | 結節性紅斑様皮疹を呈した悪性リンパ腫の一例.  | 皮膚のリンフォーマⅧ.  | 74-77,<br>1989.          |
| 27. | D. C. Moon<br>A. Urabe<br>J. Nakayama<br>Y. Hori                               | Characterization of the mononuclear infiltrates in Bowen's disease and actinic keratosis.                             | Proceedings of 6th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology. | 499-503,<br>1989.        |
| 28. | 田部 陽子<br>中山樹一郎<br>堀 嘉昭<br>堂阪 直子  | rIFN- $\gamma$ が奏効した CTCL.  | 西日皮膚.  | 51 : 796-800,<br>1989.   |
| 29. | 久保田由美子<br>中山樹一郎<br>谷崎 泰象<br>堀 嘉昭   | 局所温熱と放射線併用療法が奏効した結節性紅斑様皮疹を呈した悪性リンパ腫.  | 西日皮膚.  | 51 : 913-919,<br>1989.   |
| 30. | 中山樹一郎<br>山田 朗<br>堀 嘉昭  | ATL 皮膚腫瘍に対する rIFN- $\gamma$ と局所温熱の併用療法を施行した一例.  | 日皮会誌.  | 99 : 907-914,<br>1989.   |
| 31. | 下川 りえ<br>今山 修平<br>堀 嘉昭   | 環状の毛細血管拡張症 (図説).  | 西日皮膚.  | 51 : 215-216,<br>1989.   |
| 32. | J. Noda<br>R. Shimokawa<br>S. Imayama<br>Y. Hori                               | Malignant lymphoma or cytophagic histiocytic panniculitis?  | Proceedings of 6th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology. | 236-241,<br>1989.        |
| 33. | S. Imayama<br>A. Iriki<br>H. Hashimoto<br>Y. Hori                              | Spindel cell hemangioendothelioma : A case report.  | Proceedings of 6th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology. | 589-593,<br>1989.        |
| 34. | 田代 研児<br>野田 淳子<br>桐生 美磨<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                                       | Solid cystic hidradenoma の 1 例.   | 日皮病理組織会誌.  | 5 : 32-35,<br>1989.      |

- |     |   |  |                     |                          |
|-----|---|--|---------------------|--------------------------|
| 35. | 堀 嘉昭  | 薬疹の病型分類と発症頻度.  | 臨床と薬物治療.            | 9 : 29-33,<br>1990.      |
| 36. | 占部 篤道<br>吉家 弘<br>桐生 美麿<br>堀 嘉昭  | 爪甲下悪性黒色腫の早期病変.   | 皮膚病診療.              | 12 : 123-126,<br>1990.   |
| 37. | 桐生 美麿<br>堀 嘉昭   | Desmoplastic malignant melanoma.   | 皮膚病診療.              | 12 : 131-134,<br>1990.   |
| 38. | S. Hayashi<br>Y. Kubota<br>S. Shimada<br>Y. Hori                                | Characterization of cultured neurofibroma cells derived from von Recklinghausen's disease.   | Clin Exp Dermatol.  | 15 : 217-221,<br>1990.   |
| 39. | A. Urabe<br>A. Matsukuma<br>N. Shimizu<br>M. Nishimura<br>H. Wada<br>Y. Hori    | Extramammary Paget's disease : Comparative histopathologic studies of intraductal carcinoma of the breast and apocrine adenocarcinoma. | J Cutaneous Pathol. | 17 : 257-265,<br>1990.   |
| 40. | 占部 篤道<br>堀 嘉昭   | 表皮水疱症, 神経皮膚症候群.  | 総合臨.                | 39 : 476-481,<br>1990.   |
| 41. | M. Nishimura<br>Y. Hori   | Late-onset neurofibromas developed in a patient with psoriasis vulgaris during PUVA treatment.   | Arch Dermatol.      | 126 : 541-542,<br>1990.  |
| 42. | 堀 嘉昭  | 皮膚色素異常.  | 総合臨.                | 39 : 1112-1117,<br>1990. |
| 43. | H. Miyahara<br>S. Imayama<br>T. Hashizume<br>M. Takeishi<br>Y. Hori<br>H. Kohda | Two cases of pilomatrix carcinoma.   | J Dermatol.         | 17 : 322-325,<br>1990.   |
| 44. | 本房 昭三<br>堀 嘉昭   | 皮膚病変の診察法.  | 臨床医.                | 16 : 967-978,<br>1990.   |
| 45. | H. Teshima<br>H. Kihara<br>T. Nakagawa<br>Y. Hori                               | Effective therapy with low dose of oral cyclosporine A and prednisolone for alopecia universalis.                                      | アレルギー.              | 39 : 714-717,<br>1990.   |
| 46. | M. Nishimura<br>T. Matsuda<br>M. Muto<br>Y. Hori                                | Balanitis of Zoon.   | Int J Dermatol.     | 29 : 421-423,<br>1990.   |
| 47. | 占部 和敬<br>堀 嘉昭   | 色素異常.  | 老化と疾患.              | 3 : 83-91,<br>1990.      |
| 48. | 安元慎一郎<br>堀 嘉昭   | 皮膚疾患.  | 小児臨床.               | 43 : 2841-2851,<br>1990. |

49. A. Urabe J. Nakayama S. Taniguchi M. Inoue Y. Hori Expression of the *fos* oncogene in B16 melanoma cells exhibiting different metastatic abilities. J Dermatol Sci. 1 : 455-458, 1990.
50. 武田 克之 堀 嘉昭 他 0.1% depamethasone 17, 21-dipropionate 外用剤の難治性皮膚疾患に対する臨床効果の検討。臨床医薬。 6 : 1015-1026, 1990.
51. 井上 光世 中山樹一郎 堀 嘉昭 神経線維腫における血管増殖。 Biomedica. 5 : 579-581, 1990.
52. 中林 康青 宇田川 晃 堀 嘉昭 疣贅状表皮発育異常症の Etretinate (チガソン®) による治療。皮膚臨床。 32 : 31-34, 1990.
53. 堀 嘉昭 悪性黒色腫の増加 (Editorial)。皮膚病診療。 12 : 103, 1990.
54. 永江祥之介 堀 嘉昭 TV-02 ( $1\alpha, 24-(OH)_2D_3$ ) 軟膏の臨床的検討—乾癬および角化症—。西日皮膚。 52 : 97-101, 1990.
55. 安元慎一郎 堀 嘉昭 皮膚・軟部組織感染症に対するシプロフロキサシンの臨床効果。西日皮膚。 52 : 572-576, 1990.
56. 堀 嘉昭 代謝異常症における皮膚症状。日臨皮医学会誌。 24 : 9-14, 1990.
57. 寺尾 浩 中山樹一郎 占部 篤道 堀 嘉昭 D. C. Moon 慢性放射線皮膚炎およびそれより発生した有棘細胞癌における浸潤細胞の免疫組織化学的検討。西日皮膚。 52 : 1154-1158, 1990.
58. 片山真里子 中山樹一郎 堂阪 直子 堀 嘉昭 T細胞受容体及び免疫グロブリン両遺伝子の再構成がみられた悪性リンパ腫の一例。皮膚のリンフォーマIX。 118-121, 1990.
59. 小野まり子 永江祥之介 井上 光世 中山樹一郎 堀 嘉昭 落葉状天疱瘡—落葉状天疱瘡抗原の解析を含めて—。西日皮膚。 52 : 8-11, 1990.
60. 中山樹一郎 尾木 兵衛 堀 嘉昭 矢幡 敬 安田 勝 倉員 正俊 山野 龍文 化膿性爪囲炎を伴う陥入爪及びその他の皮膚感染症におけるスルペラゾン局所投与療法の経験。西日皮膚。 52 : 360-364, 1990.
61. 師井 洋一 今山 修平 堀 嘉昭 松本 正 Congenital total lipodystrophy。西日皮膚。 52 : 25-29, 1990.

- |     |   |   |              |                          |
|-----|---|---|--------------|--------------------------|
| 62. | 福島 幸子<br>今山 修平<br>堀 嘉昭  | アセトヘキサミドによる角質下膿疱<br>症様薬疹.                             | 西日皮膚.        | 52 : 691-695,<br>1990.   |
| 63. | 田部 陽子<br>今山 修平<br>堀 嘉昭  | 皮膚症状を伴った hypereosinophilic<br>syndrome の 2 例.         | 西日皮膚.        | 52 : 896-900,<br>1990.   |
| 64. | 白石 卓<br>村上 義之<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                                    | Spindle cell<br>hemangioendothelioma (図説).            | 西日皮膚.        | 52 : 1101-1102,<br>1990. |
| 65. | 白石 卓<br>村上 義之<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                                    | Spindle cell<br>hemangioendothelioma.                 | 西日皮膚.        | 52 : 1141-1144,<br>1990. |
| 66. | 久保田由美子<br>占部 篤道<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                                  | 小児の dermatofibrosarcoma<br>protuberans.               | 西日皮膚.        | 52 : 1145-1149,<br>1990. |
| 67. | 白石 卓<br>村上 義之<br>田代 研児<br>桐生 美磨<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                  | Spindle cell<br>hemangioendothelioma の一例.             | 日皮病理組織会誌.    | 6 : 114-117,<br>1990.    |
| 68. | 下川 りえ<br>清水 信之<br>安部小百合<br>今山 修平<br>和田 秀敏<br>堀 嘉昭                 | 下肢の有棘細胞癌の治療と予後.                                       | Skin Cancer. | 5 : 153-157,<br>1990.    |
| 69. | 棚橋 朋子<br>今山 修平<br>堀 嘉昭  | Necrotizing fasciitis.                                | 西日皮膚.        | 52 : 449-456,<br>1990.   |
| 70. | 片山眞里子<br>占部 篤道<br>桐生 美磨<br>堀 嘉昭<br>磯田美登里                          | Cellular neurothekeoma.                               | 西日皮膚.        | 52 : 879-880,<br>1990.   |
| 71. | 安元慎一郎<br>堀 嘉昭   | アシクロビル200mg錠による単純疱<br>疹の治療.                           | 西日皮膚.        | 52 : 105-110,<br>1990.   |
| 72. | 中山樹一郎<br>松本 忠彦<br>桐生 美磨<br>堀 嘉昭<br>矢幡 敬<br>和田 恭子<br>上田 説子<br>原 幸子 | 尋常性瘰癧, 浅在性毛包炎に対する<br>Norfloxacin の維持量投与による再<br>発予防効果. | 西日皮膚.        | 52 : 1239-1245,<br>1990. |

- |     |   |   |                           |                         |
|-----|---|---|---------------------------|-------------------------|
| 73. | 九州地区<br>NI-009研究班<br>(堀 嘉昭<br>中山樹一郎<br>桐生美磨<br>他)         | ヨウ素-デキストリンポリマー<br>(NI-009)の難治性皮膚潰瘍に対す<br>る治療効果.   | 西日皮膚.                     | 52 : 351-359,<br>1990.  |
| 74. | 中山樹一郎<br>占部 篤道<br>堀 嘉昭                                    | 皮膚癌.  | 臨床と研究.                    | 68 : 101-104,<br>1991.  |
| 75. | 堀 嘉昭<br>中山樹一郎   | 成人型T細胞リンパ腫 (ATL).   | Digest Dermatol.          | 3 : 3,<br>1991.         |
| 76. | N. Nishimura<br>S. Noda<br>H. Kojima<br>Y. Hori           | Effects of oral administration<br>of 1,25(OH) <sub>2</sub> D <sub>3</sub> on<br>immunophenotypic expression<br>of spleen lymphocytes in mice<br>infected with schistosoma<br>mansoni. | Jpn J Parasitol.          | 40 : 137-141,<br>1991.  |
| 77. | 田代 研児<br>中山樹一郎<br>寺尾 浩<br>永江祥之介<br>菊池 昌弘<br>大島 孝一<br>堀 嘉昭 | Ki-1リンパ腫.   | 臨床皮膚.                     | 45 : 25-29,<br>1991.    |
| 78. | S. Imayama<br>H. Fukuda<br>Y. Hori                        | Drug eruptions following treat-<br>ment with prodrugs : A review<br>of the reported cases in Japan<br>from 1984 to 1989.  | J Dermatol.               | 18 : 277-280,<br>1991.  |
| 79. | 本房 昭三<br>堀 嘉昭<br>利谷 昭治<br>旭 正一                            | 1989, 1990年度の福岡県油症年次検<br>診における皮膚症状.   | 福岡医誌.                     | 82 : 345-350,<br>1991.  |
| 80. | M. Nishimura<br>K. Kimata<br>N. Hayashi<br>Y. Hori        | Tumorological characterization<br>of granuloma extracellular<br>matrix in mice infected with<br>schistosoma mansoni.  | Acta Dermatol.<br>(Kyoto) | 86 : 201-205,<br>1991.  |
| 81. | M. Nishimura<br>Y. Hori                                   | Adamantinoid basal cell carci-<br>noma. An Ultrastructural study.   | Arch Pathol<br>Lab Med.   | 115 : 624-626,<br>1991. |
| 82. | 安元慎一郎<br>棚橋 朋子<br>堀 嘉昭                                    | アトピー性皮膚炎に併発した水疱<br>(図説).  | 西日皮膚.                     | 53 : 459-460,<br>1991.  |
| 83. | 西村 正幸<br>堀 嘉昭   | Adamantinoid basal cell<br>carcinoma (図説).  | 西日皮膚.                     | 53 : 461-462,<br>1991.  |
| 84. | 西村 正幸<br>堀 嘉昭   | Adamantinoid basal cell<br>carcinoma.   | 西日皮膚.                     | 53 : 509-511,<br>1991.  |
| 85. | 西村 正幸<br>堀 嘉昭   | 第二期頸症梅毒 (図説).   | 西日皮膚.                     | 10 : 1-2,<br>1991.      |

86. 堀 嘉昭 各科診療に役立つ皮膚病変の知識。 大分医学, 10 : 6-9,  
西村 正幸 I. 他臓器疾患に伴う皮膚病変。 1991.
87. 堀 嘉昭 各科診療に役立つ皮膚病変の知識。 大分医学, 10 : 10-13,  
西村 正幸 II. 全身性系統的疾患における皮膚 1991.  
病変。
88. 西村 正幸 丘疹性梅毒疹。 大分医学, 10 : 63-64,  
堀 嘉昭 1991.
89. 西村 正幸 梅毒性脱毛症。 大分医学, 10 : 65-66,  
堀 嘉昭 1991.
90. 西村 正幸 インドメサシンが著効を示した好酸 大分医学, 10 : 107-108,  
堀 嘉昭 球性膿疱性毛包炎。 1991.
91. 西村 正幸 限局性皮膚型（固形型）スポロトリ 大分医学, 10 : 109-110,  
堀 嘉昭 コーシス。 1991.
92. 堀 嘉昭 皮膚科領域における pigmentation 大分医学, 2 : 1-22,  
の問題。 1991.
93. 堀 嘉昭 妊婦によくみられる皮膚疾患。 産婦人科治療, 63 : 32-36,  
西村 正幸 1991.
94. 西村 正幸 温熱治療。 皮膚臨床, 33 : 1125-1127,  
堀 嘉昭 1991.
95. 帆足眞理子 Cowden 病。 皮膚病診療, 13 : 637-644,  
今山 修平 堀 嘉昭 1991.
96. 高橋 久 浅在性化膿性皮膚疾患に対する 大分医学, 39 : 648-669,  
堀 嘉昭 sparfloxacin と anoxacin との二 1991.  
今山 修平 重盲検比較試験成績。
97. 西村 正幸 培養系における尋常性乾癬の病変部 西日皮膚, 53 : 751-754,  
神宮 政男 皮膚および末梢血単球の Tumor 1991.  
延永 正 Necrosis Factor 分泌活性。  
堀 嘉昭
98. 西村 正幸 尋常性乾癬患者末梢血単球の 西日皮膚, 53 : 755-761,  
神宮 政男 Interleukin-1 $\alpha$ , Interleukin-1 $\beta$  1991.  
延永 正 および Interleukin-6 分泌活性。  
堀 嘉昭
99. M. Takanashi Distribution of epithelial 大分医学, 183 : 187-190,  
A. Urabe membrane antigen in eccrine 1991.  
J. Nakayama poroma.  
Y. Hori
100. A. Urabe Increased binding sites of 大分医学, 1 : 61-64,  
J. Nakayama dansylated cyclosporin A in 1991.  
H. Terao psoriatic epidermis grafted onto  
Y. Hori nude mice during cyclosporin A  
treatment.
101. 堀 嘉昭 限局性真皮メラノサイトーシス。 日香粧会誌, 15 : 161-162,  
1991.



102. 本房 昭三 外用性真菌剤 Bifonazole の白癬に 西日皮膚. 53 : 1061-1065,  
安元慎一郎 対する臨床効果. 1991.  
桐生 美麿  
占部 和敬  
堀 嘉昭  
占部 治邦  
矢幡 敬  
和田 恭子  
佐藤 恵実子
103. 堀 嘉昭 頭部, 顔面の皮膚感染症. 毛髪美容会誌. 4 : 23-27,  
1991.
104. 武田 克之 老人性乾皮症に対する鎮痒剤配合尿 臨床医薬. 7 : 2849-2863,  
堀 嘉昭 素ローション剤 (ND-4) の比較臨 1991.  
他 床試験.
105. 占部 和敬 NK 細胞活性の低下を認めた水痘の 皮膚臨床. 33 : 1851-1855,  
安元慎一郎 1 例. 1991.  
久保田由美子  
堀 嘉昭
106. 西村 正幸 肺小細胞癌の皮膚転移 (図説). 大分医学. 10 : 115-116,  
古川 康二 1991.  
大津 達也  
堀 嘉昭
107. 高梨 真教 Tuberosus sclerosis の 日皮会誌. 101 : 601-608,  
中山樹一郎 angiofibroma 血管系における 1991.  
井上 光世  $\alpha$ -actin と basic fibroblast  
占部 篤道 growth factor 発現の検討.  
堀 嘉昭
108. A. Urabe Malignant granular cell tumor. J Dermatol. 18 : 161-166,  
S. Imayama 1991.  
S. Yasumoto  
J. Nakayama  
Y. Hori
109. 中山樹一郎 特集—がん早期診断とスクリーニン グ早期診断のポイント. 皮膚がん. 臨床と研究. 68 : 101-104,  
占部 篤道 1991.  
堀 嘉昭
110. H. Terao A Case of Ki-1 lymphoma with Lymphoma of the 97-101,  
J. Nakayama nodules on the face. Skin. X 1991.  
K. Tashiro  
S. Yasumoto  
M. Kikuchi  
Y. Hori
111. 中山樹一郎 遅発性両側性太田母斑様色素斑. 皮膚病診療. 13 : 1129-1131,  
占部 篤道 1991.  
堀 嘉昭
112. J. Nakayama Leukotriene B4 in patients with Proceedings of 388-397,  
H. Kiryu atopic dermatitis and other skin 7th Korea-Japan 1991.  
Y. Hori diseases : Changes by an Joint Meeting of  
anti-allergic agent, azelastine Dermatology.  
hydrochloride.

113. 片山眞里子 免疫グロブリン遺伝子及びT細胞受  
中山樹一郎 容体遺伝子の再構成がみられた原発  
堀 嘉昭 性マクログロブリン血症.  
堂阪 直子 西日皮膚. 53 : 15-20,  
1991.
114. 尾木 兵衛 インターロイキン2の全身及び胸腔  
中山樹一郎 内投与を試みた悪性血管内皮細胞腫.  
師井 洋一 西日皮膚. 53 : 276-283,  
堀 嘉昭 1991.  
矢野篤次郎  
石田 照佳
115. 中山樹一郎 重症の乾癬に対するシクロスポリン・  
占部 和敬 ソフトゼラチンカプセルの臨床効果.  
野田 啓史 西日皮膚. 53 : 591-596,  
帆足眞里子 1991.  
堀 嘉昭
116. 中山樹一郎 Azelastine Hydrochloride (アゼパ  
桐生 美麿 チン®) のアトピー性皮膚炎に対す  
堀 嘉昭 る臨床効果と血中ロイコトリエンB  
4値との相関性. 西日皮膚. 53 : 852-858,  
1991.
117. 中山樹一郎 Alclometasone 17,21-Dipropionate  
堀 嘉昭 軟膏 (アルメタ®軟膏) の乾癬治療  
における有用性の検討. 西日皮膚. 53 : 1246-1251,  
1991.
118. 村上 義之 Stewart-Treves 症候群 - 放射線療  
中山樹一郎 法及びBRM療法の併用による治療  
永江祥之介 経験一.  
今山 修平 西日皮膚. 53 : 1168-1173,  
堀 嘉昭 1991.
119. 今山 修平 ステロイド外用による皮膚蒼白化反  
宮原 裕子 応の研究.  
八島 豊 西日皮膚. 53 : 290-301,  
入来 敦 1991.  
橋爪 民子  
堀 嘉昭
120. 高梨 真教 Epithelial membrane antigen  
占部 篤道 陽性所見を呈した eccrine  
古村 南夫 porocarcinoma.  
今山 修平 西日皮膚. 53 : 41-45,  
堀 嘉昭 1991.
121. 安部小百合 先天性 Horner 症候群の姉妹例.  
今山 修平 西日皮膚. 53 : 713-718,  
堀 嘉昭 1991.  
坂本 亘司  
高比良健市
122. 田代 研児 Epithelioid Sarcoma の1例.  
竹内 実 日皮病理組織会誌. 7 : 70-73,  
今山 修平 1991.  
占部 和敬  
永江祥之介  
桐生 美麿  
堀 嘉昭

123. M. Nishimura Mucha-Haberman disease resolves Int J Dermatol. 30 : 896-897,  
T. Matsuda after tonsilectomy. 1991.  
Y. Hori
124. Y. Murakami Factor Xllla expression in J Dermatol. 18 : 661-666,  
S. Nagae pseudo-Kaposi sarcoma. 1991.  
Y. Hori
125. シクロスポリン シクロスポリンの乾癬に対する臨床 西日皮膚. 53 : 118-129,  
皮膚科研究会 シクロスポリンの乾癬に対する臨床 評価-多施設用量比較検討試験-. 1991.  
(大河原章  
堀 嘉昭  
久保田由美子  
他)
126. シクロスポリン シクロスポリンの乾癬に対する臨床 臨床医薬. 7 : 617-633,  
皮膚科研究会 シクロスポリンの乾癬に対する臨床 効果-多施設二重盲検試験-. 1991.  
(大河原章  
堀 嘉昭  
中山樹一郎  
他)
127. 秋山 尚範 皮膚科領域における cefepime の基 Chemotherapy. 39 : 332-337,  
堀 嘉昭 礎的・臨床的検討. 1991.  
中山樹一郎  
他
128. S. Imayama Differential localization of Exp Dermatol. 1 : 134-140,  
M. Furumura ICAM-1 and HLA-DR expression 1992.  
Y. Hori on epidermal basal surface in  
mycosis fungoides and lichenoid  
reaction.
129. 今山 修平 アトピー性皮膚炎患者の多元性の検 西日皮膚. 54 : 80-86,  
宮原 裕子 討(1) 1992.  
橋爪 民子 -ダニ抗原に対するパッチテストと  
棚橋 朋子 特異的血中 IgE 値の解析による患者  
久保田由美子 分析の試み-.  
古賀 哲也  
堀 嘉昭  
武石 正昭  
福田 英三
130. S. Imayama Spindle cell hemangioendothelioma Am J Clin 97 : 279-287,  
Y. Murakami exhibits the ultrastructural Pathol. 1992.  
H. Hashimoto features of reactive vascular  
Y. Hori proliferation rather than of  
angiosarcoma.
131. Y. Kubota Reduction of environmental J Dermatol. 19 : 177-180,  
S. Imayama mites improved atopic 1992.  
Y. Hori dermatitis patients with  
positive mite-patch tests.
132. 田代 研児 類上皮肉腫 (epithelioid sarcoma) 西日皮膚. 54 : 217-218,  
今山 修平 (図説). 1992.  
永江祥之介  
堀 嘉昭  
竹内 実

- |      |  |   |                       |                          |
|------|--|---|-----------------------|--------------------------|
| 133. | 田代 研児<br>今山 修平<br>永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 類上皮肉腫.  | 西日皮膚.                 | 54 : 255-260,<br>1992.   |
| 134. | K. Tsukamoto<br>A. Uno<br>Y. Kubota<br>S. Shimada<br>Y. Hori<br>G. Imokawa | Role of asparagine-linked carbohydrates in pulmonary metastasis of B16-F10 murine melanoma cells ; Implication through glycosylation inhibition by nojirimycin. | Melanoma Res.         | 2 : 33-39,<br>1992.      |
| 135. | 新村 眞人<br>石橋 康正<br>西川 武二<br>川島 眞<br>本田まりこ<br>安野 洋一<br>堀 嘉昭<br>山西 弘一<br>石井 淳 | 単純ヘルペスウイルス感染症に対するアシクロビル軟膏(5%)のプラセボ対照比較試験.   | 臨床皮膚.                 | 46 : 489-498,<br>1992.   |
| 136. | 古賀 哲也<br>今山 修平<br>橋爪 民子<br>古村 南夫<br>今福 信一<br>堀 嘉昭                          | 金製剤の薬疹におけるアレルギー機序の関与.   | 西日皮膚.                 | 54 : 513-519,<br>1992.   |
| 137. | 田代 研児<br>今山 修平<br>野田 淳子<br>堀 嘉昭<br>大島 孝一<br>竹下 盛重<br>菊池 昌弘                 | Cytophagic histiocytic panniculitis.  | 西日皮膚.                 | 54 : 437-442,<br>1992.   |
| 138. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 母斑の鑑別とその治療.   | Jpn J Neonatal Care.  | 5 : 571-575,<br>1992.    |
| 139. | H. Teshima<br>A. Urabe<br>M. Irie<br>T. Nakagawa<br>J. Nakayama<br>Y. Hori | Alopecia universalis treated with oral cyclosporine A and prednisolone : Immunologic studies.   | Int J Dermatol.       | 31 : 513-516,<br>1992.   |
| 140. | 古賀 哲也<br>松田 哲男<br>堀 嘉昭<br>石崎 宏<br>松本 忠彦                                    | 金接触性皮膚炎患者における末梢血単核球のトリコフィチン刺激による Interferon- $\gamma$ 産生.   | 真菌誌.                  | 33 : 521-524,<br>1992.   |
| 141. | S. Imayama<br>Y. Yashima<br>Y. Hori  | Differing cell surface distribution of human leukocyte antigen-DR molecules on epidermal Langerhans cells and eccrine duct cells.                               | J Histochem Cytochem. | 40 : 1191-1196,<br>1992. |

142. A. Urabe Identification of a cell layer  
M. Furumura containing  $\alpha$ -smooth muscle  
S. Imayama actin in the connective tissue  
J. Nakayama sheath of human anagen hair.  
Y. Hori Arch Dermatol Res. 284 : 246-249,  
1992.
143. S. Imayama Combination of patch test and  
T. Hashizume IgE for dust mite antigens  
H. Miyahara differentiates 130 patients with  
T. Tanahashi atopic dermatitis into four  
M. Takeishi groups.  
Y. Kubota  
T. Koga  
Y. Hori  
H. Fukuda J Am Acad Dermatol. 27 : 531-538,  
1992.
144. 古賀 哲也 脱毛.  
堀 嘉昭 臨床成人病. 22 : 138-139,  
1992.
145. T. Hashizume Scanning electron microscopic  
S. Imayama study on dendritic cells and  
Y. Hori fibroblasts in connective tissue. J Electron Microsc. 41 : 434-437,  
1992.
146. A. Urabe Expression of the *c-fos* oncogene  
J. Nakayama in chemically-induced mouse  
S. Taniguchi tumours and in human skin  
H. Terao tumours.  
Y. Hori J Pathol. 168 : 281-286,  
1992.
147. M. Hoashi An AIDS patient with atopic  
S. Imayama dermatitis-like eruption  
Y. Hori responsive to systemic antifungal  
S. Kashiwagi treatment. J Dermatol. 19 : 972-975,  
1992.
148. J. Nakayama Responses of B16 melanoma  
Y. Moroi cell lines, F1 and F10, to  
A. Toshitani hyperthermia, lymphokine-  
S. Taniguchi activated killer cells and a  
M. Inoue combination of both *in vitro*.  
Y. Hori Br J Dermatol. 126 : 131-136,  
1992.
149. H. Terao Immunohistochemical character-  
J. Nakayama ization of cellular infiltrates in  
A. Urabe squamous cell carcinoma and  
Y. Hori Bowen's diseases occuring in one  
patient. J Dermatol. 19 : 408-413,  
1992.
150. D.C. Moon Immunohistochemical character-  
J. Nakayama ization of cellular infiltrates in  
A. Urabe epidermal tumors induced by  
H. Terao two-stage and complete chemical  
Y. Hori carcinogenesis in mouse skin. J Dermatol. 19 : 146-152,  
1992.
151. K. Urabe In situ hybridization for the  
J. Nakayama analysis of *fos* oncogene in  
A. Urabe melanoma cells.  
S. Taniguchi  
Y. Hori Pigment Cell Res. 2 : 191-192,  
1992.

152. 中山樹一郎 堀 嘉昭 エトレチナートによる乾癬患者末梢血リンパ球サブセットの変動. 西日皮膚. 54 : 500-506, 1992.
153. S. J. Lee D. C. Moon K. S. Kwon T. A. Chung A. Urabe J. Nakayama Y. Hori Immunohistochemical study on the mononuclear infiltrates in Bowen's disease, actinic keratosis and squamous cell carcinoma. 釜山医大誌. 32 : 285-289, 1992.
154. 久保田由美子 中山樹一郎 占部 篤道 井上 光世 堀 嘉昭 神経線維腫における塩基性線維芽細胞増殖因子の局在に関する免疫組織化学的検討. 日皮会誌. 102 : 1249-1253, 1992.
155. 田代 研児 中山樹一郎 永江祥之介 桐生 美麿 菊池 昌弘 堀 嘉昭 Generalized cutaneous B-cell pseudolymphoma の 1 例. 皮膚のリンフォーマ XI. 194-197, 1992.
156. 片山眞里子 今福 信一 今山 修平 中山樹一郎 堀 嘉昭 Proteus syndrome (図説). 西日皮膚. 54 : 1065-1066, 1992.
157. 谷崎 泰象 中山樹一郎 堀 嘉昭 松本 忠彦 Rud 症候群. 西日皮膚. 54 : 247-250, 1992.
158. 片山眞里子 今福 信一 今山 修平 中山樹一郎 堀 嘉昭 足底に典型的な疣状腫瘤を呈したプロテウス症候群の二例. 西日皮膚. 54 : 1067-1073, 1992.
159. 棚橋 朋子 今山 修平 宮原 裕子 橋爪 民子 久保田由美子 古賀 哲也 堀 嘉昭 武石 正昭 福田 英三 アトピー性皮膚炎患者の多元・多様性の検討 (2) ダニ抗原に対するアレルギー反応の検出 (パッチテスト, 血中特異 IgE 値, リンパ球刺激試験の比較検討). 西日皮膚. 54 : 741-746, 1992.
160. 久保田由美子 今山 修平 橋爪 民子 宮原 裕子 棚橋 朋子 古賀 哲也 堀 嘉昭 アトピー性皮膚炎患者家族におけるダニ抗原量の検討. 西日皮膚. 54 : 1111-1117, 1992.

- |      |   |   |                   |                          |
|------|---|---|-------------------|--------------------------|
| 161. | 今山 修平<br>久保田由美子<br>古賀 哲也<br>宮原 裕子<br>橋爪 民子<br>棚橋 朋子<br>堀 嘉昭 | 重症アトピー性皮膚炎患者のサイクロスポリン治療：臨床効果と作用機序の検討。                           | 西日皮膚.             | 54 : 1141-1147,<br>1992. |
| 162. | 久保田由美子<br>今山 修平<br>三原 公彦<br>安元慎一郎<br>村上 義之<br>堀 嘉昭<br>宇座 達也 | Kaposi's sarcoma (図説).  | 西日皮膚.             | 54 : 427-428,<br>1992.   |
| 163. | 久保田由美子<br>今山 修平<br>三原 公彦<br>安元慎一郎<br>村上 義之<br>堀 嘉昭<br>宇座 達也 | Kaposi 肉腫.  | 西日皮膚.             | 54 : 429-433,<br>1992.   |
| 164. | 久保田由美子<br>壁村まゆみ<br>今山 修平<br>本房 昭三<br>堀 嘉昭                   | 尋常性乾癬の治療経過中に皮膚悪性腫瘍を合併した3例.                                      | 皮膚.               | 34 : 152-156,<br>1992.   |
| 165. | S. Imayama<br>H. Hashimoto<br>Y. Hori                       | The non-neoplastic nature of spindle cell hemangioendothelioma. | Am J Clin Pathol. | 98 : 545-546,<br>1992.   |
| 166. | 帆足眞理子<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                                      | 抗真菌剤により改善した AIDS 患者のアトピー性皮膚炎様皮疹.                                | 皮膚.               | 34 : 99-100,<br>1992.    |
| 167. | 桐生 美麿<br>堀 嘉昭<br>安田 勝<br>佐藤恵美子<br>吉利 優子<br>占部 篤道            | 湿疹・皮膚炎群，円形脱毛症に対する THS-101L の有用性の検討.                             | 西日皮膚.             | 54 : 779-783,<br>1992.   |
| 168. | 高橋 久<br>安元慎一郎<br>永江祥之介<br>松本 忠彦<br>堀 嘉昭<br>他                | Levofloxacin の皮膚科領域感染症に対する臨床的検討.                                | Chemotherapy.     | 40 : 286-305,<br>1992.   |
| 169. | 太田 浩平<br>安元慎一郎<br>永江祥之介<br>堀 嘉昭                             | 単純性疱疹の合併により植皮片の脱落をきたした小児熱傷例.                                    | 西日皮膚.             | 54 : 1095-1097,<br>1992. |
| 170. | 棚橋 朋子<br>堀 嘉昭   | 紫外線の生体への応用.   | バイオ電磁工学とその応用.     | 288-297,<br>1992.        |

171. 堀 嘉昭 臨床医学の展望：皮膚科学。 日医新報。 3358 : 44-53, 1992.
172. Y. Kubota Secretion of IL-2, IL-4, and IFN- $\gamma$  J Dermatol. 20 : 85-87, 1993.  
T. Koga for dust mite antigens in a patient  
S. Imayama with atopic dermatitis.  
Y. Hori
173. T. Koga Interferon- $\gamma$  and interleukin-2 Br J Dermatol. 128 : 227-229, 1993.  
S. Imayama production by peripheral blood  
T. Hashizume mononuclear cells from a patient  
Y. Hori with gold contact allergy.
174. 安元慎一郎 成人型アトピー性皮膚炎患者の血清 西日皮膚。 55 : 71-77, 1993.  
中山樹一郎 中サイトカイン値-ケトチフェンに  
占部 篤道 よる治療前後の変動について-。  
堀 嘉昭
175. 中山樹一郎 多施設における成人型アトピー性皮膚 西日皮膚。 55 : 133-140, 1993.  
安元慎一郎 炎に対するケトチフェン (ザジテン®) の臨床効果の検討-血清中の  
占部 篤道 サイトカイン値および皮膚での好酸  
松田 哲男 球脱顆粒タンパクの沈着パターン  
永江祥之介 の変化を含めて-。  
堀 嘉昭  
武石 正昭  
日高 桂子  
矢幡 敬  
陣内 恭子  
佐藤恵実子  
原 幸子  
安田 勝  
水田 良子  
村山 実  
旭 正一  
嘉多山直人  
吉利 優子  
澁 曠二  
野間 建
176. 古賀 哲也 ビタミンH (ビオチン)。 臨床と研究。 70 : 85-87, 1993.  
堀 嘉昭
177. 古賀 哲也 骨接合用金属によるニッケル皮膚炎 臨床皮膚科。 47 : 439-442, 1993.  
今山 修平 患者末梢血単核球のサイトカイン産  
堀 嘉昭 生。
178. M. Nishimura Topical 1 $\alpha$ , 24(R)-dihydroxy- Eur J Dermatol. 3 : 255-261, 1993.  
Y. Hori vitamin D<sub>3</sub> for the treatment  
S. Nishiyama of psoriasis. Review of the  
Y. Nakamizo literature.
179. M. Furumura Three neonatal cases of J Am Acad Dermatol. 28 : 859-861, 1993.  
S. Imayama epidermolysis bullosa  
Y. Hori herpetiformis (Dowling-Meara type) with severe erosive skin lesions.



180. H. Miyahara S. Imayama Y. Hori H. Suzuki Cellular mechanisms of the steroid-induced vascular responses in the rabbit ear artery. Gen Pharmac. 24 : 1151-1162, 1993.
181. T. Koga H. Ishizaki T. Matsuda Y. Hori *In vitro* release of interferon- $\gamma$  by peripheral blood mononuclear cells of patients with dermatophytosis in response to stimulation with trichophytin. Br J Dermatol. 128 : 703-704, 1993.
182. 桐生 美麿 安元慎一郎 堀 嘉昭 S-1108 の皮膚化膿性疾患に対する治療効果. Chemotherapy. 41 : 887-889, 1993.
183. T. Koga H. Ishizaki T. Matsumoto Y. Hori Cytokine production of peripheral blood mononuclear cells in a dermatophytosis patient in response to stimulation with trichophytin. J Dermatol. 20 : 441-443, 1993.
184. 宮原 裕子 今山 修平 古賀 哲也 棚橋 朋子 堀 嘉昭 塩酸セフォチアムにより生じた接触蕁麻疹症候群. 皮膚臨床. 35 : 1441-1444, 1993.
185. 安元慎一郎 永江祥之介 堀 嘉昭 皮膚科領域における loracarbef の臨床的検討. Chemotherapy. 41 : 691-693, 1993.
186. 中山樹一郎 古賀 哲也 入来 敦実 竹内 実 桐生 美麿 堀 嘉昭 安田 勝 水田 良子 野中由紀子 武石 正昭 日高 桂子 佐藤 恵実子 矢幡 敬 陣内 恭子 淵 曠二 占部 篤道 野田 淳子 野間 建 急性接触皮膚炎に対する Clobetasol Propionate (デルモベート®) 外用剤の臨床的検討. 西日皮膚. 55 : 797-802, 1993.
187. 石橋 康正 新村 真人 西川 武二 中嶋 弘 溝口 昌子 堀 嘉昭 古江 増隆 遺伝子組換えヒト型 bFGF (KCB-1) の各種皮膚潰瘍に対する臨床的有用性の検討. 臨床医薬. 9 : 2553-2570, 1993.

188. M. Nishimura  
S. Noda  
H. Nojima  
Y. Hori  
Suppressive effects of oral  
administration of  $1\alpha$  (OH) $D_3$   
on the development of egg  
granulomas in mice infected with  
*Schistosoma mansoni*.  
Acta  
Dermatol.  
(Kyoto)  
88 : 403-405,  
1993.
189. 古賀 哲也  
堀 嘉昭  
石崎 宏  
松本 忠彦  
皮膚疾患におけるサイトカイン産生  
(I)  
—白癬菌感染患者末梢血単核球のト  
リコフィチン刺激によるサイトカイン  
産生—  
西日皮膚.  
55 : 1037-1039,  
1993.
190. 古賀 哲也  
今山 修平  
堀 嘉昭  
皮膚疾患におけるサイトカイン産生  
(II)  
—アレルギー性接触皮膚炎患者にお  
ける末梢血単核球のサイトカイン産  
生—  
西日皮膚.  
55 : 1040-1042,  
1993.
191. 利谷 昭人  
堀 嘉昭  
老人の外来診療：皮膚疾患.  
臨牀と研究.  
70 : 3830-3837,  
1993.
192. 飯田 隆雄  
平川 博仙  
松枝 隆彦  
中川 礼子  
森田 邦正  
常盤 寛  
辻 博  
中山樹一郎  
堀 嘉昭  
油症患者における米ぬか繊維と  
コレステラミンの併用投与による  
Polychlorinated Dibenzofurans  
(PCDFs) の糞便中へ排泄促進の試  
み.  
福岡医誌.  
84 : 257-262,  
1993.
193. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
利谷 昭治  
旭 正一  
1991・1992年度の福岡県油症年次検  
診における皮膚症状.  
福岡医誌.  
84 : 294-299,  
1993.
194. J. Nakayama  
A. Urabe  
H. Terao  
S. Taniguchi  
Y. Hori  
*In situ* detection of  
immunocompetent cells in  
murine B16 melanoma locally  
treated with interleukin-2  
or microwaval hyperthermia.  
Pigment Cell  
Res.  
6 : 111-116,  
1993.
195. J. Nakayama  
A. Toshitani  
T. Hattori  
Y. Moroi  
Y. Hori  
Augmentation of *in vitro*  
cytolytic activity of LAK cells  
with heated ATL-derived cell  
line.  
J Dermatol.  
20 : 457-465,  
1993.
196. J. Nakayama  
K. Toyofuku  
A. Urabe  
S. Taniguchi  
Y. Hori  
A combined therapeutic modality  
with hyperthermia and locally  
administered rIFN- $\beta$  inhibited the  
growth of B16 melanoma in  
association with the modulation  
of cellular infiltrates.  
J Dermatol Sci.  
6 : 240-246,  
1993.
197. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
ステージの進んだ悪性黒色腫の治療  
に関する臨床的及び基礎的研究.  
いずみ.  
40 : 20-21,  
1993.

198. 中山樹一郎  
田代 研児  
堀 嘉昭  
Ki-1リンパ腫治療のアプローチ：化学療法の適否について。  
皮膚のリンフォーマXL  
13,  
1993.
199. 今福 信一  
田代 研児  
中山樹一郎  
菊池 昌弘  
堀 嘉昭  
皮疹の新生と消退を繰り返す Ki-1 Lymphoma の1例。  
皮膚のリンフォーマXL  
92-95,  
1993.
200. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
臨床医学の最近の進歩—薬剤師のための臨床科別の動向—。  
日薬会誌。  
45 : 1463-1467,  
1993.
201. M. Takeuchi  
J. Nakayama  
S. Nagae  
M. Hamada  
Y. Hori  
H. Mayumi  
K. Shiraishi  
Y. Yasui  
K. Matsuda  
S. Takahashi  
H. Kiryu  
A case of metastatic malignant melanoma of the leg treated with hyperthermic limb perfusion.  
Proceedings of  
8th Japan-Korea  
Joint Meeting of  
Dermatology.  
525-529,  
1993
202. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
篠崎 博嗣  
吉原 政弘  
MRSA 感染症を合併した褥瘡に対するユーパスタコーワの臨床的有用性の検討。  
西日皮膚。  
55 : 533-541,  
1993.
203. 吉田 純  
中山樹一郎  
清水 信之  
永江祥之介  
堀 嘉昭  
IFN- $\beta$  及び IL-2 併用化学療法を行った進行期上顎部悪性黒色腫。  
西日皮膚。  
55 : 43-46,  
1993.
204. T. Koga  
S. Imayama  
T. Hashizume  
Y. Hori  
Gold-stimulated production of granulocyte/macrophage colony-stimulating factor by peripheral blood mononuclear cells from a patient with gold contact dermatitis.  
Contact  
Dermatitis.  
28 : 303-304,  
1993.
205. 今山 修平  
桐生 美磨  
堀 嘉昭  
乳幼児期発症型および遅発型 Xanthogranuloma の組織学的比較。  
西日皮膚。  
55 : 61-65,  
1993.
206. H. Miyahara  
T. Koga  
S. Imayama  
Y. Hori  
Occupational contact urticaria syndrome from cefotiam hydrochloride.  
Contact  
Dermatitis.  
29 : 210-211,  
1993.
207. 竹下 弘道  
今山 修平  
田代 研児  
堀 嘉昭  
褐色斑を呈した皮膚形質細胞増多症。  
皮膚病診療。  
15 : 795-798,  
1993.

208. S. Imayama  
Y. Kubota  
T. Koga  
Y. Hori  
Chronic contact dermatitis for airborne mite antigens hidden in atopic dermatitis patients. Proceedings of 8th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology. 210-213, 1993.
209. 荒田 次郎  
堀 嘉昭  
桐生 美麿  
安元慎一郎  
他  
浅在性化膿性疾患に対する cefditoren pivoxil と cefaclor との二重盲検比較試験成績. Chemotherapy. 41 : 57-77, 1993.
210. 荒田 次郎  
堀 嘉昭  
桐生 美麿  
安元慎一郎  
他  
皮膚科領域における cefditoren pivoxil 第三相試験成績. Chemotherapy. 41 : 211-226, 1993.
211. 安元慎一郎  
堀 嘉昭  
点滴静注用アラセナーAの帯状疱疹に対する臨床的およびウイルス学的効果. 西日皮膚. 55 : 991-994, 1993.
212. 田代 研児  
中山樹一郎  
永江祥之介  
桐生 美麿  
菊池 昌弘  
堀 嘉昭  
B-cell pseudolymphoma の1例. 皮膚のリンフォーマXII. 194-197, 1993.
213. 増田 禎一  
永江祥之介  
吉田 純  
村上 義之  
野田 淳子  
清水 信之  
堀 嘉昭  
中原 昌作  
萱島 孝二  
和田 秀敏  
肛囲 Paget 病の2例. 西日皮膚. 55 : 35-38, 1993.
214. 清水 信之  
堀 嘉昭  
上田 説子  
皮膚科疾患—母斑の治療—. 小児臨床. 46 : 169-174, 1993.
215. 堀 嘉昭  
他  
臨床医学の展望：皮膚科学. 日医新報. 3590 : 10-19, 1993.
216. K. Urabe  
S. Yasumoto  
M. Nishimura  
Y. Hori  
Koposi's varicelliform eruption complicating psoriatic erythroderma under PUVA-therapy. Detection of Herpes Simplex Virus type I DNA by polymerase chain reaction. Eur J Dermatol. 4 : 40-41, 1994.
217. T. Koga  
H. Ishizaki  
T. Matsumoto  
Y. Hori  
*In vitro* release of granulocyte/macrophage colony stimulating factor by peripheral blood mononuclear cells of dermatophytosis patients in response to stimulation with trichophytin. Clin Exp Dermatol. 19 : 94-95, 1994.

218. M. Nishimura An improved method for DNA Modern Pathol. 7 : 253-256,  
K. S. Kwon diagnosis of leprosy using 1994.  
K. Shibuta formaldehyde-fixed, paraffin-  
Y. Yoshikawa embedded skin biopsies.  
C-K. Oh  
T. Suzuki  
T-A. Chung  
Y. Hori
219. 利谷 昭人 マウスB16メラノーマの実験的転移 西日皮膚. 56 : 86-92,  
中山樹一郎 に対する宿主の防御機構 : H-2脱落 1994.  
堀 嘉昭 変異株を用いた解析.
220. S. Imayama Ultraviolet-B irradiation deforms J Dermatol 7 : 32-38,  
K. Nakamura the configuration of elastic Sci. 1994.  
M. Takeuchi fibers during the induction of  
Y. Hori actinic elastosis in rats.  
Y. Takema  
Y. Sakaino  
G. Imokawa
221. 永江祥之介 巨大色素性母斑. 皮膚病診療. 16 : 243-246,  
堀 嘉昭 1994.
222. 中尾 知子 静脈瘤症候群. 皮膚病診療. 16 : 339-342,  
永江祥之介 堀 嘉昭 1994.
223. 松田 哲男 ファンギフローラ Y による真菌の染色. 臨床皮膚. 48 : 99-103,  
濱田 学 堀 嘉昭 1994.  
太田 浩平  
堀 嘉昭  
松本 忠彦
224. M. Furumura Epidermolysis bullosa Arch Dermatol 286 : 233-241,  
S. Imayama herpetiformis (Dowling-Meara Res. 1994.  
Y. Hori type) exhibits ultrastructural  
derangement of tonofilaments  
and desmosomes.
225. 太田 浩平 顔面白癬. 皮膚臨床. 36 : 1023-1026,  
松田 哲男 堀 嘉昭 1994.  
堀 嘉昭  
松本 忠彦
226. 古村 南夫 太田母斑, 後天性真皮メラノサイトー 皮膚臨床. 36 : 945-950,  
高梨 真教 シス. 堀 嘉昭 1994.  
大森喜太郎  
堀 嘉昭
227. 中山樹一郎 悪性黒色腫と接着分子 病理と臨床. 12 : 813-817,  
永江祥之介 -ICAM-1 の発現とその意義-. 堀 嘉昭 1994.  
竹内 実  
堀 嘉昭
228. A. Urabe Expression of the *fos* oncogene in J Dermatol Sci. 8 : 50-53,  
J. Nakayama basal cell carcinoma. 堀 嘉昭 1994.  
S. Taniguchi  
R. Kuroki  
Y. Hori

229. S. Imayama Y. Shimozono M. Hoashi S. Yasumoto S. Ohta K. Yoneyama Y. Hori Reduced secretion of IgA to skin surface of patients with atopic dermatitis. J Allergy Clin Immunol. 94 : 195-200,
230. 古賀 哲也 今山 修平 堀 嘉昭 薬剤刺激によってIFN- $\gamma$ 産生がみられた固定薬疹. 西日皮膚. 56 : 716-718, 1994.
231. T. Koga S. Imayama Y. Hori Cytokine production of peripheral blood mononuclear cells, in response to stimulation with allergen, as an aid to the diagnosis of contact sensitivity. Contact Dermatitis. 31 : 202, 1994.
232. J. Nakayama T. Tsuchida K. Toyofuku R. Shimokawa-Kuroki S. Taniguchi Y. Hori Different sensitivities of the murine melanomas BL-6 and BL-6 $\beta$ m to local injections of interleukin-2 (IL-2). Analysis of gangliosides after the treatment. Melanoma Res. 4 : 297-302, 1994.
233. K. Toyofuku S. Imayama S. Yasumoto H. Kiryu Y. Hori Clinical and immunohistochemical studies of skin eruptions : Relationship to administration of interferon- $\alpha$ . J Dermatol. 21 : 732-737, 1994.
234. T. Koga T. Matsuda K. Ohta H. Ishizaki T. Matsumoto Y. Hori Cytokine production of peripheral blood mononuclear cells in a patient with sporotrichosis in response to stimulation with sporotrichin. Acta Dermato-Venereol. (Stockh) 74 : 328, 1994.
235. 豊福 一朋 竹内 実 今山 修平 堀 嘉昭 三村 和郎 小林 邦久 谷口 晋 発疹性黄色腫. 西日皮膚. 56 : 959-963, 1994.
236. 豊福 一朋 中山樹一郎 太田 浩平 國場 尚志 竹内 実 永江祥之介 井上 裕章 富田 吉信 河田 賢治 小宮山莊太郎 堀 嘉昭 インターロイキン-2持続動注, 放射線療法および温熱療法を併用した悪性血管内皮細胞腫の1例. 日皮会誌. 104 : 1441-1446, 1994.

237. 堀 嘉昭 皮膚悪性腫瘍：診断と治療の展望。 日皮会誌。 104 : 1479-1487, 1994.  
 中山樹一郎  
 今山 修平  
 永江祥之介  
 井上 光世  
 占部 篤道  
 利谷 昭人  
 師井 洋一  
 黒木 りえ  
 豊福 一朋  
 國場 尚志  
 鳥巢 仁枝  
 谷口俊一郎  
 貞野 宏之  
 安達 洋祐  
 森 正樹  
 杉町 圭藏
238. J. Nakayama Hyperthermic isolated limb perfusion with intra-arterial administration of carboplatin and/or interferon- $\beta$  for the treatment of malignant melanoma of the leg. J Dermatol. 21 : 915-922, 1994.  
 M. Takeuchi  
 H. Mayumi  
 S. Nagae  
 K. Matsuda  
 H. Yasui  
 S. Takahashi  
 Y. Hori
239. S. Yasumoto Ultraviolet-B irradiation alters cytokine production by immune lymphocytes in herpes simplex virus-infected mice. J Dermatol Sci. 8 : 218-223, 1994.  
 Y. Moroi  
 T. Koga  
 I. Kawamura  
 M. Mitsuyama  
 Y. Hori
240. 豊福 一朋 悪性黒色腫に対するインターフェロン $\beta$ 局注療法と局所温熱療法の併用療法に関する基礎的検討と臨床応用。 日皮会誌。 104 : 1729-1736, 1994.  
 中山樹一郎  
 堀 嘉昭
241. M. Takeuchi The localization of lipopolysaccharide in an endotoxemic rat liver and its relation to sinusoidal thrombogenesis : Light and electron microscopic studies. Path Res Pract. 190 : 1123-1133, 1994.  
 Y. Nakashima  
 Y. Miura  
 K. Nakagawa  
 K. Uragoh  
 S. Iwanaga  
 Y. Hori  
 K. Sueishi
242. 利谷 昭人 悪性黒色腫様外観を呈した eccrine poroma (図説)。 西日皮膚。 56 : 1-2, 1994.  
 大畑 力  
 占部 篤道  
 今山 修平  
 堀 嘉昭
243. 堀 嘉昭 後天性色素異常症。 Dermatology Today. 4 : 1-8, 1994.  
 古村 南夫  
 今山 修平
244. 中山樹一郎 下肢の悪性黒色腫に対する温熱灌流療法。 Molecular Medicine. 31 : 460-461, 1994.  
 竹内 実  
 堀 嘉昭

- |      |  |   |                |                          |
|------|--|---|----------------|--------------------------|
| 245. | 吉田彦太郎<br>大河原 章<br>石橋 康正<br>原田昭太郎<br>今村 貞夫<br>山本 昇壯<br>堀 嘉昭<br>田代 正昭<br>小川 暢也 | セチリジンの慢性蕁麻疹に対する至<br>適量の検討.  | 基礎と臨床.         | 28 : 2107-2129,<br>1994. |
| 246. | 古賀 哲也<br>堀 嘉昭  | 蕁麻疹の漢方治療.   | 現代東洋医学.        | 15 : 362-365,<br>1994.   |
| 247. | 古賀 哲也<br>永江祥之介<br>今山 修平<br>堀 嘉昭  | 女子外陰部限局性汗管腫 (図説).   | 西日皮膚.          | 56 : 673-674,<br>1994.   |
| 248. | 石橋 康正<br>原田昭太郎<br>新村 真人<br>今村 貞夫<br>山本 昇壯<br>堀 嘉昭<br>吉田彦太郎                   | KG-2413 (フマル酸エメダスチン)<br>の湿疹・皮膚炎群・痒疹群および皮<br>膚瘙痒症に対する一般臨床試験.   | 臨床医薬.          | 10 : 1919-1935,<br>1994. |
| 249. | 荒田 次郎<br>堀 嘉昭<br>松田 哲男<br>他  | 皮膚科領域における FK037 の基礎<br>的・臨床的検討.   | Chemotherapy.  | 42 : 375-382,<br>1994.   |
| 250. | 近藤 啓文<br>森 俊二<br>堀 嘉昭<br>柏崎 禎夫<br>狩野 庄吾<br>田代 正昭                             | 膠原病に伴う皮膚潰瘍に対するシロ<br>スタゾールの有用性.  | 炎症.            | 14 : 537-547,<br>1994.   |
| 251. | J. Nakayama<br>A. Urabe<br>H. Terao<br>D. C. Moon<br>Y. Hori<br>N. Kinoshita | Effects of Krestin (PSK) on<br>tumorigenesis induced by<br>two-stage and complete chemical<br>carcinogenesis.                     | J Dermatol.    | 21 : 5-13,<br>1994.      |
| 252. | J. Nakayama<br>A. Urabe<br>K. Toyofuku<br>S. Taniguchi<br>Y. Hori            | Suppression of murine melanoma<br>growth with a combination of<br>microwave hyperthermia and<br>local injection of interleukin 2. | Br J Dermatol. | 130 : 717-724,<br>1994.  |
| 253. | 中山樹一郎<br>占部 篤道<br>太田 浩平<br>堀 嘉昭  | 神経線維腫における癌遺伝子 c-fos<br>と塩基性線維芽細胞増殖因子の発現<br>についての検討.   | 西日皮膚.          | 56 : 262-266,<br>1994.   |



254. 中山樹一郎 von Recklinghausen 病の神経線維腫より抽出した塩基性線維芽細胞増殖因子活性による培養神経線維腫細胞の癌遺伝子 c-fos 発現の検討。 西日皮膚。 56 : 1000-1006, 1994.  
太田 浩平  
占部 篤道  
黒木 りえ  
國場 尚志  
井上 光世  
堀 嘉昭
255. 濱田 学 紫外線と皮膚悪性腫瘍発症との関連性に関する統計学的検討。 西日皮膚。 56 : 1028-1034, 1994.  
中山樹一郎  
竹下 弘道  
堀 嘉昭
256. 堀 嘉昭 皮膚悪性黒色腫の診断と治療。 Kyo (京)。 101 : 1-7, 1994.  
中山樹一郎  
桐生 美麿
257. 中山樹一郎 高脂血症を伴う尋常性乾癬に対する高脂血症剤ベサフィブラートの高脂血症及び乾癬皮疹に対する臨床効果。 西日皮膚。 56 : 121-126, 1994.  
堀 嘉昭  
占部 篤道
258. 堀 嘉昭 褥瘡及び難治性皮膚潰瘍に対する G-511 軟膏の臨床効果。 西日皮膚。 56 : 595-602, 1994.  
中山樹一郎  
今山 修平  
桐生 美麿  
古賀 哲也  
安元慎一郎  
占部 篤道
259. Y. Kubota *In vitro* release of granulocyte/macrophage colony-stimulating factor from peripheral blood mononuclear cells of atopic dermatitis patients in response to stimulation with dust mite antigen. Br J Dermatol. 130 : 127-128, 1994.  
T. Koga  
S. Imayama  
Y. Hori
260. S. Imayama Deposition of basic fibroblast growth factor on surface of epidermal melanocytes suggesting the stromal control of epidermal pigmentation. Pigment Cell Res. 7 : 170-174, 1994.  
M. Furumura  
Y. Hori
261. Y. Kubota Mite-antigen-stimulated cytokine production by peripheral blood mononuclear cells of atopic dermatitis patients with positive mite patch tests. Contact Dermatitis. 31 : 217-219, 1994.  
T. Koga  
S. Imayama  
Y. Hori
262. 行徳 隆裕 アトピー性皮膚炎患者の多様多元性の検討 (3) 皮膚病変における表皮内ランゲルハンス細胞の動態。 西日皮膚。 56 : 1007-1010, 1994.  
今山 修平  
古賀 哲也  
利谷 昭人  
久保田由美子  
宮原 裕子  
棚橋 朋子  
橋爪 民子  
堀 嘉昭

263. 石本 由香 アトピー性皮膚炎と白内障. 西日皮膚. 56 : 1167-1171,  
 今山 修平 昭人 1994.  
 利谷 昭人  
 古賀 哲也  
 久保田 由美子  
 宮原 裕子  
 橋爪 民子  
 棚橋 朋子  
 中尾 知子  
 堀 嘉昭  
 藤沢 公彦  
 佐川 卓司
264. 濱田 学 Microvenular hemangioma. 西日皮膚. 56 : 45-48,  
 田代 研児 1994.  
 桐生 美磨  
 今山 修平  
 堀 嘉昭
265. 今山 修平 皮膚線維腫における色素沈着と Excerpta Medica 4 : 5,  
 堀 嘉昭 basic FGF. Newsletter, 1994.  
 Dermatological  
 News.
266. M. Inoue Malignant schwannoma in a case J Dermatol Sci. 8 : 157-161,  
 J. Nakayama of type 1 neurofibromatosis with 1994.  
 A. Urabe decreased immunoreactivity of  
 S. Taniguchi smooth muscle  $\alpha$ -actin in tumor  
 R. Kuroki vessels.  
 Y. Hori
267. 清水 信之 浸潤性乳房外 Paget 病に対する化 Skin Cancer. 9 : 170-174,  
 占部 篤道 学療法の試み. 1994.  
 永江 祥之介  
 今山 修平  
 堀 嘉昭
268. 古賀 哲也 皮膚癢痒症. 日医師会誌. 111 : 289-292,  
 堀 嘉昭 1994.
269. 中山樹一郎 アトピー性皮膚炎に対するヒスタグ 西日皮膚. 56 : 1055-1064,  
 古賀 哲也 ロビン®の臨床効果と血漿ロイコト 1994.  
 占部 篤道 リエン B4値・血清 ECP 値との相関  
 堀 嘉昭 性.  
 桐生 美磨  
 野間 健  
 淵 曠二  
 安田 勝  
 八島 豊  
 吉利 優子  
 徳永 三千子  
 川野 正子  
 仁井 泰樹

- |      |  |   |                                 |                        |
|------|--|---|---------------------------------|------------------------|
| 270. | 竹内 実<br>中山樹一郎<br>永江祥之介<br>豊福 一朋<br>堀 嘉昭<br>須田 正洋<br>桐生 美麿<br>柴田 隆夫<br>大島 孝一<br>菊池 昌弘 | 乾癬様皮疹を呈したATLの1例.  | 皮膚のリンフォーマⅢ.                     | 108-111,<br>1994.      |
| 271. | 桐生 美麿<br>堀 嘉昭  | 皮膚痒痒性疾患に対するアゼプチン®の臨床効果の検討.  | 西日皮膚.                           | 56 : 555-561,<br>1994. |
| 272. | 飯田 隆雄<br>中山樹一郎<br>堀 嘉昭<br>他  | 台湾 Yu-Cheng 患者における PCDDs, PCDFs 及び Coplanar PCBs の血液中濃度及び糞便中排泄量.  | 福岡医誌.                           | 86 : 234-240,<br>1994. |
| 273. | 堀 嘉昭<br>他  | 臨床医学の展望：皮膚科学.   | 日医新報.                           | 3643 : 26-50,<br>1994. |
| 274. | 荒田 次郎<br>堀 嘉昭<br>松田 哲男<br>他  | 皮膚科領域における SY5555 後期第Ⅱ相試験成績.   | Chemotherapy.                   | 42 : 503-522,<br>1994. |
| 275. | 荒田 次郎<br>堀 嘉昭<br>松田 哲男<br>他  | 浅在性化膿性疾患に対する SY5555 と cefaclor の二重盲検比較試験.   | Chemotherapy.                   | 42 : 740-760,<br>1994. |
| 276. | T. Koga<br>H. Ishigaki<br>T. Matsumoto<br>Y. Hori                                    | Decreased release of interferon- $\gamma$ by peripheral blood mononuclear cells of patients with chronic dermatophytosis in response to stimulation with trichophytin.                            | Acta Dermato-Venereol. (Stockh) | 75 : 81-82,<br>1995.   |
| 277. | 利谷 昭人<br>堀 嘉昭  | 老人性皮膚瘙癢症.   | 漢方と最新治療.                        | 4 : 51-54,<br>1995.    |
| 278. | 古村 南夫<br>堀 嘉昭  | Acropigmentatio reticularis, Kitamura.  | 皮膚病診療.                          | 17 : 269-272,<br>1995. |
| 279. | 堀 嘉昭   | 顔面のメラニン色素沈着症.   | 日美容外科会報.                        | 17 : 7-8,<br>1995.     |
| 280. | S. Imayama<br>Y. Shimozono<br>A. Urabe<br>Y. Hori                                    | A simple method for measuring the amount of immunoglobulin A secreted onto the skin surface.  | Acta Dermato-Venereol. (Stockh) | 75 : 212-217,<br>1995. |
| 281. | T. Koga<br>H. Ishizaki<br>T. Matsumoto<br>Y. Hori                                    | Impaired release of granulocyte/macrophage colony-stimulating factor by peripheral blood mononuclear cells of patients with chronic dermatophytosis in response to stimulation with trichophytin. | Acta Dermato-Venereol. (Stockh) | 75 : 247-248,<br>1995. |

282. T. Koga  
S. Imayama  
Y. Hori      *In vitro* release of interferon- $\gamma$  by peripheral blood mononuclear cells of a patient with carbamazepine-induced allergic drug eruption in response to stimulation with carbamazepine.      Contact Dermatitis.      33 : 181-182, 1995.
283. A. Urabe  
J. Nakayama  
S. Matsuo  
Y. Hori      The effect of a novel topical cyclosporin A cream on proliferation of human epidermal keratinocytes and on the mouse hair growth cycle.      Eur J Dermatol.      5 : 316-319, 1995.
284. T. Koga  
S. Imayama  
Y. Hori      Serum interferon- $\gamma$  level in a patient with carbamazepine-induced erythroderma.      Contact Dermatitis.      33 : 275, 1995.
285. 行徳 隆裕  
桐生 美麿  
豊高 里志  
今本 尚之  
中垣 博之  
占部 和敬  
堀 嘉昭      Pilar cyst 様の臨床像を呈した転移性悪性腫瘍.      西日皮膚.      57 : 736-740, 1995.
286. 吉田 雄一  
永江祥之介  
今山 修平  
堀 嘉昭  
久保川 賢  
名和田 新      化学療法に著明に反応した Werner's Syndrome に合併した悪性黒色腫.      西日皮膚.      57 : 741-745, 1995.
287. 中山樹一郎  
永江祥之介  
堀 嘉昭      皮膚がん.      総合臨床.      44 : 2041-2043, 1995.
288. 石原 和之  
堀 嘉昭  
小野 友道  
井上 勝平      成人T細胞白血病.      Skin Cancer.      10 : 257-270, 1995.
289. 行徳 隆裕  
桐生 美麿  
牛島 正博  
堀 嘉昭      ダンベル型を呈した巨大脂肪腫.      西日皮膚.      57 : 999-1002, 1995.
290. S. Yasumoto  
S. Imayama  
Y. Hori      Increased serum level of interleukin-6 in patients with psoriatic arthritis and thrombocytosis.      J Dermatol.      22 : 718-722, 1995.
291. 中山樹一郎  
許 徳清  
小澤 明  
後藤多佳子  
鳥巢 仁枝  
楊 玉蓮  
蕭 露露  
堀 嘉昭      日本・中国両国の乾癬患者の高脂血症の疫学調査および HLA タイピングについて.      日皮会誌.      105 : 1743-1751, 1995.

292. 安元慎一郎 慢性心不全患者に発症した右腎部・  
堀 嘉昭 大腿部の帯状疱疹に有効であった1  
例. 診断と治療. 83 : 2204-2205,  
1995.
293. D. Hong Myoepithelial differentiation in  
A. Urabe eccrine spiradenoma : An analysis  
J. Nakayama of benign and malignant cases.  
S. Yasumoto  
K. Noma  
M. Nishimura  
Y. Hori  
E. Sato Eur J Dermatol. 5 : 715-719,  
1995.
294. 堀 嘉昭 実地医家が知っておきたいデルマト  
ロームの臨床. Clinician. 42 : 508-513,  
1995.
295. 堀 嘉昭 顔面の後天性の色素沈着. 日医新報. 3711 : 122-123,  
1995.
296. 中山樹一郎 アレルギーの臨床に寄せる - アレル  
堀 嘉昭 ギー性疾患患者の外来受診動向に関  
相澤 久道 する調査成績.  
原 信之  
竹田 和夫  
横光 智  
小宮山莊太郎  
林 正  
十川 博  
久保 千春 アレルギーの臨床. 15 : 1043-1050,  
1995.
297. 中山樹一郎 1993・1994年度の福岡県油症年次検  
堀 嘉昭 診における皮膚症状.  
利谷 昭治  
旭 正一 福岡医誌. 86 : 145-149,  
1995.
298. 中山樹一郎 乾癬に対するプロブコールの作用機  
占部 篤道 序に関する研究 - 表皮内 IL-1局在  
堀 嘉昭 の変化を中心に -. 西日皮膚. 57 : 782-788,  
1995.
299. J. Nakayama Differential cell and immuno-  
K. Urabe biological properties of murine  
T. Tsuchida B16-F1 and F10 melanoma  
A. Urabe : Oncogene *c-fos* expression,  
H. Terao sensitivity to LAK cells and/or  
S. Taniguchi IL-2, and components of  
Y. Hori gangliosides. J Dermatol. 22 : 549-559,  
1995.
300. 楊 憲勲 皮膚付属器腫瘍における Tissue  
占部 篤道 Polypeptide Antigen (TPA) の免  
永江祥之介 疫組織化学的検討.  
中山樹一郎 西日皮膚. 57 : 1160-1164,  
堀 嘉昭 1995.
301. 辻田 淳 長期経過をたどるB細胞の pheno-  
中山樹一郎 type を有する Ki-1 lymphoma の一  
永江祥之介 例.  
堀 嘉昭  
竹下 盛重  
菊池 昌弘 皮膚のリンフォーマXV. 44-46,  
1995.

- |      |   |   |               |                          |
|------|---|---|---------------|--------------------------|
| 302. | 尾木 兵衛<br>中山樹一郎<br>堀 嘉昭                        | インターフェロンガンマによる治療経過中に肺カンジダ症を併発した成人型T細胞白血病/リンパ腫(慢性型).   | 西日皮膚.         | 57 : 39-42,<br>1995.     |
| 303. | 中山樹一郎<br>堀 嘉昭                                 | 尋常性乾癬患者の Cyclosporin A 誘発性高血圧に対する Nifedipine 持効錠の降圧効果.  | 西日皮膚.         | 57 : 580-585,<br>1995.   |
| 304. | 中山樹一郎<br>堀 嘉昭                                 | 高齢者の MASA 感染褥瘡の実態調査と対策-Gentiana Violet 洗浄と白糖-ポピドンヨード配合軟膏外用の併用局所療法に関する基礎的検討.   | 西日皮膚.         | 57 : 1062-1069,<br>1995. |
| 305. | 太田 浩平<br>中山樹一郎<br>堀 嘉昭<br>竹下 盛重<br>菊池 昌弘      | IL-1 $\beta$ 治療が著効した菌状息肉腫.  | 西日皮膚.         | 57 : 1074-1077,<br>1995. |
| 306. | Y. Kubota<br>S. Imayama<br>T. Koga<br>Y. Hori | Reduced cytokine production in response to stimulation with dust mite antigen after cyclosporin A treatment of atopic dermatitis. | Exp Dermatol. | 4 : 117-118,<br>1995.    |
| 307. | S. Imayama<br>Y. Shibata<br>Y. Hori           | Epidermal mast cells in atopic dermatitis.  | Lancet.       | 346 : 1559,<br>1995.     |
| 308. | 後藤多佳子<br>行徳 隆裕<br>今山 修平<br>堀 嘉昭               | 汗に含まれる免疫グロブリン sIgA の皮膚表面における機能の検討.  | 西日皮膚.         | 57 : 52-54,<br>1995.     |
| 309. | 久保田由美子<br>今山 修平<br>中村 恭子<br>橋爪 民子<br>堀 嘉昭     | 壊疽性膿皮症の 5 例.  | 西日皮膚.         | 57 : 709-720,<br>1995.   |
| 310. | 山本正次郎<br>今山 修平<br>堀 嘉昭                        | Diffuse neonatal hemangioma-tosis.  | 西日皮膚.         | 57 : 763-766,<br>1995.   |
| 311. | 中尾 知子<br>永江祥之介<br>今山 修平<br>堀 嘉昭<br>高橋 朋子      | 多発性内分泌腺腫症 2 B 型 (図説).   | 西日皮膚.         | 57 : 1125-1126,<br>1995. |
| 312. | 中尾 知子<br>永江祥之介<br>今山 修平<br>堀 嘉昭<br>高橋 朋子      | 多発性内分泌腺腫症 2 B 型.  | 西日皮膚.         | 57 : 1153-1156,<br>1995. |

313. S. Imayama  
S. Matsuo  
T. Nakao  
S. Nagae  
Y. Hori A case of low-grade fibromyxoid sarcoma. Proceedings of 9th Korea-Japan Joint Meeting of Dermatology. 392-393, 1995.
314. S. Imayama  
K. Morita  
Y. Hori Erythematous papules on a patient with eosinophilic granuloma. Proceedings of 9th Korea-Japan Joint Meeting of Dermatology. 394-395, 1995.
315. 鳥巢 仁枝  
今山 修平  
堀 嘉昭 色解析による悪性黒色腫のスクリーニング. 西日皮膚. 57 : 520-524, 1995.
316. 古賀 哲也  
堀 嘉昭 他 慢性蕁麻疹に対する十味敗毒湯の効果. 皮膚科における漢方治療の現況. 6 : 49-56, 1995.
317. 荒田 次郎  
堀 嘉昭  
桐生 美麿  
古賀 哲也  
安元慎一郎  
占部 篤道  
佐藤 恵実子  
安田 勝子  
和田 恭子  
矢幡 敬 他 皮膚科領域に対する ritipenem acoxil の基礎的・臨床的検討. Chemotherapy. 43 : 401-414, 1995.
318. 荒田 次郎  
堀 嘉昭  
古賀 哲也  
松田 哲男  
竹内 実  
佐藤 恵実子  
原 幸子  
占部 篤道 他 皮膚科領域細菌感染症を対象とする balofloxacin の一般臨床試験成績. Chemotherapy. 43 : 392-405, 1995.
319. 荒田 次郎  
堀 嘉昭  
古賀 哲也  
松田 哲男 他 皮膚科領域における azithromycin の第Ⅱ相試験成績. Chemotherapy. 43 : 326-338, 1995.
320. 中山樹一郎  
久保田由美子  
古賀 哲也  
堀 嘉昭 他 アトピー性皮膚炎に対するザジテン®の臨床効果—治療前後の血清 ECP 値および MBP 値の変動の有無に関する検討—. 西日皮膚. 57 : 1189-1197, 1995.
321. 安元慎一郎  
堀 嘉昭 帯状疱疹の外皮用抗ウイルス剤による適応と治療の実際 4 : 慢性心不全患者に発症した右臀部、大腿部の帯状疱疹に有効であった1例. 診断と治療. 83 : 2204-2205, 1995.

- |      |  |   |  |                          |
|------|--|---|--|--------------------------|
| 322. | 桐生 美麿<br>堀 嘉昭<br>原 幸子                              | Palisaded encapsulated neuroma<br>の2例.  | 西日皮膚,  | 57 : 31-35,<br>1995.     |
| 323. | 安永 眞代<br>永江祥之介<br>清水 信之<br>桐生 美麿<br>堀 嘉昭           | Poland 症候群.   | 西日皮膚.  | 57 : 968-972,<br>1995.   |
| 324. | H. Ogi<br>H. Kiryu<br>Y. Hori                      | Curaneous metastasis of CNS<br>chordoma.  | Am J<br>Dermatopathol.   | 17 : 599-602,<br>1995.   |
| 325. | S. J. Lee<br>K. Ota<br>T. Matsuda<br>Y. Hori       | Treatment of sporotrichosis with<br>oral azoles.  | Proceedings of<br>the IX Korea-Japan<br>Joint Meeting of<br>Dermatology. | 812-815,<br>1995.        |
| 326. | T. Iida<br>J. Nakayama<br>Y. Hori<br>et al.        | Clinical trial of combination<br>of rice bran fiber and<br>cholestyramine for promotion<br>of fecal excretion of retained<br>polychlorinated biphenyl in<br>Yu-Cheng patients.                                    | Fukuoka Acta<br>Med.   | 86 : 226-232,<br>1995.   |
| 327. | 荒田 次郎<br>堀 嘉昭<br>松田 哲男<br>他                        | 皮膚科領域における azithromycin<br>の第Ⅱ相試験成績.   | Chemotherapy.  | 43 : 326-338,<br>1995.   |
| 328. | 荒田 次郎<br>堀 嘉昭<br>他                                 | 浅在性化膿性疾患に対する<br>grelaloxacin の臨床的検討.  | Chemotherapy.  | 43 : 468-480,<br>1995.   |
| 329. | J. Nakayama<br>K. Toyofuku<br>H. Kokuba<br>Y. Hori | Rapid destruction of murine and<br>human melanomas by local<br>injection of absolute ethanol :<br>Augmentation of the anti-<br>proliferative effects with a com-<br>bination of biological response<br>modifiers. | J Dermatol.  | 23 : 156-164,<br>1996.   |
| 330. | 堀 嘉昭   | 内分泌異常に伴う皮膚症状Ⅰ.  | Medical Practice.  | 13 : 1313-1318,<br>1996. |
| 331. | 堀 嘉昭   | 内分泌異常に伴う皮膚症状Ⅱ.  | Medical Practice.  | 13 : 1467-1472,<br>1996. |
| 332. | 今山 修平<br>堀 嘉昭                                      | 糖尿病にみられる皮膚症状.   | Medical Practice.  | 13 : 1635-1639,<br>1996. |
| 333. | 今福 信一<br>堀 嘉昭                                      | 肝疾患に伴う皮膚症状.   | Medical Practice.  | 13 : 1799-1805,<br>1996. |
| 334. | 中山樹一郎<br>堀 嘉昭                                      | 中枢神経疾患に伴う皮膚症状Ⅰ.   | Medical Practice.  | 13 : 1949-1955,<br>1996. |



335. J. Nakayama The clinical relevance of an  $\alpha$ -smooth muscle actin analysis for the progression of human cutaneous malignant melanomas. Eur J Dermatol. 6 : 304-306, 1996.  
H. Ogi  
A. Urabe  
M. Okamoto-  
Inoue  
R. Shimokawa-  
Kuroki  
Y. Hori  
S. Taniguchi
336. I. Ieiri Evaluation of the therapeutic range of whole blood cyclosporin concentration in the treatment of psoriasis. Int J Clin Pharm. 34 : 106-111, 1996.  
J. Nakayama  
H. Murakami  
Y. Hori  
S. Higuchi
337. J. Nakayama Comparison of two therapeutic regimens, continuous monotherapy and intermittent therapy, for long-term maintenance of remission of psoriasis with cyclosporin A. Eur J Dermatol. 6 : 341-343, 1996.  
Y. Hori  
H. Nakagawa  
Y. Ishibashi  
T. Horikoshi  
A. Ozawa  
J. Sugai  
M. Okido
338. 中山樹一郎 アトピー性皮膚炎患者の血漿中および皮膚病変部のロイコトリエンB4値の定量とそれらの相関性に関する検討。西日皮膚。 58 : 810-814, 1996.  
寺尾 浩  
松尾眞二郎  
利谷 昭人  
堀 嘉昭
339. J. Nakayama Increase in shedding of intercellular adhesion molecule-1 in human malignant melanoma cell lines treated with hyperthermia *in vitro*. Pigment Cell Res. 9 : 154-159, 1996.  
T. Kageshita  
M. Nakashima  
M. Tsujisaki  
K. Imai  
Y. Hori
340. J. Nakayama Leukotriene B4 (LTB4) in the plasma and the lesional skins in patients with atopic dermatitis. Proceedings of 9th Korea-Japan Joint Meeting of Dermatology. 582-586, 1996.  
A. Toshitani  
H. Terao  
Y. Hori
341. 吉永健太郎 菌状息肉症の経過中、T及びB lymphocyte markersが陰性のKi-1陽性細胞が出現した1症例。皮膚のリンフォーマXV. 156-157, 1996.  
中山樹一郎  
堀 嘉昭
342. J. Nakayama Two cases of metastatic malignant melanoma of the lower limb treated with hyperthermic isolated limb perfusion and concomitant infusion of either carboplatin or  $\beta$ -interferon. J Dermatol. 23 : 6-15, 1996.  
M. Takeuchi  
H. Mayumi.  
S. Nagae  
K. Matsuda  
H. Yasui  
S. Takahashi  
Y. Hori
343. 中山樹一郎 ヒノキチオール製品ヒロコウケンハンドウォッシュ、ハンドクリーム、リキッドソープの抗菌活性に関する基礎的検討。西日皮膚。 58 : 447-454, 1996.  
堀 嘉昭

344. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
乾癬のシクロスポリン療法—当科における2年間の単独療法と間歇療法との比較—  
西日皮膚、 58 : 472-478, 1996.
345. 中山樹一郎  
國場 尚志  
豊福 一朋  
安増 哲生  
内藤 誠二  
堀 嘉昭  
超音波ガイド下エタノール注入療法を施行した進行期悪性黒色腫の一例。  
日皮会誌、 106 : 1219-1225, 1996.
346. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
0.05%酪酸プロピオン酸ベタメゾン（アンテベート軟膏・クリーム）の皮膚疾患に対する有効性と副腎機能への影響の検討。  
西日皮膚、 58 : 697-705, 1996.
347. H. Miyahara  
S. Imayama  
T. Koga  
Y. Hori  
*In vitro* analysis of mediators of contact urticaria caused by cefotiam hydrochloride.  
Allerg Int. 45 : 51-53, 1996.
348. A. Toshitani  
S. Imayama  
A. Urabe  
H. Kiryu  
Y. Hori  
Hair cortex comedo.  
Am J Dermatopathol. 18 : 322-325, 1996.
349. S. Imayama  
M. Moroi  
H. Ueo  
S. Nanbara  
Y. Adachi  
K. Mimori  
Y. Shimozono  
Y. Hori  
K. Sugimachi  
Presence of elevated carcinoembryonic antigen on absorbent disks applied to nipple area of breast carcinoma patients.  
Cancer. 78 : 1229-1234, 1996.
350. 江上 賀子  
増野 年彦  
今山 修平  
堀 嘉昭  
Keratoacanthoma と squamous cell carcinoma の免疫組織化学的検討。  
西日皮膚、 58 : 625-628, 1996.
351. T. Koga  
T. Fujimura  
S. Imayama  
K. Katsuoka  
S. Toshitani  
Y. Hori  
The expression of Th1 and Th2 cytokines in a lesion of allergic contact dermatitis.  
Contact Dermatitis. 35 : 105-106, 1996.
352. H. Torisu  
S. Imayama  
Y. Hori  
Computerized colorimetry in screening for malignant melanomas.  
Bioimages. 4 : 51-56, 1996.
353. S. Yasumoto  
J. Tsujita  
S. Imayama  
Y. Hori  
Case report : Gianotti-Crosti syndrome associated with human herpes virus-6 infection.  
J Dermatol. 23 : 499-501, 1996.

354. 力久 航  
吉永健太郎  
今山 修平  
堀 嘉昭  
Epidermolysis bullosa  
pruriginosa の家族例.  
西日皮膚. 58 : 961-963,  
1996.
355. H. Duan  
K. Urabe  
S. Imafuku  
S. Imayama  
K. Sueishi  
Y. Hori  
Detection of human papilloma  
virus in Bowen's disease by PCR.  
Proceedings of 34,  
5th China-Japan  
Joint Meeting of  
Dermatology. 1996.
356. 今山 修平  
堀 嘉昭  
内科医のための皮膚病変のみかた  
(3) 糖尿病にみられる皮膚症状.  
Medical Practice. 13 : 1635-1639,  
1996.
357. 堀 嘉昭  
瘙癢症.  
Modern  
Medicine. 3 : 60-63,  
1996.
358. 吉田 雄一  
桐生 美麿  
旭 正一  
堀 嘉昭  
Etretinate が奏効した小児毛孔性紅  
色秕糠疹.  
西日皮膚. 58 : 398-401,  
1996.
359. 安元慎一郎  
村上 義之  
堀 嘉昭  
単純ヘルペスウイルス感染培養ヒト  
表皮角化細胞からのインターロイキ  
ン-1 $\alpha$  産生に対する紫外線照射の  
影響.  
西日皮膚. 58 : 444-446,  
1996.
360. 竹下 弘道  
桐生 美麿  
堀 嘉昭  
増殖性筋膜炎.  
西日皮膚. 58 : 212-214,  
1996.
361. H. Kiryu  
H. Hashimoto  
Y. Hori  
Ossifying epithelioid  
hemangioendothelioma.  
J Cutan Pathol. 23 : 558-561,  
1996.
362. 松田 哲男  
堀 嘉昭  
松本 忠彦  
表在性白癬に対するSTR液の臨床試  
験成績.  
西日皮膚. 58 : 138-143,  
1996.
363. 利谷 昭人  
堀 嘉昭  
皮膚科 痒みの対策.  
インフォームドコンセ  
ントのための図説シリ  
ーズ.  
医薬ジャーナル社, 大  
阪.  
12-13,  
1996.
364. TV-02クリーム  
乾癬研究会  
(大河原章  
堀 嘉昭  
中山樹一郎  
占部篤道  
他)  
TV-02クリームの乾癬に対する有効  
性の検討  
—TV-02軟膏との群間比較試験成績—.  
西日皮膚. 58 : 144-153,  
1996.
365. 中山樹一郎  
堀 嘉昭  
中枢神経疾患に伴う皮膚症状II.  
Medical Practice. 14 : 167-172,  
1997.

366. K. Urabe      Nevus of Ota and acquired  
Y. Hori          dermal melanocytosis.      Current Opinion  
in Dermatology.      4 : 93-98,  
1997.
367. T. Kageshita    HLA class I antigens in  
T. Naruse      Japanese patients with  
S. Hirai        melanoma.  
T. Ono  
T. Horikoshi  
J. Nakayama  
Y. Hori  
et al.      J Immunother.      19 : 428-432,  
1997.
368. 堀    嘉昭      皮膚は内臓の鏡.      臨牀と研究.      74 : 150-156,  
1997.
369. 堀    嘉昭      デルマトロームとは.      モダンフィジシャン.      17 : 409-411,  
1997.
370. 今福 信一      肝疾患と皮膚症状.  
堀    嘉昭      モダンフィジシャン.      17 : 421-425,  
1997.
371. J. Nakayama    Inhibitory effects of various  
H. Kokubo      vitamin D<sub>3</sub> analogues on the  
H. Terao        growth of cells isolated from  
S. Matsuo      neurofibromas in patients with  
H. Ikebe        von Recklinghausen's  
H. Nakagawa    neurofibromatosis-1.  
Y. Hori      Eur J Dermatol.      7 : 169-172,  
1997.
372. J. Nakayama    Kinetics of immunological  
T. Nakao        parameters in patients with  
T. Mashino      malignant melanoma treated  
S. Nagae        with hyperthermic isolated  
Y. Hori        limb perfusion.  
H. Mayumi  
R. Tominaga  
H. Yasui  
K. Matsuda  
S. Takahashi      J Dermatol Sci.      15 : 1-8,  
1997.
373. 中山樹一郎      1995・1996年度の福岡県年次検診に  
堀    嘉昭      おける皮膚症状-各年齢層での血中  
利谷 昭治      PCB濃度と皮膚重症度との相関性-。  
旭    正一      福岡医誌.      88 : 236-239,  
1997.
374. 古賀 哲也      ステロイド外用剤による接触皮膚炎  
今山 修平      の一例.  
堀    嘉昭      皮膚臨床.      39 : 668-669,  
1997.
375. K. Urabe      Dyschromatosis.  
Y. Hori      Seminar Cutaneous  
Med Surg.      16 : 81-85,  
1997.
376. J. Nakayama    *In vitro* comparison between  
X. C. Guan      mouse B16 and human melanoma  
M. Nakashima    cell lines of the expression of  
T. Mashino      ICAM-1 induced by cytokines  
Y. Hori        and/or hyperthermia.      J Dermatol.      24 : 351-360,  
1997.

377. 管 暁春 ヒト悪性黒色腫細胞のハイパーサー  
中山樹一郎 ミアあるいはサイトカインによる I  
中島 学 CAM-1発現と可溶性 ICAM-1放出  
影下登志郎 の変動に関する研究。 日皮会誌。 107 : 747-753,  
辻崎 正幸 1997。  
今井 浩三  
堀 嘉昭
378. T. Kageshita Molecular genetic analysis of Tissue Antigens. 49 : 466-470,  
T. Naruse HLA class II alleles in Japanese 1997,  
S. Hirai patients with melanoma.  
T. Ono  
T. Horikoshi  
H. Nakagawa  
K. Tamaki  
K. Hayashibe  
M. Ichihashi  
J. Nakayama  
Y. Hori  
et al.

## 著 書

- |     |   |  |  |                   |
|-----|---|--|--|-------------------|
| 1.  | Y. Hori<br>Y. Kubota<br>O. Takayama<br>M. Kawashima | Acquired, hypermelanotic disorders : Clinical and pathologic features. | Advances in Pigment Cell Research.<br>Alan R. Liss Inc.<br>New York. | 237-245,<br>1988. |
| 2.  | 堀 嘉昭  | 青色母斑.  | 講談社皮膚臨床電顕アトラス.<br>講談社, 東京.   | 21-25,<br>1989.   |
| 3.  | 堀 嘉昭  | 先天性白皮症.  | 講談社皮膚臨床電顕アトラス.<br>講談社, 東京.   | 34-36,<br>1989.   |
| 4.  | 堀 嘉昭  | 尋常性白斑.   | 講談社皮膚臨床電顕アトラス.<br>講談社, 東京.   | 37,<br>1989.      |
| 5.  | 堀 嘉昭  | 銀皮症.   | 講談社皮膚臨床電顕アトラス.<br>講談社, 東京.   | 112-115,<br>1989. |
| 6.  | 堀 嘉昭  | 尋常性白斑.   | 皮膚科治療ハンドブック第2版.<br>南山堂, 東京.  | 310-315,<br>1989. |
| 7.  | 西山 茂夫<br>島雄 周平<br>堀 嘉昭 編                            | 皮膚疾患.  | 最新の治療 '89-'90.<br>南山堂, 東京.   | 1989.             |
| 8.  | 窪田 泰夫<br>阿部 善俊<br>塚本 克彦<br>小沢 克良<br>佐藤 章夫<br>堀 嘉昭   | 職業性強皮症.  | 皮膚科 Mook No.14,<br>強皮症・皮膚筋炎とその周辺.<br>金原出版, 東京.                       | 89-96,<br>1989.   |
| 9.  | 堀 嘉昭  | 内分泌疾患に伴う皮膚病変.  | 内科疾患と皮膚病変.<br>永井書店, 大阪.  | 91-99,<br>1989.   |
| 10. | 堀 嘉昭  | 色素異常症.   | ブルミエ皮膚科各論.<br>医歯薬出版, 東京.   | 107-115,<br>1990. |
| 11. | Y. Hori<br>M. Seiji                                 | Hypomelanotic hair disorders.  | Hair and Hair Diseases.<br>Springer-Verlag,<br>Berlin.               | 443-466,<br>1989. |
| 12. | 堀 嘉昭  | 皮膚の構造.   | 皮膚科学.<br>南山堂, 東京.  | 1-21,<br>1990.    |
| 13. | 堀 嘉昭  | 診断.  | 皮膚科学.<br>南山堂, 東京.  | 43-47,<br>1990.   |

- |     |  |   |  |                   |
|-----|--|---|--|-------------------|
| 14. | Y. Ishibashi<br>Y. Hori (eds.)                                     | Tuberous Sclerosis and<br>Neurofibromatosis : Epidemiology<br>Pathophysiology, Biology and<br>Management. | Excerpta Medica,<br>Amsterdam.   | 1990.             |
| 15. | M. Inoue<br>J. Nakayama<br>S. Taniguchi<br>M. Nishimura<br>Y. Hori | Vascularity in neurofibromas<br>demonstrated by immunostaining<br>of smooth muscle $\alpha$ -actin.       | Tuberous sclerosis<br>and neurofibroma-<br>tosis.<br>Elsevier Science,<br>Amsterdam. | 93-99,<br>1990.   |
| 16. | 西山 茂夫<br>島雄 周平<br>堀 嘉昭 編   | 皮膚疾患最新の治療 '91-'92.  | 南江堂, 東京.   | 1991.             |
| 17. | 堀 嘉昭   | Hailey-Hailey 病.  | 皮膚疾患最新の治療<br>'91-'92.<br>南江堂, 東京.  | 127,<br>1991.     |
| 18. | 吉田彦太郎<br>堀 嘉昭<br>荒田 次郎 編   | 皮膚科臨床検査法.   | 金原出版, 東京.  | 1991.             |
| 19. | 堀 嘉昭   | 色素異常.   | 皮膚科臨床検査法.<br>金原出版, 東京.   | 687-695,<br>1991. |
| 20. | 堀 嘉昭   | 口腔粘膜の色素沈着 (Addison 病を<br>中心に).  | 皮膚科検査法ハンド<br>ブック.<br>南江堂, 東京.  | 330-335,<br>1991. |
| 21. | 堀 嘉昭   | 皮膚疾患患者の看護.  | 成人看護学 4 第 8 版.<br>医学書院, 東京.  | 324-425,<br>1992. |
| 22. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 黒色表皮腫.  | 図説皮膚疾患講座 1.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 153,<br>1992.     |
| 23. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 黒色表皮腫.  | 図説皮膚疾患講座 2.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 194-196,<br>1992. |
| 24. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | アジソン病.  | 図説皮膚疾患講座 2.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 197,<br>1992.     |
| 25. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | ヘモクロマトーシス.  | 図説皮膚疾患講座 2.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 198-199,<br>1992. |
| 26. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 網状肢端色素沈着症 (北村).   | 図説皮膚疾患講座 2.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 200-201,<br>1992. |
| 27. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 遺伝性対側性色素異常症 (遠山).   | 図説皮膚疾患講座 2.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 202-203,<br>1992. |
| 28. | 永江祥之介<br>堀 嘉昭  | 蒙古斑.  | 図説皮膚疾患講座 2.<br>メジカルビュー社,<br>東京.  | 210-211,<br>1992. |

29.	永江祥之介 堀 嘉昭	銀皮症.	図説皮膚疾患講座 2. メジカルビュー社, 東京.	212-213, 1992.
30.	永江祥之介 堀 嘉昭	LEOPARD 症候群.	図説皮膚疾患講座 2. メジカルビュー社, 東京.	216-217, 1992.
31.	永江祥之介 堀 嘉昭	ポイツ・イエーガース症候群.	図説皮膚疾患講座 2. メジカルビュー社, 東京.	218-219, 1992.
32.	永江祥之介 堀 嘉昭	ブラックヒール.	図説皮膚疾患講座 2. メジカルビュー社, 東京.	223, 1992.
33.	桐生 美磨 中山樹一郎 堀 嘉昭	転移性悪性黒色腫.	皮膚科 Mook No.18, 悪性黒色腫. 金原出版, 東京.	93-102, 1992.
34.	永江祥之介 堀 嘉昭	蒙古斑.	図説皮膚疾患講座 3. メジカルビュー社, 東京.	22, 1992.
35.	永江祥之介 堀 嘉昭	ヘモクロマトーシス.	図説皮膚疾患講座 4. メジカルビュー社, 東京.	45, 1992.
36.	堀 嘉昭	内分泌と皮膚.	図説皮膚疾患講座 4. メジカルビュー社, 東京.	78-79, 1992.
37.	堀 嘉昭	クッシング症候群.	図説皮膚疾患講座 4. メジカルビュー社, 東京.	80-81, 1992.
38.	永江祥之介 堀 嘉昭	アジソン病.	図説皮膚疾患講座 4. メジカルビュー社, 東京.	82-83, 1992.
39.	永江祥之介 堀 嘉昭	仮性黒色表皮腫.	図説皮膚疾患講座 4. メジカルビュー社, 東京.	86, 1992.
40.	永江祥之介 堀 嘉昭	黒色表皮腫.	図説皮膚疾患講座 4. メジカルビュー社, 東京.	105, 1992.
41.	棚橋 朋子 堀 嘉昭	紫外線の生体への影響.	バイオ電磁工学とその 応用 フジテクノシステム, 東京.	288-297, 1992.
42.	古村 南夫 堀 嘉昭	白毛症.	皮膚科 Mook No.19, 毛包脂腺系疾患. 金原出版, 東京.	95-101, 1993.
43.	堀 嘉昭	図解: 内臓疾患と皮膚 (1993).	田辺シンテックス, 大阪.	1993.



44.	Y. Hori	Circumscribed ceruloderma.	Dermatology : Progress & Perspectives The Parthenon Publishing Group Ltd, New York.	505-507, 1993.
45.	N. Levine Y. Hori Y. Kubota	Acquired hypermelanotic disorders.	Pigmentation and Pigmentary Disorders. CRC Press, Boca Raton.	209-243, 1993.
46.	桐生 美麿 堀 嘉昭	結節型黒色腫.	色素性腫瘍. 文光堂, 東京.	72-78, 1993.
47.	堀 嘉昭 本房 昭三	皮膚病変の診断法.	臨床医のための診療 手技. 中外医学社, 東京.	361-372, 1993.
48.	堀 嘉昭 西村 正幸	内分泌疾患と皮膚.	最新内科学大系78, 皮膚の疾患. 中山書店, 東京.	39-47, 1993.
49.	D.B. Mosher T.B. Fitzpatrick Y. Hori J.P. Ortonne	Disorders of pigmentation.	Dermatology in General Medicine (4th edition). McGraw-Hill Inc. New York.	903-995, 1993.
50.	S. Imayama M. Furumura Y. Hori	Surface deposits of bFGF mole- cules on dermal fibroblasts, macrophages, vascular lining, and epidermal melanocytes of human skin demonstrated by scanning electron microscopy.	Electron Micro- scopy in Derma- tology, Basic and Clinical Research. Elsevier Science B.V. Amsterdam.	21-28, 1994.
51.	堀 嘉昭	メラニン生成活性研究の基本的技術 DOPA 反応, Tyrosine 反応.	組織細胞化学の技術, 無機物と色素. 朝倉書店, 東京.	220-229, 1994.
52.	堀 嘉昭 桐生 美麿 清水 信之	皮膚疾患.	臨床看護マニュアル 第4版. 医学書院, 東京.	903-933, 1994.
53.	堀 嘉昭 古賀 哲也	アレルギー反応.	臨床看護マニュアル 第4版. 医学書院, 東京.	971-983, 1994.
54.	堀 嘉昭 安元慎一郎	小児の皮膚疾患.	臨床看護マニュアル 第4版. 医学書院, 東京.	1525-1543, 1994.

55. J. Nakayama M. Takeuchi Y. Hori M. Nakashima T. Watanabe K. Oshima M. Kikuchi K. Iwatsuki Studies of a cloned T cell line derived from a skin nodule of a cutaneous T-cell lymphoma patient who was positive for a serological test for anti-HTLV-1 antibody but negative for monoclonal integration of the HTLV-1 proviral DNA. Cutaneous Lymphoma -1993-. Mokko Press, 浜松. 77-83, 1994.
56. 堀 嘉昭 小沢ミヨ子 白石 親子 手塚 圭子 成人看護学 [11] 皮膚疾患患者の看護. 医学書院, 東京. 1995.
57. 堀 嘉昭 西山 茂夫 編 皮膚疾患 最新の治療 '95-'96. 南江堂, 東京. 1995.
58. 堀 嘉昭 ポーエン病. 老年病診療 Q & A. 六法出版社, 東京. 23 : 1720-1721, 1995.
59. A. Urabe S. Imayama Y. Hori H. Urabe Angioblastoma (NAKAGAWA) : a review of Japanese cases. Pediatric Dermatology A.M. Pierini, Excerpta Medica, Amsterdam. 307-311, 1995.
60. 後藤多佳子 今山 修平 行徳 隆裕 松田 哲男 堀 嘉昭 汗に含まれる sIgA と Malassezia furfur. 第1回dermatological Mycology Club 例会記録集. 真菌感染と生体防御. 63-67, 1995.
61. M. Kuratsune H. Yoshimura Y. Hori M. Okumura Y. Masuda (eds.) YUSHO. A Human Disaster Caused by PCBs and Related Compounds. Kyushu University Press, Fukuoka. 1996.
62. J. Nakayama A. Urabe Y. Hori The clinical course of dermatological symptoms in Yusho patients over 25 years. YUSHO. A Human Disaster Caused by PCBs and Related Compounds. Kyushu Univ Press, Fukuoka. 182-196, 1996.
63. Y. Hori V. J. Hearing J. Nakayama (eds.) Melanogenesis and Malignant Melanoma : Biochemistry, Cell Biology, Molecular Biology, Pathophysiology, Diagnosis and Treatment. Elsevier Science, Amsterdam. 1996.
64. J. Nakayama Y. Hori Hyperthermia as an immunological modulator : Basic investigation and clinical application for human malignant melanomas. Melanogenesis and Malignant Melanoma. Elsevier Science, Amsterdam. 289-300, 1996.

- |     |  |   |   |                   |
|-----|--|---|---|-------------------|
| 65. | 堀 嘉昭<br>中嶋 弘<br>瀧川 雅浩<br>森 茂郎 編                  | 皮膚悪性リンパ腫アトラス.   | 文光堂, 東京.  | 1996.             |
| 66. | 島田 眞路<br>堀 嘉昭<br>中山樹一郎<br>今山 修平                  | 皮膚悪性リンパ腫の臨床診断.  | 皮膚悪性リンパ腫<br>アトラス,<br>文光堂, 東京.                           | 11-19,<br>1996.   |
| 67. | 今山 修平<br>竹内 実<br>堀 嘉昭                            | セザリー症候群.  | 皮膚悪性リンパ腫<br>アトラス,<br>文光堂, 東京.                           | 46-49,<br>1996.   |
| 68. | 竹崎伸一郎<br>堀 嘉昭<br>今山 修平                           | 毛包性ムチン沈着症.  | 皮膚悪性リンパ腫<br>アトラス,<br>文光堂, 東京.                           | 124-125,<br>1996. |
| 69. | 今山 修平<br>行徳 隆裕<br>堀 嘉昭                           | ウエジナー肉芽腫症.  | 皮膚悪性リンパ腫<br>アトラス,<br>文光堂, 東京.                           | 140-141,<br>1996. |
| 70. | 古村 南夫<br>堀 嘉昭                                    | メラニン代謝異常.   | 最新内科学大系 8<br>糖質・アミノ酸<br>代謝異常.<br>中山書店, 東京.              | 401-411,<br>1996. |
| 71. | 太田 浩平<br>李 昇原<br>増野 年彦<br>松田 哲男<br>堀 嘉昭<br>松本 忠彦 | Non-dermatophytic, non-Candida<br>onychomycosis.<br>(非皮膚糸状菌・非 Candida 爪真菌症) | 第 2 回 Dermatological Mycology Club 例会記録集.<br>真菌感染と生体防御. | 58-61,<br>1996.   |
| 72. | 堀 嘉昭<br>小沢ミヨ子<br>白石 親子<br>手塚 圭子                  | 皮膚疾患患者の看護 (第 9 版第 4 刷).   | 成人看護学(11).<br>医学書院, 東京.                                 | 1997.             |
| 73. | 堀 嘉昭<br>新村 真人 編                                  | 皮膚疾患最新の治療 '97-'98.  | 南江堂, 東京.  | 1997.             |

その他

- |    |   |  |  |                      |
|----|---|--|--|----------------------|
| 1. | 堀 嘉昭  | 皮膚の色。  | ほすびたる。   | 365 : 1-2,<br>1988.  |
| 2. | 堀 嘉昭<br>井上 光世<br>中山樹一郎<br>谷口俊一郎   | 神経線維腫およびその培養系における $\alpha$ -アクチン発現細胞について。                                    | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班。<br>昭和63年度研究報告書。                               | 58-61,<br>1989.      |
| 3. | 長谷 哲男<br>中嶋 弘<br>馬場 直子<br>片山 勲<br>菊池 昌弘<br>小林 仁<br>深谷 徹<br>久留 博史<br>浜田 哲<br>堀 嘉昭<br>中山樹一郎<br>岩月 啓之<br>城野 昌義<br>森 茂郎<br>難波 紘二<br>高田 実<br>竹崎 伸一郎<br>徳永 正義<br>渡辺 昌<br>山口 茂光<br>宮本 秀明<br>金 秀澤 | 本栖湖ワークショップ報告, 皮膚リンパ腫の皮疹による分類。  | 厚生省がん研究。<br>菌状息肉症及びその類症(CTCL)の診断と治療に関する研究班。<br>昭和62年度・昭和63年度研究報告書。 | 1989.                |
| 4. | 堀 嘉昭  | 皮膚は内臓の鏡。   | スズケン PHC.  | 3 : 11-20,<br>1989.  |
| 5. | 堀 嘉昭  | 黒子とほくろ。  | 日小皮会誌。   | 8 : 64,<br>1989.     |
| 6. | 堀 嘉昭  | 小児の「舌なめずり」症。   | 日医新報。  | 3396 : 148,<br>1989. |
| 7. | 堀 嘉昭<br>高梨 真教<br>井上 光世<br>中山樹一郎<br>占部 篤道  | Tuberous sclerosis の angiofibroma 血管系における $\alpha$ -actin と basic FGF 発現の検討。 | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班。<br>平成元年度研究報告書。                                | 87-90,<br>1990.      |
| 8. | 堀 嘉昭<br>今山 修平<br>桐生 美磨  | 90年代の病理。   | 病理と臨床。   | 8 : 33,<br>1990.     |

9.	大河原 章 諸橋 正昭 武田 克之 堀 嘉昭 朝田 康夫 久木田 淳	皮膚疾患と漢方薬（座談会）。	皮膚科における漢方治療の現況。 第8回皮膚科東洋医学研究会。	1-24, 1990.
10.	堀 嘉昭 赤坂 俊英 大熊 守也 山本 泉 今山 修平	老人性皮膚瘙癢症（座談会）。	漢方医学。	14 : 333-342, 1990.
11.	堀 嘉昭	悪性腫瘍の化学療法の際に生ずる脱毛の治療法。	Medical Practice.	17 : 1924, 1990.
12.	堀 嘉昭	わが旅108, 奇遇。	日医師会誌	105 : 916, 1991.
13.	堀 嘉昭 中山樹一郎 占部 和敬 占部 篤道 久保田由美子 井上 光世 太田 浩平	神経線維腫における basic fibroblast growth factor の局在とその機能に関する検討。	厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班。 平成2年度研究報告書。	47-49, 1991.
14.	堀 嘉昭 田上 八朗	これからの皮膚科はどうあるべきか—バラ色の皮膚科を築くために。	日皮会誌。	101 : 1659, 1991.
15.	堀 嘉昭 中山樹一郎 太田 浩平 占部 篤道 井上 光世	神経線維腫由来増殖因子の抽出とその癌遺伝子 fos 発現の誘導能。	厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班。 平成3年度研究報告書。	53-55, 1992.
16.	古村 南夫 今山 修平 堀 嘉昭	単純型先天性表皮水疱症の3例—角化異常症としての検討。	第6回角化症研究会 記録集。	69-71, 1992.
17.	堀 嘉昭 永江祥之介	アトピー性皮膚炎に対する漢方製剤の使用経験。	日本漢方治療シンポジウム講演集。	92-99, 1992.
18.	堀 嘉昭	白毛と健康状態。	日医新報。	3547 : 192-193, 1992.
19.	堀 嘉昭 石原 和之 中嶋 弘	菌状息肉症の診断と治療。	'92日本短波放送 医学特別番組。	1-16, 1992.
20.	堀 嘉昭	肌には内臓の病気も健康状態も切実に現れ特に夏のこんな肌の変化は要注意。	わかさ23.	1992.
21.	堀 嘉昭	色。	福岡県医報。	1194 : 19-20, 1992.

- |     |   |   |   |                          |
|-----|---|---|---|--------------------------|
| 22. | 今山 修平<br>堀 嘉昭                                     | 皮膚科学の進歩.  | 臨床検査.                                   | 36 : 707-712,<br>1992.   |
| 23. | 堀 嘉昭<br>中山樹一郎<br>占部 篤道<br>豊福 一朋<br>尾木 兵衛<br>中川 秀己 | ヌードマウス可移植性神経線維腫に<br>対する種々の増殖因子の局注効果.                    | 厚生省特定疾患神経皮<br>膚症候群調査研究班,<br>平成4年度研究報告書. | 38-43,<br>1993.          |
| 24. | 堀 嘉昭  | 皮膚潰瘍の治療 (巻頭言).  | メディカル・ビュー<br>ポイント.                      | 14 :<br>1993.            |
| 25. | 堀 嘉昭  | 健康相談室.  | はつらつ.                                   | 15 : 25,<br>1993.        |
| 26. | 堀 嘉昭  | ビオチンによる皮膚疾患の治療.   | 日医新報.                                   | 3630 : 131,<br>1993.     |
| 27. | 堀 嘉昭<br>國場 尚志<br>中山樹一郎<br>豊福 一朋<br>占部 篤道          | ヌードマウス可移植性神経線維腫に<br>対する増殖因子の長期局注効果.                     | 厚生省特定疾患神経皮<br>膚症候群調査研究班,<br>平成5年度研究報告書. | 69-74,<br>1994.          |
| 28. | 堀 嘉昭  | '94年医学会最新トピックスー<br>サイトカインによるアトピー性皮膚<br>炎治療に期待.          | Clinic Magazine.                        | 260 : 37-38,<br>1994.    |
| 29. | 堀 嘉昭  | プロ野球のドラフト制度 (炉辺閑話).                                     | 日医新報.                                   | 3636 : 108,<br>1994.     |
| 30. | 堀 嘉昭  | 皮膚科領域における新年の展望.   | ドクターサロン.                                | 38 : 47-53,<br>1994.     |
| 31. | 水野 惇子<br>手塚 圭子<br>堀 嘉昭                            | 生活・環境因子による皮膚と毛髪<br>の損害とその対策 (座談会).                      | マルホ皮膚科<br>セミナー.                         | 108 : 4-15,<br>1994.     |
| 32. | 堀 嘉昭  | 第93回日本皮膚科学会総会・学術大<br>会開催にあたって.                          | 医学と薬学.                                  | 31 : 840,<br>1994.       |
| 33. | 堀 嘉昭  | 樋口健太郎先生追悼の辞.  | Chemotherapy.                           | 42 :<br>1994.            |
| 34. | 堀 嘉昭<br>柏木征三郎                                     | 皮膚と健康 (対談).   | 臨牀と研究.                                  | 71 : 1051-1058,<br>1994. |
| 35. | 堀 嘉昭  | 第93回 日本皮膚科学会総会・学術<br>大会.<br>市民に開かれた皮膚科をめざして.            | Medical Academy<br>News.                | 1435 : 16,<br>1994.      |
| 36. | 堀 嘉昭  | 第93回 日本皮膚科学会・学術大会<br>開催へ.<br>診断解明・治療最前線から展望.            | 教育医事新聞.                                 | 115 : 16,<br>1994.       |
| 37. | 堀 嘉昭  | 第93回 日本皮膚科学会の開催にあ<br>たって.<br>「21世紀を展望した皮膚科学」「市<br>民に開かれ | Medicament<br>News.                     | 1435 : 16,<br>1994.      |

- |     |   |  |                                     |                          |
|-----|---|--|-------------------------------------|--------------------------|
| 38. | 堀 嘉昭  | 毛の色.   | 毛髪美容会誌.                             | 7 : 2,<br>1994.          |
| 39. | 堀 嘉昭  | 第93回 日本皮膚科学会総会・学術大会から.                             | 日医師会誌.                              | 112 : 826-827,<br>1994.  |
| 40. | 堀 嘉昭  | 酒皸の症状・原因・治療 (質疑).                                  | 日医新報.                               | 3672 : 137,<br>1994.     |
| 41. | 堀 嘉昭<br>中山樹一郎<br>國場尚志<br>池邊日王里<br>寺尾 浩<br>中川 秀己   | 培養神経線維腫細胞に対する活性型ビタミンD3の増殖抑制効果.                     | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班,<br>平成6年度研究報告.  | 56-59,<br>1994.          |
| 42. | 中溝 慶生<br>横田 剛男<br>野田 啓史<br>今山 修平<br>堀 嘉昭          | グリチルリチン製剤の褥瘡治癒促進効果—臨床症状と潰瘍周囲組織中のbasic FGF測定による評価—. | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班,<br>平成6年度調査報告書. | 1995.                    |
| 43. | 堀 嘉昭  | すし屋の勘定 (炉辺閑話).                                     | 日医新報.                               | 3689 : 112-113,<br>1995. |
| 44. | 堀 嘉昭  | 痒みのメカニズム.  | Bellmedico.                         | 11 : 6-7,<br>1995.       |
| 45. | 堀 嘉昭  | 悪性黒色腫について.   | 健康.                                 | 428 : 60-62,<br>1995.    |
| 46. | 堀 嘉昭  | 起痒物質.  | Bellmedico.                         | 11 : 5,<br>1995.         |
| 47. | 堀 嘉昭  | 精励恪勤.  | Clinician.                          | 42 : 1,<br>1995.         |
| 48. | 堀 嘉昭  | 痒みの評価.   | Bellmedico.                         | 11 : 5,<br>1995.         |
| 49. | 堀 嘉昭  | 痒みを来す疾患.   | Bellmedico.                         | 42 : 5,<br>1995.         |
| 50. | 堀 嘉昭  | 薬疹はアレルギーか.   | アレルギーの臨床.                           | 15 : 665,<br>1955.       |
| 51. | 堀 嘉昭  | ケロイドの治療.   | 暮らしと健康.                             | 50 : 82-83,<br>1995.     |
| 52. | 堀 嘉昭  | 痒みの治療—蕁麻疹と痒み.                                      | Bellmedico.                         | 42 : 5,<br>1995.         |
| 53. | 堀 嘉昭<br>中山樹一郎<br>松尾眞二郎<br>森田 圭祐<br>小林 順一<br>占部 和敬 | 神経線維腫に対する活性型ビタミンD3の局注効果.                           | 厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班,<br>平成7年度研究報告.  | 52-55,<br>1996.          |

### 3) 教室業績 (1987~1996)

#### 論文

- |    |   |   |                             |                              |
|----|---|---|-----------------------------|------------------------------|
| 1  | 中山樹一郎   | 酒皰様皮膚炎及びその他の皮膚疾患<br>に対するハイチオールの治療経験.  | 基礎と研究.                      | 21 : 403-410,<br>1987.       |
| 2. | M. Nishimura<br>J. Nakayama<br>M. Asahi<br>F. Morita                                  | The effect of etretinate on<br>plasma fibronectin in patients<br>with vulgar psoriasis.   | J Dermatol.                 | 15 : 191-193,<br>1988.       |
| 3. | 中山樹一郎<br>松本 忠彦<br>西谷 敬子<br>眞崎 治行<br>桐生 美磨<br>井上 光世<br>佐藤恵実子<br>八島 豊<br>永江祥之介<br>占部 治邦 | 湿疹, 皮膚炎, 蕁麻疹, 皮膚癢痒症<br>に対する Zaditen カプセルの臨床効<br>果の検討.   | 西日皮膚.                       | 50 : 931-944,<br>1988.       |
| 4. | 中山樹一郎<br>松本 忠彦<br>眞崎 治行<br>宮岡 達也<br>武石 正昭<br>松田 知子<br>樋口 理恵<br>徳永 孝道<br>占部 治邦         | 慢性湿疹, 皮膚炎群, 慢性蕁麻疹に<br>対するヒスタグロビンの臨床効果。一<br>週一回 3 バイアル投与の検討。   | 西日皮膚.                       | 50 : 1107-1117,<br>1988.     |
| 5. | S. Imayama  | Morphological basis for adequate<br>surgical excision of basal cell<br>epitheliomas.  | Arch Dermatol.              | 124 :<br>1715-1716,<br>1988. |
| 6. | S. Imayama<br>I. M. Braverman   | Scanning electron microscope<br>study of elastic fibers of the<br>loose connective tissue (superfi-<br>cial fascia) in the rat. | Anat Rec.                   | 222 : 115-120,<br>1988.      |
| 7. | M. Isoda<br>S. Imayama  | Metastatic adenocarcinoma.<br>A care report demonstrating<br>bullous pemphigoid antigen in<br>the tumor.                        | Am J<br>Dermatopathol.      | 10 : 240-246,<br>1988.       |
| 8. | S. Imayama  | Three dimensional arrangement<br>of collagen and elastic fibers in<br>the connective tissue.                                    | J Clin Electron<br>Microsc. | 21 : 789,<br>1988.           |
| 9. | O. Yamamoto<br>S. Imayama<br>A. Horie   | Eccrine porocarcinoma :<br>Histological and ultrastructural<br>study.   | J Clin Electron<br>Microsc. | 21 : 885-886,<br>1988.       |



- |     |  |   |                     |                          |
|-----|--|---|---------------------|--------------------------|
| 10. | 今山 修平  | 基底細胞上皮腫 (BCE) の新しい概念.   | 西日皮膚.               | 50 : 3-11,<br>1988.      |
| 11. | 松田 哲男<br>宮岡 達也<br>松本 忠彦  | Cutaneous protothecosis.  | 西日皮膚.               | 50 : 809-810,<br>1988.   |
| 12. | 松田 哲男<br>松本 忠彦   | 真菌症の新しい疾患概念—黒色菌糸症と無色菌糸症.  | Medical Technology. | 16 : 944-945,<br>1988.   |
| 13. | 山野 龍文<br>松本 忠彦   | 皮膚科領域における抗真菌剤.  | 微生物.                | 4 : 17-23,<br>1988.      |
| 14. | 松田 哲男<br>松本 忠彦   | 皮膚真菌症の治療.   | 薬局.                 | 39 : 813-818,<br>1988.   |
| 15. | 松本 忠彦  | 医真菌学における最近の進歩.  | マルホ皮膚科セミナー.         | 75 : 43-47,<br>1988.     |
| 16. | 松本 忠彦  | 医真菌学における最近の進歩.  | 日皮会誌.               | 98 : 1340-1342,<br>1988. |
| 17. | A. Urabe<br>J. Kanitakis<br>J. Thivolet  | Cyclosporin A initiates active hair growth in mice.   | Skin Pharmacol.     | 1 : 269-271,<br>1988.    |
| 18. | L. Aurelian<br>S. Yasumoto<br>C. C. Smith                                      | Antigen specific immune-suppressor factor in herpes simplex virus type 2 infections of UV-B irradiated mice.  | J Virol.            | 62 : 2520-2524,<br>1988. |
| 19. | 武藤 正彦<br>真下 昌己<br>山本 貴弘<br>西村 正幸<br>木村 秀人<br>占部 和敬<br>笹月 健彦                    | 乾癬の遺伝 (II)<br>関節症性乾癬の発症に関与する遺伝要因の解析.  | 西日皮膚.               | 50 : 888-891,<br>1988.   |
| 20. | 占部 和敬<br>原田 文樹<br>笹月 健彦  | 21-水酸化酵素異常症—先天性副腎皮質過形成症.  | 蛋白核酸酵素.             | 33 : 903-908,<br>1988.   |
| 21. | 占部 和敬<br>原田 文樹<br>笹月 健彦  | 先天性副腎過形成.   | 代謝.                 | 25 : 269-274,<br>1988.   |
| 22. | Y. Watanabe<br>M. Mitsuyama<br>T. Koga<br>T. Handa<br>Y. Yoshiaki<br>K. Nomoto | Protective immunity to <i>Listeria Monocytogenes</i> in neonatally thymectomized (NTx) mice: Involvement of T cells distinct from those in sham-thymectomized mice. | Immunol.            | 63 : 649-655,<br>1988.   |

23. M. Mitsuyama *In vitro* primary induction of T cells mediating delayed footpad reaction and acquired cellular resistance to *Listeria monocytogenes*. Immunobiol. 117 : 254-266, 1988.  
T. Handa  
T. Koga  
Y. Watanabe  
T. Yayama  
K. Muramori  
K. Nomoto
24. 武藤 正彦 毛包性ムチン沈着症に対する塩酸ミノサイクリおよびインドメタシン内服療法の経験. 西日皮膚. 50 : 428-431, 1988.  
西村 正幸  
古賀 哲也  
木村 秀人
25. A. Toshitani Adoptive transfer of H-2 incompatible lymphokine-activated killer (LAK) cells: An approach for successful cancer immunotherapy free from graft-versus-host disease (GVHD) using murine models. Cell Immunol. 115 : 373-382, 1988.  
T. Taniguchi  
K. Himeno  
Y. Kawano  
K. Nomoto
26. 和田 秀敏 肩関節癱痕拘縮形成術後に生じた腋窩神経麻痺を来した1例. 形成外科. 31 : 757-761, 1988.  
内田 芳雄
27. 和田 恭子 異物肉芽腫の治療経験—異物挿入後の合併症の検討—. 皮膚臨床. 30 : 173-177, 1988.  
和田 秀敏
28. 三原 公彦 手の軟部悪性腫瘍. 日手の外科会誌. 5 : 550-554, 1988.  
和田 秀敏
29. 野間 建 タバコ縫合を加えたくりぬき法. 西日皮膚. 50 : 1069-1077, 1988.  
清水 信之  
山田 朗  
谷崎 泰象  
吉家 弘  
和田 秀敏
30. 中山樹一郎 内科医に必要な皮膚疾患・皮膚症状: 悪性リンパ腫. クリニカ. 16 : 65-71, 1989.
31. 中山樹一郎 皮膚・結合織疾患を誘発増悪する薬剤: 抗生物質, 抗結核剤. 臨床と薬物治療. 8 : 60-63, 1989.  
尾木 兵衛  
松本 忠彦
32. S. Imayama A hypothetical explanation for the aging of skin. Chronological alteration of the three-dimensional arrangement of collagen and elastic fibers in connective tissue. Am J Pathol. 134 : 1019-1025, 1989.  
I. M. Braverman
33. T. Kitazono Two cases of myocardial infarction in type IV Ehlers-Danlos syndrome. Chest. 95 : 1274-1277, 1989.  
S. Imaizumi  
S. Imayama  
H. Shinkai  
A. Takeshita  
M. Nakamura

34. 今山 修平 基底細胞上皮腫 (BCE) の手術範囲. 西日皮膚. 51 : 217-221, 1989.
35. 今山 修平 内科医に必要な皮膚疾患・皮膚症状: 皮膚の血管炎. クリニカ. 16 : 465-469, 1989.
36. 今山 修平 結合組織内線維構築の経時的変化—歳をとるとなぜ皺や弛みを生じるか—. 西日皮膚. 51 : 1093-1100, 1989.
37. 占部 治邦 足白癬に対するトルナフテート含有 マイクロエマルジョンの臨床成績. 西日皮膚. 51 : 95-112, 1989.  
松本 忠彦  
松田 哲男
38. 松田 哲男 基底細胞母斑症候群 (図説). 西日皮膚. 51 : 431-432, 1989.  
西村 正幸
39. 松田 哲男 病原性真菌の分類学. Tokyo Tanabe Quarterly. 37 : 19-28, 1989.  
松本 忠彦
40. 松本 忠彦 趾間型足白癬に対するトルナフテート含有マイクロエマルジョンの使用経験. 西日皮膚. 51 : 1202-1206, 1989.  
西本勝太郎
41. 川野 庸一 外科手術後に発症した転移性真菌性 眼内炎の4症例. 眼臨医報. 83 : 2129-2134, 1989.  
波多江龍彦  
松井 裕康  
石橋 達朗  
大西 克尚  
松本 忠彦
42. 安元慎一郎 単純ヘルペスウイルスに対する感染 防御と表皮細胞. 病態生理. 8 : 693-695, 1989.  
棚橋 朋子
43. A. Urabe Cyclosporin A inhibits directly *in vivo* keratinocyte proliferation of living human skin. J Invest Dermatol. 92 : 755-757, 1989.  
J. Kanitakis  
J. Viac  
J. Thivolet
44. A. Urabe Cyclosporin A does not modify Langerhans' cell number and distribution in normal human skin. Acta Dermato-Venereol. 69 : 249-252, 1989.  
M. Haftek  
J. Kanitakis  
D. Schimitt  
J. Thivolet
45. 橋本 洋 良性線維性組織球腫の臨床病理—皮膚線維性組織球腫を中心に—. 日臨床. 47 : 628-632, 1989.  
占部 篤道  
遠城寺宗知
46. Y. Takano Malignant hidroacanthoma simplex. J Dermatol. 16 : 405-408, 1989.  
M. Nishimura  
A. Urabe  
N. Hayashi  
S. Toshitani

47. 沼野 藤夫 高安動脈炎の遺伝要因に関する研究 日内会誌. 78 : 486-492,  
根岸 駿夫 (Ⅲ) 高安動脈炎患者の補体アロタ  
下門 顕太郎 イブについて. 1989.  
鈴木 広一  
松本 秀雄  
占部 和敬  
木村 彰方  
笹月 健彦
48. 占部 和敬 家族性大腸ポリポーシスにおけるがん抑制遺伝子. Biomedica. 4 : 1115-1119,  
1989.
49. T. Koga T cells against a bacterial heat Science. 245 : 1112-1115,  
A. Wand- shock protein recognize stressed 1989.  
Wüttenberger  
J. Debruyne  
M. E. Munk  
B. Schoel  
S. H. E.  
Kaufmann
50. B. A. Serushago Role of antibodies against outer- J Gen Microbiol. 135 : 2259-2268,  
M. Mitsuyama membrane proteins in murine 1989.  
T. Handa resistance to infection with  
T. Koga encapsulated *Klebsiella*  
K. Nomoto pneumoniae.
51. S. H. E. Cell-mediated immunity to Rheumatol Int. 9 : 181-186,  
Kaufmann mycobacteria : A double-sided 1989.  
I. E. A. Flesch sword?  
M. E. Munk  
A. Wand-  
Wüttenberger  
B. Schoel.  
T. Koga
52. S. H. E. Effector T cells in bacterial Prog Immunol. 7 : 963-970,  
Kaufmann infections. 1989.  
M. E. Munk  
T. Koga  
U. Steinhoff  
A. Wand-  
Wüttenberger  
A. Gatrill  
I. Flesch  
B. Schoel.
53. S. Taniguchi High invasiveness associated Cancer Res. 49 : 6738-6744,  
M. Tatsuka with augmentation of motility 1989.  
K. Nakamatsu in a *fos*-transferred highly  
M. Inoue metastatic rat 3Y1 cell line.  
H. Sadano  
H. Okazaki  
H. Iwamoto  
T. Baba
54. 和田 秀敏 足底の tenosynovial osteo- 皮膚臨床. 31 : 822-823,  
樋口 美幸 chondroma の 1 例. 1989.

55. 黒田 健郎 女性化乳房と停留睾丸を伴ったレックリンダハウゼン病. 臨牀と研究. 60 : 1843-1846, 1989.  
岡村 建  
池之上公  
吉成 元考  
佐藤 薫  
藤島 正敏  
和田 秀敏  
矢毛石洋一  
恒吉 正澄
56. 三原 公彦 Intravascular papillary endothelial hyperplasia の1例. 日手の外科会誌. 6 : 551-553, 1989.  
和田 秀敏
57. 和田 秀敏 新しいタイプのキチン膜の使用経験. 西日皮膚. 51 : 540-542, 1989.
58. H. Wada Nerve endings in palm skin grafts. Ann Plast Surg. 22 : 461-466, 1989.  
K. Mihara  
H. Urabe
59. H. Wada Hemangioma under the xygomatic arch in adult. Eur J Plast Surg. 12 : 132-134, 1989.  
K. Mihara  
Y. Nii
60. 和田 恭子 最近10年間における有棘細胞癌の統計的観察. 西日皮膚. 51 : 758-765, 1989.  
和田 秀敏
61. 和田 秀敏 皮膚の形成外科. 日臨皮会誌. 18 : 26-31, 1989.
62. G. Zhang Inhibitory actions of adenosine differ between ear and mesenteric arteries in the rabbit. Eur J Physiol. 415 : 56-62, 1989.  
H. Miyahara  
H. Suzuki
63. M. Kabemura Induction of DNA synthesis by cholera toxin in the temperature-sensitive cell-cycle mutants of rat 3Y1 fibroblasts at a restrictive temperature. J Cell Sci. 94 : 33-42, 1989.  
H. Shimura  
A. Matsuzaki  
M. Ohtsu  
G. Kimura
64. 本房 昭三 昭和62-63年度の福岡県油症年次検診における皮膚症状および長期追跡例における皮膚症状の推移. 福岡医誌. 80 : 324-330, 1989.  
永江祥之介  
利谷 昭治  
旭 正一
65. 三原 公彦 陰茎痛と考えられた小児の悪性リンパ腫 (図説). 西日皮膚. 51 : 1-2, 1989.  
眞崎 治行
66. S. Toshitani A new apparatus for hair regrowth in male-pattern baldness. J Dermatol. 17 : 240-246, 1990.  
J. Nakayama  
T. Yahata  
M. Yasuda  
H. Urabe
67. 中山樹一郎 薬疹《薬疹の原因薬剤・鑑別・治療の実際》「多型紅斑型薬疹」. 臨床と薬物治療. 9 : 63-65, 1990.  
占部 篤道

68. 大原国章 悪性黒色腫の治療 (対談). 皮膚病診療. 12 : 161-177, 1990.  
 中山樹一郎  
 森 俊二
69. 占部 篤道 耳鼻咽喉科と皮膚疾患: 紅斑・紫斑・血管炎. JOHNS. 6 : 944-948, 1990.  
 中山樹一郎
70. J. Nakayama Imported cutaneous leishmaniasis Int J Dermatol. 29 : 670-672, 1990.  
 T. Matsumoto in Japan.  
 M. Asahi
71. 福田 英三 プロドラッグと薬疹. 西日皮膚. 52 : 707-711, 1990.  
 今山 修平
72. O. Yamamoto Formation of nerve twig-like Acta Pathol Jpn. 40 : 775-779, 1990.  
 Y. Suenaga nests and Schwannoma in an  
 S. Imayama unusual case of neurofibroma.  
 A. Horie
73. 堀内 理恵 薬疹の原因薬剤・鑑別・治療の実際: 臨床と薬物治療. 51 : 55-58, 1990.  
 今山 修平  
 湿疹型薬疹.
74. 今山 修平 皮膚の三次元的理解. 臨床皮膚. 44 : 267-274, 1990.
75. 二神幸次郎 新しい治療薬—特徴と使い方: テル 最新医学. 45 : 2225-2229, 1990.  
 牧野 和隆 フェナジン Terfenadine.  
 藤井 俊志  
 楨野 祐之  
 今山 修平
76. 今山 修平 基底細胞上皮腫と間質について. 皮膚病診療. 12 : 15-20, 1990.
77. 今山 修平 皮疹を理解するための正常皮膚の立 マルホ皮膚科セミナー. 89 : 17-24, 1990.  
 体構造.
78. 永江祥之介 アトピコスキンケアオイルのアトピー 西日皮膚. 52 : 131-135, 1990.  
 皮膚および皮脂欠乏症に対する使用 経験.
79. T. Matsumoto A previously undescribed J Med Vet Mycol. 28 : 437-444, 1990.  
 T. Matsuda synanamorph of Wangiella  
 M.R. McGinnis dermatitidis.
80. H. Hachisuga Cutaneous phaeohyphomycosis Int J Dermatol. 29 : 198-200, 1990.  
 T. Matsumoto caused by Exophiala jeanselmei  
 M. Kusahara after renal plantation.  
 H. Nomura  
 S. Nakano  
 Y. Sasai
81. 蜂須賀裕志 Exophiala jeanselmeiによる 皮膚臨床. 32 : 1697-1701, 1990.  
 森 理  
 楠原 正洋  
 笹井陽一郎  
 松本 忠彦  
 phaeohyphomycosis.
82. 尾木 兵衛 瘰癧型薬疹. 臨床と薬物治療. 9 : 88-93, 1990.  
 松本 忠彦

83. 松本 忠彦 足白癬とその治療. 臨牀と研究. 67 : 544-545, 1990.
84. 松本 忠彦 黒色菌糸症と無色菌糸症. 福岡医誌. 81 : 319-322, 1990.
85. 松本 忠彦 夏に多いこどもの皮膚疾患とそのケ  
豊原 清臣 ア (対談). 臨牀と研究. 67 : 199-210, 1990.
86. 安元慎一郎 皮膚粘膜眼症候群型薬疹. 臨牀と薬物治療. 9 : 100-103, 1990.
87. 安元慎一郎 単純ヘルペスウイルスに対する表皮  
を介した免疫応答とその抑制—紫外  
線による単純ヘルペスの再発機構—. 医学のあゆみ. 155 : 661, 1990.
88. J. Kanitakis The effect of cyclosporin A on  
A. Urabe proliferation and differentiation-  
M. Haftek associated antigens of normal  
J. Thivolet human skin xenografted onto  
nude mice. J Dermatol Sci. 1 : 103-110, 1990.
89. M. Haftek Cyclosporin A inhibits DNA  
A. Urabe synthesis by epidermal  
J. Kanitakis Langerhans cells. Reg Immunol. 3 : 236-241, 1990/1991.
90. 占部 和敬 21-ハイドロキシラーゼ欠損症の遺  
伝子解析. 福岡医誌. 81 : 77-87, 1990.
91. K. Urabe Gene conversion in steroid 21-  
A. Kimura hydroxylase genes. Am J Hum Genet. 46 : 1178-1186, 1990.
- F. Harada  
T. Iwanaga  
T. Sasazuki
92. 占部 和敬 サザンプロット法による診断. 日臨. 48 : 1795-1800, 1990.  
笹月 健彦
93. 占部 和敬 染色体異常と発がん—欠失とがん抑  
制遺伝子. 生体の科学. 41 : 41-46, 1990.  
笹月 健彦
94. S. H. E. Function and antigen specificity  
Kaufmann of T-cells against mycobacteria. Trop Med Parasitol. 41 : 319-320, 1990.  
I. E. A. Flesch  
A. Gatrill  
H. Gulle  
T. Koga  
M. E. Munk  
B. Schoel  
U. Steinhoff  
A. Wand-  
Wüittenberger

- |      |  |  |                                      |                          |
|------|--|--|--------------------------------------|--------------------------|
| 95.  | S. H. E.<br>Kaufmann<br>B. Schoel<br>A. Wand-<br>Wüttenberger<br>U. Steinhoff<br>M. E. Munk<br>T. Koga | T cells, stress proteins and pathogenesis of mycobacterial infections.                                     | Current Topics<br>Microbiol Immunol. | 155 : 125-141,<br>1990.  |
| 96.  | 久保田由美子<br>岡本 寿男  | Pseudoxanthoma elasticum の 2 例.  | 大分県立病院医誌.                            | 19 : 149-152,<br>1990.   |
| 97.  | M. Okamoto-<br>Inoue<br>M. Taniguchi<br>H. Sadano<br>T. Kawano<br>G. Kimura<br>G. Gabbiani<br>T. Baba  | Alteration in expression of smooth muscle $\alpha$ -actin associated with transformation of rat 3Y1 cells. | J Cell Sci.                          | 96 : 631-637,<br>1990.   |
| 98.  | 田部 陽子<br>磯田美登里   | 炎症性辺縁隆起性白斑 (図説).   | 西日皮膚.                                | 52 : 1-2,<br>1990.       |
| 99.  | 田部 陽子<br>磯田美登里   | 水疱性疾患を合併した尋常性乾癬の 2 例.  | 西日皮膚.                                | 52 : 21-24,<br>1990.     |
| 100. | 師井 洋一<br>和田 秀敏   | 乳幼児重症熱傷の 2 例.  | 西日皮膚.                                | 52 : 890-895,<br>1990.   |
| 101. | 和田 秀敏<br>宮岡 達也<br>山野 龍文  | スポンジタイプキチン膜による褥瘡の治療.   | 西日皮膚.                                | 52 : 761-765,<br>1990.   |
| 102. | 和田 秀敏  | 部位別手術法—外陰部.  | 皮膚臨床.                                | 32 : 1591-1595,<br>1990. |
| 103. | Y. Yashima<br>D. J. McAuliffe<br>T. J. Flotte  | Cell selectivity to laser-induced photoacoustic injury of skin.  | Lasers Surg Med.                     | 10 : 280-283,<br>1990.   |
| 104. | H. Kamino<br>H. Kiryu  | Small malignant melanomas : Clinicopathologic correlation and DNA ploidy analysis.                         | J Am Acad<br>Dermatol.               | 22 : 1032-1038,<br>1990. |
| 105. | 中山樹一郎  | 高脂血剤及びアレルギー剤による乾癬の治療.  | マルホ皮膚科セミナー.                          | 93 : 31-34,<br>1991.     |
| 106. | 中山樹一郎  | 皮膚の化学発癌と生体の免疫反応.   | 西日皮膚.                                | 53 : 1149-1157,<br>1991. |
| 107. | 中山樹一郎<br>寺尾 浩  | プロスタグランディン E <sub>1</sub> 療法を施行したクリオグロブリン血症性下腿潰瘍の 1 例.   | 現代医療.                                | 23 : 786-790,<br>1991.   |
| 108. | 中山樹一郎  | 血管炎に伴う下腿潰瘍で注射用プロスタグランディン点滴静注により著明改善がみられた 1 例.  | 現代医療.                                | 23 : 1465-1466,<br>1991. |



- |      |   |  |                          |                           |
|------|---|--|--------------------------|---------------------------|
| 109. | 福田 英三<br>今山 修平  | 本邦における薬疹に関する統計<br>(1984年-1989年).   | 西日皮膚.                    | 53 : 70-76,<br>1991.      |
| 110. | 福田 英三<br>今山 修平<br>岡田 恵司   | Mite-Free Room (ダニ除去室) の<br>アトピー性皮膚炎におよぼす影響.   | アレルギー.                   | 40 : 626-632,<br>1991.    |
| 111. | 福田 英三<br>今山 修平  | プロドラッグと薬疹.   | 皮膚病診療.                   | 13 : 63-66,<br>1991.      |
| 112. | 福田 英三<br>今山 修平<br>岡田 恵司   | Mite-free room (ダニ除去室) と<br>アトピー性皮膚炎.  | 皮膚病診療.                   | 13 : 1029-1034,<br>1991.  |
| 113. | 今山 修平   | 表皮内に存在する Langerhans 細胞.  | 福岡医誌.                    | 82 : 11号表紙,<br>1991.      |
| 114. | 今山 修平   | 基底細胞上皮腫と間質について.  | 皮膚病診療.                   | 13 : 15-20,<br>1991.      |
| 115. | 松田 哲男<br>松本 忠男  | プロトテコーシス.  | 臨床皮膚.                    | 45 : 35-40,<br>1991.      |
| 116. | 松田 哲男<br>松本 忠彦  | 慢性皮膚粘膜カンジダ症.   | 病理と臨床.                   | 9 : 1173-1178,<br>1991.   |
| 117. | 松本 忠彦   | マラセチア毛包炎に対する<br>Itraconazole の臨床効果.  | 基礎と臨床.                   | 25 : 557-562,<br>1991.    |
| 118. | Terbinafine<br>研究班<br>( 占部治邦<br>松本忠彦<br>本房昭三 )                                | Terbinafine (SF86-327) 1%クリーム<br>剤の一日一回塗布療法と一日二回<br>塗布療法の比較試験.   | 西日皮膚.                    | 53 : 785-806,<br>1991.    |
| 119. | Terbinafine<br>研究班<br>( 占部治邦<br>松本忠彦<br>松田哲男 )                                | Terbinafine 1%クリーム剤の表在<br>性皮膚真菌症に対する臨床効果.  | 西日皮膚.                    | 53 : 807-814,<br>1991.    |
| 120. | 松本 忠彦   | 皮膚真菌症トピックス.  | 日皮会誌.                    | 101 : 1502-1504,<br>1991. |
| 121. | K. Sayama<br>M. Tada<br>H. Ohtsuka<br>T. Matsumoto<br>S. Shiraishi<br>Y. Miki | Squamous cell carcinoma arising<br>in long-standing granulomatous<br>hyalohyphomycosis caused by<br><i>Fusarium solani</i> . | Arch Dermatol.           | 127 : 1735-1737,<br>1991. |
| 122. | 占部 篤道   | 化学発癌物質によって生じたマウス<br>腫瘍およびヒト皮膚腫瘍における<br><i>fos</i> 癌遺伝子の局在.   | 日本リディアオリリー<br>協会平成3年度年報. | 15 : 87-93,<br>1991.      |

123. S. Shirasawa p53 gene mutations in colorectal  
K. Urabe tumors from patients with  
Y. Yanagawa familial polyposis coli.  
K. Toshitani  
T. Iwama  
T. Sasazuki  
Cancer Res. 51 : 2874-2878,  
1991.
124. M. Muto Correlation between HLA-A2-  
M. Mashimo Bw46-DRw8 haplotype and  
K. Urabe increased levels of complements  
T. Suzuki (C4 and C4a) patients with  
T. Sasazuki psoriatic arthritis.  
Arch Dermatol Res. 283 : 347-349,  
1991.
125. 武下 泰三 佐賀県における恙虫病.  
古賀 哲也  
西日皮膚. 53 : 60-64,  
1991.
126. 服部 希一 広範囲熱傷患者に対する脂肪乳剤投  
広山 夏生 与の有効性.  
福本 純雄  
武下 泰三  
古賀 哲也  
Jpn J Parenter Enter Nutr. 13 : 167-172,  
1991.
127. 服部 希一 高齢重症熱傷の全身管理における脂  
武田 清剛 肪乳剤を用いた代謝栄養管理の有効  
福本 純雄 性.  
武下 泰三  
古賀 哲也  
高橋 成輔  
臨床と研究. 68 : 1831-1835,  
1991.
128. S.H.E. Heat-shock protein 60: Implica-  
Kaufmann tions for pathogenesis of and  
B. Schoel protection against bacterial in-  
J.D.A.V. fections.  
Embden  
T. Koga  
A. Wand-  
Wittenberger  
M.E. Munk  
U. Steinhoff  
Immunol Rev. 121 : 67-90,  
1991.
129. Y. Moroi Accumulation of p60lck in  
Y. Koga HTLV-I-transformed T cell lines  
K. Nakamura detected by an anti-Lck mono-  
M. Ohtsu clonal antibody, MOL171.  
G. Kimura  
K. Nomoto  
Jpn J Cancer Res. 82 : 909-915,  
1991.
130. 尾木 兵衛 毛舌.  
本房 昭三  
皮膚病診療. 13 : 335-339,  
1991.
131. Y. Yashima Laser-induced photoacoustic in-  
D.J. McAuliffe jury of skin : Effect of inertial  
S.L. Jacques confinement.  
T. J. Fotte  
Lasers Surg Med. 11 : 62-68,  
1991.
132. 中山樹一郎 悪性黒色腫の細胞・免疫生物学 (1)  
-その診断と治療への応用-.  
西日皮膚. 54 : 87-95,  
1992.
133. 中山樹一郎 悪性黒色腫の細胞・免疫生物学 (2)  
-その診断と治療への応用-.  
西日皮膚. 54 : 312-321,  
1992.

134. 中山樹一郎 悪性黒色腫の細胞・免疫生物学(3) 西日皮膚. 54 : 520-531,  
-その診断と治療への応用-. 1992.
135. 中山樹一郎 痒疹性皮膚疾患の最近の動向と対策. 福岡県保健医ニュース. 502 : 1-5,  
1992.
136. K. Moriyama Localization of herpes simplex Arch Virol. 123 : 13-27,  
S. Imayama virus type I in sebaceous glands 1992.  
S. Mohri of mice.  
T. Kurata  
R. Mori
137. K. Konomi Melanocyte chemotactic factor J Surg Oncol. 50 : 62-66,  
S. Imayama produced by skin metastases of 1992.  
S. Nagae a breast carcinoma.  
R. Terasaka  
K. Chijiwa  
Y. Yashima
138. J. Ding Spindle cell hemangioendothelioma Virchow Arch A. 420 : 77-85,  
H. Hashimoto : Probably a benign vascular lesion 1992.  
S. Imayama not a low-grade angiosarcoma.  
M. Tsuneyoshi A clinicopathological, ultrastruc-  
M. Enjoji tural and immunohistochemical  
study.
139. O. Yamamoto A histopathological and Virchow Arch A. 420 : 395-401,  
J. Haratake ultrastructural study of eccrine 1992.  
S. Yokoyama porocarcinoma with special  
S. Imayama reference to its subtypes.  
M. Asahi
140. 吉家 弘 硝酸イソソルビドテープ剤 (TSC-50) 基礎と臨床. 26 : 569-575,  
浦江 明憲 の皮膚刺激性試験. 1992.  
小村美由紀  
入江 伸  
今山 修平
141. 福田 英三 スクラブクリーム皮膚炎の5例. 西日皮膚. 54 : 683-685,  
今山 修平 1992.
142. 福田 英三 テガフルとウベニメクスによる多 西日皮膚. 54 : 879-883,  
今山 修平 剤感作薬疹. 1992.
143. 福田 英三 アフロクァロンによる光線過敏症. 皮膚病診療. 14 : 1089-1094,  
今山 修平 1992.
144. 今山 修平 表皮には悪性腫瘍を排除するという 西日皮膚. 54 : 671-677,  
機能がある. 1992.
145. 今山 修平 シワの成因と紫外線による増強のメ Fregrance J. 11 : 21-28,  
カニズム. 1992.
146. 今山 修平 紫外線と赤外線真皮結合組織への 皮膚病診療. 14 : 959-964,  
影響. 1992.
147. 今山 修平 シワの発現と紫外線による増悪の形 香粧会誌. 16 : 156-161,  
態学的理解. 1992.

148. 今山 修平 皮膚老化現象（皺と弛み）の発症機序. Skin Surgery. 1 : 12-16, 1992.
149. T. Matsumoto Fungal melanonychia : An ungual phaeohyphomycosis caused by Wangiella dermatitidis. Clin Exp Dermatol. 17 : 83-86, 1992.  
T. Matsuda  
A. A. Padhye  
P. G. Standard  
L. Ajello
150. T. Matsuda Protothecosis : A report of two cases in Japan and a review of the literature. Eur J Epidemiol. 8 : 397-406, 1992.  
T. Matsumoto
151. 松田 哲男 ケルルス禿瘡. 日経メディカル. 19-20, 1992.  
松本 忠彦
152. 松田 哲男 最近話題の皮膚感染症. 医学のあゆみ. 163 : 143, 1992.  
松本 忠彦
153. 松田 哲男 皮膚真菌症に対する塩酸ブテナフィンの臨床試験成績. 西日皮膚. 55 : 545-552, 1992.
154. 小林 照明 腋窩に生じたアポクリン腺癌の1例. Skin Cancer. 7 : 331-334, 1992.  
橋本 公二  
吉川 邦彦  
松永 悦治  
占部 篤道
155. K. Tsukamoto A second tyrosinase-related protein, TRP-2, is a melanogenic enzyme termed DOPAchrome tautomerase. EMBO J. 11 : 519-526, 1992.  
I. J. Jackson  
K. Urabe  
P. M. Montague  
V. J. Hearing
156. V. J. Hearing Functional properties of cloned melanogenic proteins. Pigment Cell Res. 5 : 264-270, 1992.  
K. Tsukamoto  
K. Urabe  
K. Kameyama  
P. M. Montague  
I. J. Jackson
157. R. K. Tripathi Mutational mapping of the catalytic activities of human tyrosinase. J Biol Chem. 267 : 23707-23712, 1992.  
V. J. Hearing  
K. Urabe  
P. Aroca  
R. A. Spritz
158. B. A. Serushago Difference in the functional maturation of T cells against *Listeria monocytogenes* in lymph nodes and spleen. Immunol. 75 : 238-244, 1992.  
M. Mitsuyama  
T. Handa  
K. Muramori  
T. Koga  
K. Nomoto
159. 古賀 哲也 細菌・リッチケア感染症. 医事新報. 3538 : 50-51, 1992.
160. 和田 秀敏 眼瞼小手術のコツ. 皮膚病診療. 14 : 1008-1017, 1992.

161. H. Yoshida  
Y. Koga  
Y. Moroi  
G. Kimura  
K. Nomoto The effect of p56lck, a lymphocytes specific protein tyrosine kinase, on the syncytium formation induced by human immunodeficiency virus envelope glycoprotein. Int Immunol. 4 : 233-242, 1992.
162. H. Kiryu  
H. Urabe Malignant Triton tumor. A case with protean histopathological patterns. Am J Dermatopathol. 14 : 255-262, 1992.
163. 中山樹一郎 皮膚悪性腫瘍の治療：温熱療法。 Skin Cancer. 8 : 35-42, 1993.
164. 中山樹一郎 アトピー性皮膚炎とアレルギー性炎症の関与—アゼラスチン内服前後の血中LTB<sub>4</sub>—。 Pharma Medica. 11 : 181-185, 1993.
165. 中山樹一郎 悪性黒色腫の温熱療法。 日皮会誌. 103 : 1589-1590, 1993.
166. 柿本 博子  
梶原 千晶  
日高久美子  
山口 睦子  
吉原 幸子  
今山 修平 MRSA 患者の浴槽の消毒方法に関する一考察。 看護実践の科学. 18 : 80-83, 1993.
167. S. Nagafuchi  
K. Tokiyama  
S. Kashiwagi  
S. Yayashi  
S. Imayama  
Y. Niho Eosinophilia after intradermal hepatitis B vaccination. Lancet. 342 : 998, 1993.
168. 時任 毅  
津村 弘  
林 和生  
杉岡 洋一  
今山 修平 壊疽性膿皮症を合併した慢性関節リウマチの1例。 九州リウマチ. 13 : 71-74, 1993.
169. 久保田由美子  
今山 修平 重症アトピー性皮膚炎のサイクロスポリン治療。 アレルギーの臨床. 13 : 352-354, 1993.
170. 今山 修平  
桐生 美磨  
竹内 実 新しく記載された皮膚の軟部腫瘍。 西日皮膚. 55 : 209-218, 1993.
171. 今山 修平 アトピー性皮膚炎の多元性：ダニ抗原に対する接触性皮膚炎患者の抽出と治療。 臨床皮膚. 47 : 46-51, 1993.
172. 今山 修平 アトピー性皮膚炎—最近の研究の動向：サイクロスポリン治療とアトピー性皮膚炎の病態。 Biotherapy. 7 : 1066-1072, 1993.
173. 今山 修平 シワ発現の形態学的メカニズム。 日皮協ジャーナル. 15 : 63-67, 1993.

- |      |  |   |   |                           |
|------|--|---|---|---------------------------|
| 174. | 今山 修平  | 臨床と研究の接点：アトピー性皮膚炎患者におけるダニ抗原の関与—ダニ抗原に対する慢性再発性接触性皮膚炎の抽出—.                       | 日皮会誌.   | 103 : 1650-1654,<br>1993. |
| 175. | 今山 修平  | 臨床でよくみる皮膚疾患とその対応：ダニによる皮膚疾患.   | クリニシャン.   | 40 : 443-447,<br>1993.    |
| 176. | 永江祥之介  | ブラクデシンナトリウム外用剤.   | 臨床と薬物治療.  | 12 : 149-150,<br>1993.    |
| 177. | 本松 薫<br>岡田 豊和<br>大西 克尚<br>松田 哲男                          | <i>Curvularia geniculata</i> による角膜真菌症の1例.                                     | あたらしい眼科.  | 10 : 101-104,<br>1993.    |
| 178. | 松田 哲男  | 皮膚真菌症に対する塩酸ブテナフィンの臨床試験成績.   | 西日皮膚.   | 55 : 545-552,<br>1993.    |
| 179. | 松田 哲男  | 皮膚の日和見感染症.  | Med Trib.   | 26 : 26-27,<br>1993.      |
| 180. | 松田 哲男<br>松本 忠彦   | AIDS と真菌症.  | 皮膚臨床.   | 35 : 1533-1538,<br>1993.  |
| 181. | 松田 哲男<br>松本 忠彦   | マラセチア毛包炎.   | 真菌誌.  | 34 : 425-428,<br>1993.    |
| 182. | T. Matsumoto<br>T. Matsuda<br>M.R. McGinnis<br>L. Ajello | Clinical and mycological aspects of <i>Wangiella dermatitidis</i> infections. | Mycoses.  | 36 : 145-155,<br>1993.    |
| 183. | 安元慎一郎<br>加藤真理子   | 伝染性紅斑<br>( <i>erythema infectiosum</i> ) (図説).                                | 西日皮膚.   | 55 : 1035-1036,<br>1993.  |
| 184. | S. Yasumoto  | Treatment of herpes infections in dermatology.                                | Proceedings of<br>the International<br>Antiviral Meeting.<br>Churchill-<br>Livingstone Japan. | 123-130,<br>1993.         |
| 185. | 安元慎一郎  | 皮膚科領域におけるヘルペス感染症の治療.  | 抗ウイルス療法講演会<br>抄録.<br>日本チャーチヒル<br>リビングストーン社.   | 54-67,<br>1993.           |
| 186. | 占部 篤道<br>野田 淳子<br>平野 哲哉                                  | 帯状疱疹後神経痛に対する四環系抗うつ薬マレイン酸セチプチリン(テシブル)の使用経験.                                    | 西日皮膚.   | 55 : 998-1000,<br>1993.   |
| 187. | 占部 篤道  | 乾癬の治療2：凍結乾燥海水による治療.   | マルホ皮膚科セミナー.   | 104 : 38-40,<br>1993.     |
| 188. | 野田 啓史<br>占部 篤道   | Eruptive vellus hair cysts (図説).  | 西日皮膚.   | 55 : 207-208,<br>1993.    |

189. P. Aroca Melanin biosynthesis patterns following hormonal stimulation. J Biol Chem. 268 : 25650-25655, 1993.  
K. Urabe  
T. Kobayashi  
K. Tsukamoto  
V. J. Hearing
190. K. Kameyama Pigment production in murine melanoma cells is regulated by tyrosinase, tyrosinase-related protein 1 (TRP1), DOPAchrome tautomerase (TRP2), and a melanogenic inhibitor. J Invest Dermatol. 100 : 126-131, 1993.  
T. Takemura  
Y. Hamada  
C. Sakai  
S. Kondoh  
S. Nishiyama  
K. Urabe  
V. J. Hearing
191. K. Urabe From gene to protein : Determination of melanin synthesis. Pigment Cell Res. 6 : 186-192, 1993.  
P. Aroca  
V. J. Hearing
192. 武下 泰三 Fournier's gangrene. 西日皮膚. 55 : 627-628, 1993.  
八島 豊  
萱島 恒善  
古賀 哲也
193. 古賀 哲也 感染防御. 医事新報. 3590 : 17, 1993.
194. 古賀 哲也 トリルダンとステロイド外用剤の併用療法の有効性. Progress in Medicine. 13 : 1130-1131, 1993.  
桐生 美磨
195. 桐生 美磨 キチン創傷被覆保護材 (ベスキチン W) の臨床的有用性の検討. 西日皮膚. 55 : 941-946, 1993.
196. A. Toshitani Increased interleukin-6 production by T cells derived from patients with atopic dermatitis. J Invest Dermatol. 100 : 299-304, 1993.  
J. C. Ansel  
S. C. Chan  
S. H. Li  
J. M. Hanifin
197. Y. Moroi Induction of interleukin 2-responsiveness in thymocytes of the transgenic mice carrying lck-transgene. Microbiol Immunol. 37 : 369-381, 1993.  
Y. Koga  
K. Nakamura  
M. Ohtsu  
G. Kimura  
K. Nomoto
198. 尾木 兵衛 Solid cystic hidradenoma (図説). 西日皮膚. 55 : 1-2, 1993.  
磯田美登里  
田代 研児
199. 利谷 昭人 薬物相互作用—他科受診患者への対応—他科で処方される薬剤とその相互作用 皮膚疾患. 臨床と薬物治療. 13 : 761-764, 1994.  
中山樹一郎
200. 中山樹一郎 皮膚悪性リンパ腫の治療 (対談). マルホ皮膚科セミナー. 1-12, 1994.  
小林 仁  
戸倉 新樹  
森 俊二

201. 中山樹一郎 乾癬の治療①—外用療法：乾癬の外  
用剤と種類と特徴。乾癬外用剤の使  
い方。 乾癬 Q&A, No.5. 1994.
202. 中山樹一郎 皮膚癌の現況—特集  
占部 篤道 内科周辺領域の癌検診と治療—骨・  
永江祥之介 軟部組織肉腫, 頭頸部癌, 皮膚癌—。 ナノギガ, 3 : 82-86,  
1994.
203. 今山 修平 無汗性外胚葉形成不全症とアトピー  
行徳 隆裕 性皮膚炎。 皮膚病診療, 16 : 691-694,  
1994.
204. 中村 恭子 臨床経過と血清 IL-6 値の相関がみ  
安元慎一郎 られた掌蹠膿疱症。 皮膚病診療, 16 : 1109-1112,  
今山 修平 1994.
205. S. Imayama Differential cell surface  
distribution of adhesion  
molecules demonstrated by  
immuno-scanning  
electron microscopy. J Dermatol, 21 : 855-859,  
1994.
206. S. Imayama Immuno-scanning electron  
microscopy of the epidermal-  
dermal interface : Proposing  
a new concept of epidermal  
clearance. Med Electron  
Microsc. 27 : 217-226,  
1994.
207. 久保田由美子 アトピー性皮膚炎の治療。 アレルギーの領域, 1 : 827-832,  
今山 修平 1994.
208. 今山 修平 シワの発現と紫外線による増強のメ  
カニズム。 日皮協ジャーナル, 16 : 130-136,  
1994.
209. 前川 嘉洋 皮膚疾患説明用リーフレット使用状  
久保容二郎 況。  
菊池 一郎  
児浦 純義  
今山 修平  
深川 宗男  
他 日臨皮会誌, 40 : 67-69,  
1994.
210. 後藤 渉 抗癩薬の血中代謝物濃度と副作用  
米沢 和明 発現との関連 (2) 5-HPPH 光学異  
家入 一郎 性体を中心とした検討。 TDM 研究, 11 : 201-202,  
大坪 健司 1994.  
利谷 昭人  
平田健太郎  
今山 修平  
青山 敏信  
山田 裕章
211. 久保田由美子 アトピー性皮膚炎におけるダニ抗原  
古賀 哲也 に対する遅延型過敏反応の関与につ  
今山 修平 いて。 西日皮膚, 57 : 215-218,  
1994.
212. 今山 修平 顔の皮膚病：基底細胞腫。 皮膚臨床, 36 : 971-976,  
1994.



213. 今山 修平 アトピー性皮膚炎患者では体表への免疫グロブリンA分泌が低下している。 西日皮膚。 56 : 919-926, 1994.
214. 今山 修平 皮膚血管の3次元的構築。 皮膚。 36 : 556-559, 1994.
215. 永江祥之介 皮膚腫瘍性病変におけるbFGFの役割。 日皮会誌。 104 : 1635-1636, 1994.
216. G.S. de Hoog Exophiala jeanselmei var. T. Matsumoto lecanii-corni, an aetiologic agent of human phaeohyphomycosis, T. Matsuda with report of a case. J Med Vet Mycol. 32 : 373-380, 1994.
217. T. Matsumoto Developments in L. Ajello hyalohyphomycosis and T. Matsuda phaeohyphomycosis. P. J. Szanislo T. J. Walsh J Med Vet Mycol. 32 : 329-349, 1994.
218. K. Urabe The inherent cytotoxicity of P. Aroca melanin precursors : A revision. K. Tsukamoto D. Mascagna A. Palumbo G. Prota V. J. Hearing Biochem Biophys Acta. 1221 : 272-278, 1994.
219. T. Kobayashi DHICA oxidase activity of TRP1 K. Urabe and interactions with other A. Winder melanogenic enzymes. K. Tsukamoto T. Brewington G. Imokawa B. Potterf V. J. Hearing Pigment Cell Res. 7 : 227-234, 1994.
220. A. Winder The tyrosinase gene family- T. Kobayashi interactions of melanogenic K. Tsukamoto proteins to regulate K. Urabe melanogenesis. P. Aroca K. Kameyama V. J. Hearing Cell Mol Biol 40 : 613-626, 1994.
221. G. Kroumpouzos Functional analysis of the slaty K. Urabe gene product (TRP2) as T. Kobayashi DOPAchrome tautomerase and C. Sakai the effect of a point mutation V. J. Hearing on its catalytic function. Biochem Biophys Res Commun. 202 : 1060-1068, 1994.
222. C. Jimenez-Cervantes A new enzymatic function in the F. Solano melanogenic pathway. T. Kobayashi K. Urabe V. J. Hearing J Biol Chem. 269 : 17993-18001, 1994.
- J. A. Lozano

223. T. Kobayashi Tyrosinase related protein 1 EMBO J. 13 : 5818-5825,  
K. Urabe (TRP1) functions as a DHICA 1994.  
A. Winder oxidase in melanin biosynthesis.  
C. Jimenez-  
Cervantes  
G. Imokawa  
T. Brewington  
V. J. Hearing
224. T. Kobayashi The Pmel 17/silver locus protein. J Biol Chem. 269 : 29198-29205,  
K. Urabe 1994.  
S. J. Orlow  
K. Higashi  
G. Imokawa  
B. S. Kwon  
B. Potterf  
V. J. Hearing
225. 古賀 哲也 Heat shock protein と皮膚角化細胞 医事新報. 3643 : 47,  
1994.
226. 古賀 哲也 白癬菌感染と生体防御. MEDICO. 25 : 10876-10879,  
1994.
227. 久保田由美子 硬化性萎縮性苔癬. 西日皮膚. 56 : 213-214,  
原 幸子 1994.
228. M. Ståle- 92-kD gelatinase is produced by J Clin Invest. 93 : 2022-2030,  
Båkdahl eosinophils at the site of blister 1994.  
M. Inoue formation in bullous pemphigoid  
G. J. Giudice and cleaves the extracellular  
W. C. Parks domain of recombinant 180-kD  
bullous pemphigoid autoantigen.
229. T. Maeda Exacerbation of established Arthritis Rheum. 37 : 406-413,  
I. Saikawa collagen-induced arthritis in mice 1994.  
T. Hotokebuchi treated with an anti-T cell recep-  
Y. Sugioka tor antibody.  
M. Eto  
Y. Murakami  
K. Nomoto
230. R. Shimokawa- A variant actin ( $\beta$ m) reduces Int J Cancer. 56 : 689-697,  
Kuroki metastasis of mouse B16 mela- 1994.  
H. Sadano noma.  
S. Taniguchi
231. H. Sadano Intracellular localization and Jpn J Cancer Res. 85 : 735-743,  
R. Shimokawa- biochemical function of variant 1994.  
Kuroki  $\beta$ -actin, which inhibits metasta-  
S. Taniguchi sis of B16 melanoma.

232. M. Takeshita CD30-positive anaplastic large HUMAN PATHOL. 26 : 615-619,  
K. Ohshima cell lymphoma in a human T-cell 1995.  
M. Akamatsu lymphotropic virus-I endemic  
A. Ohgami area.  
M. Kikuchi  
J. Suzumiya  
N. Uike  
T. Okamura  
J. Nakayama
233. 中山樹一郎 皮膚悪性黒色腫治療の現況と問題点. 福岡医誌. 86 : 1-5,  
1995.
234. 中山樹一郎 乾癬の病態と最近の治療. 西日皮膚. 57 : 215-221,  
1995.
235. 中山樹一郎 中枢神経障害と皮膚病変. Clinician. 441 : 15-18,  
1995.
236. 中山樹一郎 ステージの異なる菌状息肉腫症に対 皮膚のリンフォ 44-46,  
する治療のアプローチ: 3例の治療 ーマXIV. 1995.  
経験から.
237. 増野 年彦 悪性血管内皮細胞腫に対する rIL-2 医学のあゆみ. 175 : 200-201,  
中山樹一郎 療法. 1995.
238. 中山樹一郎 乾癬の治療. 日皮会誌. 105 : 1594-1596,  
1995.
239. G. Imokawa Degree of ultraviolet-induced J Invest Dermatol. 105 : 254-258,  
Y. Takema tortuosity of elastic fibers in rat 1995.  
Y. Yorimoto skin is age dependent.  
K. Tsukahara  
M. Kawai  
S. Imayama
240. I. Ieiri Effect of 5-(p-hydroxyphenyl)- Eur J Clin 49 : 51-56,  
W. Goto 5-phenylhydantoin (p-HPPH) Pharmacol. 1995.  
K. Hirata enantiomers, major metabolites  
A. Toshitani of phenytoin, on the occurrence  
S. Imayama of chronic-gingival hyperplasia ;  
Y. Ohyama *In vivo* and *in vitro* study.  
H. Yamada  
K. Ohtsubo  
S. Higuchi
241. I. Ieiri The effect of 5-(p-hydroxyphenyl)- Psychiatr Clin 49 : s247-s251,  
W. Goto 5-phenylhydantoin (p-HPPH) Neurosci. 1995.  
K. Hirata enantiomers, major metabolites  
A. Toshitani of phenytoin, on the occurrence  
S. Imayama of chronic side effects : *In vivo*  
Y. Ohyama and *in vitro* studies.  
H. Yamada  
K. Ohtsubo  
S. Higuchi

242.	松永 綾子 佐川 卓司 藤澤 公彦 菅 滋 石橋 達朗 今山 修平	アトピー性皮膚炎に見られた白内障。	臨床眼科。	49 : 461-464, 1995.
243.	福田 英三 今山 修平	タカシトール含有軟膏（ボンアルファ軟膏）によって誘発された環状紅斑。	西日皮膚。	57 : 709-720, 1995.
244.	福田 英三 今山 修平	ステロイド外用剤の主剤による接触皮膚炎；自験 2 例を含む本邦 132 例の検討。	西日皮膚。	57 : 929-933, 1995.
245.	中尾 知子 磯田美登里 永江祥之介 今山 修平	Eccrine porocarcinoma の 1 例。	皮膚臨床。	37 : 1826-1827, 1995.
246.	森 正樹 今山 修平 安達 洋祐 三森 巧士 下園 雄治 南原 繁 上尾 裕昭 秋吉 毅 杉町 圭藏	乳癌の無侵襲早期診断方法の開発（2）臨床的検討。	乳癌の臨床。	10 : 298-299, 1995.
247.	今山 修平 森 正樹 安達 洋祐 三森 巧士 下園 雄治 太田 重雄 杉町 圭藏	乳癌の無侵襲早期診断方法の開発（1）基礎的研究。	乳癌の臨床。	10 : 331-333, 1995.
248.	福田 英三 今山 修平	ステロイド外用剤の主剤による接触皮膚炎。	3°C PLUS ONE.	2 : 14-15, 1995.
249.	宮原 裕子 今山 修平	内科医に役に立つ皮膚病変のみかた：肝臓疾患と皮膚病変。	診断と治療。	83 : 338-342, 1995.
250.	今山 修平	最近のトピックス：アトピー性皮膚炎の易感染性。	臨床皮膚。	49 : 60-64, 1995.
251.	今山 修平	免疫走査電顕による表皮・真皮結合部の観察—表皮は癌細胞さえ排除 epidermal clearance する—。	電顕。	30 : 129-137, 1995.
252.	今山 修平	臨床への酵素抗体法の応用：免疫組織化学から乳癌の早期診断まで。	日皮会誌。	105 : 1689-1691, 1995.
253.	今山 修平	Common diseases 200 の治療戦略：アトピー性皮膚炎。	Medicina.	32 : 589-591, 1995.

254. 太田 浩平 HIV 感染者にみられた食道カンジダ症. 日性感染症会誌. 6 : 87-90, 1995.  
 松田 哲男  
 松本 忠彦  
 柏木征三郎
255. 辛島 正志 深在性カンジダ症の 1 例. 皮膚臨床. 37 : 673-675, 1995.  
 蜂須賀裕志  
 笹井陽一郎  
 相葉 宏之  
 松田 哲男
256. 安元慎一郎 帯状疱疹の抗ウイルス療法の現状. 第 1 回日本ヘルペス感染症フォーラム抄録. スタンダードマッキングタイア. 66-70, 1995.
257. Z. Adhel-Malek Mitogenic and melanogenic stimulation of normal human melanocyte by melanogenic peptides. Proc Natl Acad Sci USA. 92 : 1789-1793, 1995.  
 V. B. Swope  
 I. Suzuki  
 C. Akcali  
 M. D. Harriger  
 S. T. Boyce  
 K. Urabe  
 V. J. Hearing
258. S. J. Orlow Changes in expression of putative antigens encoded by pigment genes in mouse melanomas at different stages of malignant progression. Proc Natl Acad Sci USA. 92 : 10152-10156, 1995.  
 V. J. Hearing  
 C. Sakai  
 K. Urabe  
 Z. Bao-Kang  
 W. K. Silvers  
 B. Mintz
259. T. Takeshita Cheilitis granulomatosa with periodontitis. J Dermatol. 22 : 804-806, 1995.  
 T. Koga  
 Y. Yashima
260. M. Inoue Collagenase expression is rapidly induced in wounded keratinocytes after acute injury in human skin, persists during healing, and stops at re-epithelialization. J Invest Dermatol. 104 : 479-483, 1995.  
 G. Kratz  
 A. Haegerstrand  
 M. Ståle-Bäkdahl
261. M. Ståle-Bäkdahl Decreased expression of Ras GTPase activating protein in human trophoblastic tumors. Am J Pathol. 146 : 1073-1078, 1995.  
 M. Inoue  
 J. Zadenius  
 B. Sandstedt  
 L. Demarco  
 F. F. Silfverswärd  
 J. Andrade  
 E. Friedman

262. 稲光 毅 皮膚急性GVHDに対するPUVA療法奏効例。 臨床血液。 36 : 1321-1325, 1995.  
井上 光世  
穂吉 秀隆  
本田 景子  
渋谷 恒文  
中山 秀樹  
上田 浩司
263. H. Terao Th1 type CD4 T cells may be a Biother. 8 : 143-151, 1995.  
M. Harada potent effector against poorly  
S. Kurosawa immunogenic syngeneic tumors :  
Y. Shinomiya Anti-tumor activity of Th1 type  
T. Okamoto CD4 T cells.  
O. Ito  
H. Sumichika  
M. Takenoyama  
K. Nomoto
264. S. Kurosawa Early-appearing tumor- Immunol. 85 : 338-346, 1995.  
M. Harada infiltrating natural killer  
G. Matsuzaki cells play a crucial role in  
Y. Shinomiya the generation of anti-  
H. Terao tumor T lymphocytes.  
K. Nomoto
265. Y. Shinomiya Anti-metastatic activity induced Immunobiol. 193 : 439-445, 1995.  
M. Harada by the *in vitro* activation of  
S. Kurosawa purified protein derivative  
T. Okamoto (PPD)- recognizing Th1 type  
H. Terao CD4<sup>+</sup> T cells : Anti-metastatic  
G. Matsuzaki activity of Th1 type CD4<sup>+</sup>  
T. Shirakusa T cells.  
K. Nomoto
266. M. Harada The antitumor activity induced Cell Immunol. 161 : 132-137, 1995.  
T. Okamoto by the *in vivo* administration of  
S. Kurosawa activated B cells bound to anti-  
Y. Shimomiya CD3 monoclonal antibody.  
O. Ito  
M. Takenoyama  
H. Terao  
G. Matsuzaki  
G. Kimura  
K. Nomoto
267. M. Harada Concomitant immunity against Immunopharm 17 : 687-703, 1995.  
K. Seta tumor development is enhanced  
O. Ito by the oral administration of a  
K. Tamada kampo medicine, hochu-ekki-to.  
T. Li  
H. Terao  
M. Takenoyama  
G. Kimura  
K. Nomoto

268. K. Nomoto Tolerance induction in a fully Transplant. 59 : 395-401,  
K. Young-Yun allogeneic combination using 1995,  
K. Omoto anti-T cell receptor- $\alpha\beta$   
M. Umesue monoclonal antibody, low dose  
Y. Murakami irradiation, and donor bone  
G. Matsuzaki marrow transplantation.  
K. Nomoto
269. Y. Murakami Prevention of anti-T cell receptor Immunol. 86 : 238-243,  
K. Young-Yun ab monoclonal antibody-induced 1995,  
Y. Nishimura side-effects by treatment with  
K. Nomoto cyclosporin A without interfer-  
M. Umesue ence of monoclonal antibody-  
K. Omoto induced immunosuppression in  
T. Maeda mice.  
K. Nomoto
270. 中尾 知子 皮膚疣状結核 (図説). 西日皮膚. 57 : 1-2,  
磯田美登里 1995.
271. 中尾 知子 弾力線維性仮性黄色腫 (図説). 西日皮膚. 57 : 429-430,  
磯田美登里 1995.  
加世田俊一
272. M. Tachibana Ectopic expression of MITF, Nature Genet. 14 : 50-54,  
K. Takeda a gene for Waardenburg 1996,  
Y. Nobukuni syndrome type 2, converts  
K. Urabe fibroblasts to cells with  
J. E. Long melanocyte characteristics.  
K. A. Meyers  
S. A. Aaronson  
T. Miki
273. M. Takeshita Angiocentric immunoproliferative Human Pathol. 26 : 1321-1328,  
M. Akamatsu lesions of the skin show lobular 1996,  
K. Ohshima panniculitis and mainly disorders  
N. Kimura of large granular lymphocytes.  
J. Suzumiya  
M. Kikuchi  
T. Okamura  
J. Nakayama  
S. Imayama  
et al.
274. 中山樹一郎 転移性悪性黒色腫の治療. Skin Cancer. 11 : 30-33,  
1996.
275. 中山樹一郎 乾癬の抗高脂血症剤による治療. マルホ皮膚科セミナー. 124 : 4-6,  
1996.
276. H. Honda Spontaneous architectural organi- J Invest 106 : 312-315,  
M. Tanemura zation of mammalian epidermis Dermatol. 1996.  
S. Imayama arises from random cell packing.
277. H. Honda A fractal-like structure in the Fractals. 4 : 139-147,  
S. Imayama skin. 1996.  
M. Tanemura

- |      |   |  |                                 |                          |
|------|---|--|---------------------------------|--------------------------|
| 278. | H. Shimizu<br>Y. Takizawa<br>J.A. McGrath<br>L. Pulkkinen<br>A.M. Chirstiano<br>J. Uitto<br>R.E. Burgeson<br>K. Iwatsuki<br>N. Niimi<br>M. Noguchi<br>S. Imayama<br>Y. Abe<br>Y. Shirakata<br>S. Hagiwara<br>T. Saida<br>H. Ogawa<br>I. Hashimoto<br>T. Nishikawa | Absence of R42X and R635X mutations in the LAMB3 gene in 12 Japanese patients with junctional epidermolysis bullosa. | Arch Dermatol Res.              | 289 : 174-176,<br>1996.  |
| 279. | 久保田由美子<br>今山 修平   | アステミゾールが著効した慢性多形痒疹.  | Progress in Medicine.           | 16 : 2175-2177,<br>1996. |
| 280. | 棚橋 知子<br>今山 修平  | クリンダマイシンによる多形紅斑型薬疹の1例.   | 診断と治療.                          | 84 : 542,<br>1996.       |
| 281. | 宮原 裕子<br>今山 修平  | 塩酸セフォチアムによる接触蕁麻疹症候群の1例.  | 診断と治療.                          | 84 : 530,<br>1996.       |
| 282. | 久保田由美子<br>今山 修平   | 臭化ピリドスチグミンによると思われる Stevens-Johson 症候群.   | 診断と治療.                          | 84 : 926,<br>1996.       |
| 283. | 今山 修平   | 糖尿病にみられる痒疹症.   | Modern Medicine.                | 3 : 68-71,<br>1996.      |
| 284. | 今山 修平   | 皮膚血管の電顕病理.   | 細胞.                             | 28 : 155-159,<br>1996.   |
| 285. | 今山 修平   | 内科医が知っておきたい皮膚疾患 : 成人型アトピー性皮膚炎.   | Medicina.                       | 33 : 683-685,<br>1996.   |
| 286. | 今山 修平   | 処方 : 私の考え方 - アトピー性皮膚炎 -.   | 臨牀と研究.                          | 73 : 1418-1419,<br>1996. |
| 287. | 福田 英三<br>今山 修平  | ステロイド外用剤の添加物による接触性皮膚炎 - 添加物一覧表 -.  | Physicians Therapy Manual.      | 8 : 7,<br>1996.          |
| 288. | 今山 修平   | 解説 : アトピー性皮膚炎の新しい理解.   | 福岡医誌.                           | 87 : 156-161,<br>1996.   |
| 289. | 今山 修平   | 汗中の微量物質の検出から乳癌のスクリーニングまで.  | マルホ皮膚科セミナー.                     | 121 : 28-31,<br>1996.    |
| 290. | 今山 修平   | アトピー性皮膚炎の新しい理解と治療.   | 鹿島藤津地区医師会会報.                    | 70 : 12-13,<br>1996.     |
| 291. | 今山 修平   | アトピー性皮膚炎の新しい理解.  | Medicament News.<br>(ライフサイエンス社) | 1510 : 2-3,<br>1996.     |



292. 今山 修平 アレルギー疾患：臨床・研究の最前線—皮膚科からみたアレルギー疾患—。 アニムス。 4 : 22-25, 1996.
293. 辻田 淳  
中村 恭子  
安元慎一郎  
上野 安孝 Pacemaker dermatitis. 西日皮膚。 58 : 200-202, 1996.
294. 安元慎一郎  
辻田 淳  
坂口 正行 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群。 西日皮膚。 58 : 369-370, 1996.
295. 吉田 雄一  
桐生 美麿  
永江祥之介 巨大懸垂性神経線維腫。 西日皮膚。 58 : 612-614, 1996.
296. M. Furumura  
H. Ishikawa Actin bundles of human hair follicles as revealed by confocal laser microscopy. Cell Tissue Res. 283 : 425-434, 1996.
297. M. Furumura  
C. Sakai  
Z. Abdel-Malek  
G. S. Barsh  
V. J. Hearing The interaction of agouti signal protein and melanocyte stimulating hormone to regulate melanin formation in mammals. Pigment Cell Res. 9 : 191-203, 1996.
298. S. Kurosawa  
M. Harada  
Y. Shimomiya  
H. Terao  
K. Nomoto The concurrent administration of OK432 augments the antitumor vaccination effect with tumor cells by sustaining locally infiltrating natural killer cells. Cancer Immunol Immunother. 43 : 31-38, 1996.
299. H. Terao  
M. Harada  
S. Kurosawa  
Y. Shinomiya  
O. Ito  
K. Tamada  
M. Takenoyama  
K. Nomoto The opposite effect of tumor-infiltrating natural killer cells on *in vivo* priming of tumor-specific CD8<sup>+</sup> T cells and CD4<sup>+</sup> T cells. Immunobiol. 195 : 172-186, 1996.
300. M. Umesue  
H. Mayumi  
Y. Nishimura  
K. Young-Yun  
K. Omoto  
Y. Murakami  
K. Nomoto Donor-specific prolongation of rat skin graft survival induced by rat-donor cells and cyclophosphamide under coadministration of monoclonal antibodies against T cell receptor  $\alpha\beta$  and natural killer cells in mice. Transplant. 61 : 116-124, 1996.
301. K. Omoto  
Y. Nishimura  
K. Nomoto  
K. Young-Yun  
M. Umesue  
Y. Murakami  
Y. Tomita  
K. Nomoto Anti-CD4 monoclonal antibody reduces the dose of cyclophosphamide required to induce tolerance to H-2 haplotype identical skin allografts in mice. Immunobiol. 195 : 16-32, 1996.

- |      |   |  |                   |                        |
|------|---|--|-------------------|------------------------|
| 302. | 村上義之  | アルストロメリアとキクによる接触性皮膚炎.                        | 西日皮膚.             | 58 : 197-199,<br>1996. |
| 303. | 飯田 隆雄<br>平川 博仙<br>松枝 隆彦<br>堀 就英<br>中尾 知子<br>中山樹一郎 | 油症患者の皮脂および血液中のPCCDs, PCDFsおよびCoplanarPCBs濃度. | 福岡医誌.             | 88 : 177-185,<br>1997. |
| 304. | 永江祥之介<br>中山樹一郎                                    | 皮膚<br>目で見る前癌状態—その考え方と診療・10.                  | 日医雑誌.             | 117 : 28-30,<br>1997.  |
| 305. | 中山樹一郎   | 進行期悪性黒色腫治療のアプローチと問題点.                        | 日臨皮会誌.            | 52 : 76-80,<br>1997.   |
| 306. | 中山樹一郎   | 中枢神経障害と皮膚症状.                                 | Modern Physician. | 17 : 456-457,<br>1997. |

## 著 書

- |                                     |  |  |                             |
|-------------------------------------|--|--|-----------------------------|
| 1. 今山 修平                            | 蕁麻疹における血管透過性亢進の機序.   | 皮膚科MOOK.<br>蕁麻疹,<br>金原出版, 東京.  | 22-30,<br>1988.             |
| 2. 今山 修平                            | グロムス腫瘍.  | 皮膚科MOOK.<br>皮膚の良性腫瘍,<br>金原出版, 東京.  | 212-219,<br>1988.           |
| 3. T. Matsumoto<br>T. Matsuda       | Critical review of<br>hyalohyphomycosis caused<br>by <i>Fusarium</i> species.                      | Proceedings of the<br>X Congress of<br>International<br>Society for Human<br>and Animal<br>Mycology. | 292-296,<br>1988.           |
| 4. 松本 忠彦<br>松田 哲男                   | 組織内菌形態と disease nomenclature.  | 真菌症と生体防御機構.<br>協和企画通信.   | 277-284,<br>1988.           |
| 5. 松田 哲男<br>松本 忠彦                   | 慢性皮膚粘膜カンジダ症, カンジダ肉芽腫, 深在性カンジダ症.  | 皮膚科 Mook<br>No.11 真菌症.<br>金原出版.  | 169-179,<br>1988.           |
| 6. 松田 哲男<br>松本 忠彦                   | 黒色真菌.  | 真菌の今日的意味.<br>医薬ジャーナル社.   | 49-53,<br>141-150,<br>1988. |
| 7. 松本 忠彦                            | 先端医療で増える新しい真菌症: 医学の進歩の皮肉な副産物 (日和見真菌感染症).   | 皮膚科医からの<br>メッセージ no.6.<br>(クリニックマガジン),<br>バイエル.  | 1988.                       |
| 8. 和田 秀敏<br>三原 公彦<br>和田 恭子<br>片山真里子 | 皮弁生着のための炎症の役割-皮弁壊死予防のための新しい試み-.  | 日本リディアオリリー<br>協会62年度年報.  | 97-102,<br>1988.            |
| 9. S. Imayama                       | What is going on behind the<br>manifestation of skin sagging,<br>wrinkling and actinic elastosis ? | International<br>Conference on<br>Skin Aging.<br>University of<br>Tokyo Press,<br>Tokyo.             | 113-124,<br>1989.           |
| 10. 今山 修平                           | 梅毒.  | 皮膚臨床電頭<br>アトラス第2巻.<br>講談社, 東京.   | 54-55,<br>1989.             |
| 11. 松本 忠彦                           | 皮膚カンジダ症.   | 今日の治療指針<br>1989年版.<br>医学書院.  | 637-638,<br>1989.           |

- |     |  |  |   |                   |
|-----|--|--|---|-------------------|
| 12. | T. Matsumoto   | Infection disease mycoses.   | A Colour Atlas of Dermato-Immuno-histocytology. Wolf Medical Publication, London.     | 116-117,<br>1989. |
| 13. | 松本 忠彦  | カンジダ性間擦疹, カンジダ性指趾間糜爛症, 絨毛状, ホルモデンドルム, マッシュ標本, ミコセントロスボラ症, 耳カンジダ症.  | 微生物学辞典.<br>枝報堂出版.   | 1989.             |
| 14. | A. Toshitani<br>K. Taniguchi<br>K. Nomoto                                  | Inverse relationship in H-2 associated lysis between NK cells and rIL-2 activated killer cells.          | New Horizons of Tumor Immunotherapy. Elsevier-Science Publishers B. V., Amsterdam.    | 217-222,<br>1989. |
| 15. | 今山 修平  | 成長と老化に伴う結合組織線維構築の変化.   | 現代皮膚科学大系年間版'90.<br>中山書店, 東京.  | 14-20,<br>1990.   |
| 16. | 西村 正幸<br>占部 篤道   | 肉芽腫症.  | 皮膚の好酸球浸潤とその周辺.  | 200-213,<br>1990. |
| 17. | T. Sasazuki<br>K. Sugio<br>M. Sasaki<br>Y. Yanagawa<br>K. Urabe            | Genetic and molecular analysis of familial polyposis coli.   | Hereditary Colorectal Cancer<br>Springer-Verlag,<br>Tokyo.                            | 461-467,<br>1990. |
| 18. | S. H. E.<br>Kaufmann<br>M. E. Munk<br>B. Schoel<br>T. Koga<br>U. Steinhoff | Effector T cells against heat shock proteins: Possible role in pathogenesis of mycobacterial infections. | Natural Resistance to Infection.<br>Stuttgart, Gustav Fischer Stuttgart,<br>New York. | 103-110,<br>1990. |
| 19. | 今山 修平  | 解剖, 生理, 病理.  | 皮膚科疾患患者の看護.<br>中山書店, 東京.  | 1-29,<br>1991.    |
| 20. | 今山 修平  | 母斑と母斑症.  | 皮膚科疾患患者の看護.<br>中山書店, 東京.  | 132-141,<br>1991. |
| 21. | 今山 修平  | 悪性腫瘍.  | 皮膚科疾患患者の看護.<br>中山書店, 東京.  | 145-156,<br>1991. |
| 22. | 安元慎一郎  | 帯状疱疹.  | 皮膚疾患最新の治療 '91-'92. 南江堂.   | 157-158,<br>1991. |
| 23. | T. Sasazuki<br>K. Urabe<br>F. Harada<br>T. Iwanaga<br>A. Kimura            | Structural analysis of the genes within the HLA class III region on chromosome 6.                        | New Aspects of the Genetics of Molecular Evolution.<br>Springer-Verlag,<br>Berlin.    | 99-116,<br>1991.  |

- |     |                                   |   |   |                   |
|-----|-----------------------------------|---|---|-------------------|
| 24. | T. Matsumoto<br>L. Ajello         | Dermatiaceous fungi potentially pathogenic to humans and lower animals. | Handbook of Applied Mycology Vol.II Humans, Animals, and Insects. Marcel Dekker Inc, New York.    | 117-162,<br>1991. |
| 25. | T. Otani-<br>Tanahashi<br>R. Mori | UV treatment of skin : Effect on Langerhans cells and HSV-1 infection.  | Skin Langerhans (Dendritic) Cells in Virus Infections and AIDS. Kluwer Academic Publishers, ISBN. | 204-220,<br>1991. |
| 26. | 和田 秀敏                             | 皮膚科関係.  | ビデオによる他科に学ぶ基本的手術手技.<br>中外医学社.   | 53-66,<br>1991.   |
| 27. | 中山樹一郎<br>尾木 兵衛<br>松本 忠彦           | 抗生物質・抗結核剤：皮膚結合織疾患のある患者への投薬.   | ミクス (株)<br>東京.  | 1992.             |
| 28. | 今山 修平                             | スポロトリコーシス.  | モダンクリニックルポイント皮膚科.<br>金原出版, 東京.  | 218-219,<br>1992. |
| 29. | 松田 哲男<br>松本 忠彦                    | プロトテカ.  | 臨床検査 Mook 3<br>真菌症の臨床検査.<br>金原出版.   | 94-96,<br>1992.   |
| 30. | 中山樹一郎                             | 局面性類乾癬.   | 皮膚疾患最新の治療.<br>南江堂, 東京.  | 117,<br>1993.     |
| 31. | 中山樹一郎                             | 悪性リンパ種.   | 最新内科学大系<br>第78巻.<br>皮膚の疾患.<br>中山書店, 東京.   | 259-267,<br>1993. |
| 32. | 今山 修平                             | 血管腫.  | 皮膚疾患最新の治療<br>'93-'94.<br>南江堂, 東京.   | 201-202,<br>1993. |
| 33. | 今山 修平                             | 血液造血器疾患と皮膚.   | 最新内科学大系<br>中山書店, 東京.  | 48-53,<br>1993.   |
| 34. | 安元慎一郎                             | ヘルペスウイルスの実験動物モデル.   | ヘルペスの診療<br>Q & A.<br>臨床医薬研究会.   | 34-36,<br>1993.   |
| 35. | 安元慎一郎                             | ヘルペス性歯肉口内炎の経過, 予後, 治療.  | ヘルペスの診療<br>Q & A.<br>臨床医薬研究会.   | 40-42,<br>1993.   |
| 36. | 安元慎一郎                             | 水痘の再感染.   | ヘルペスの診療<br>Q & A.<br>臨床医薬研究会.   | 206-208,<br>1993. |

37.	中山樹一郎	乾癬のシクロスポリン療法—乾癬に対する作用機序.	乾癬とシクロスポリン. 国際医学出版, 東京.	89-94, 1994.
38.	棚橋 朋子 今山 修平	乳児乾燥性湿疹.	アレルギー性皮膚疾患: 診断と治療. 臨床医薬 研究協会出版, 東京.	22-23, 1994.
39.	宮原 裕子 今山 修平	アトピー性皮膚炎における乾燥性足 底皮膚炎.	アレルギー性皮膚疾患: 診断と治療. 臨床医薬 研究協会出版, 東京.	24-25, 1994.
40.	利谷 昭人 今山 修平	アトピー性皮膚炎における耳切れ.	アレルギー性皮膚疾患: 診断と治療. 臨床医薬 研究協会出版, 東京.	26-27, 1994.
41.	今山 修平 監修	大人のアトピー.	株式会社法研, 東京.	1994.
42.	今山 修平	アトピー性皮膚炎.	今日の治療指針 1994年版. 医学書院, 東京.	602-603, 1994.
43.	今山 修平 棚橋 朋子	生活環境とアトピー性皮膚炎.	アレルギー炎症性疾患. 先端医学社, 東京.	409-419, 1994.
44.	松田哲男 松本忠彦	Subcutaneous phaeohyphomycosis caused by <i>Phialophora</i> <i>parasitica</i> .	稀ではあるが典型的な 皮膚真菌症. (第37回日本医真菌学 会総会組織委員会)	51-54, 1994.
45.	松田 哲男 松本 忠彦	Disseminated hyalohyphomycosis caused by <i>Fusarium solani</i> .	稀ではあるが典型的な 皮膚真菌症. (第37回日本医真菌学 会総会組織委員会)	77-80, 1994.
46.	松田 哲男 松本 忠彦	Cutaneous protothecosis.	稀ではあるが典型的な 皮膚真菌症. (第37回日本医真菌学 会総会組織委員会)	117-120, 1994.
47.	中山樹一郎	好酸球性膿疱性毛包炎.	皮膚疾患最新の治療. 南江堂, 東京.	117, 1995.
48.	中山樹一郎	その他の疾患における自己血輸血 皮膚科.	自己血輸血ハンドブック. 九州大学出版会, 福岡.	105-106, 1995.
49.	今山 修平	全身性血管炎.	皮膚疾患最新の治療 '95-'96. 南江堂, 東京.	49-50, 1995.
50.	今山 修平	口囲皮膚炎.	今日の治療指針 1995年版. 医学書院, 東京.	647, 1995.

- |     |  |  |   |                   |
|-----|--|--|---|-------------------|
| 51. | V. J. Hearing<br>T. Kobayashi<br>K. Urabe<br>B. Potterf<br>K. Kameyama | The characteristics of biological melanins are influenced at multiple points in the melanogenic pathway. | Melanin : Its Role in Human Photoprotein. Valdenmar Publishing Co, Overland Park. | 117-124,<br>1995. |
| 52. | 桐生 美麿  | 多発性汗腺膿瘍.   | 皮膚疾患最新の治療 '95-'96.<br>南江堂.  | 143,<br>1995.     |
| 53. | 古村 南夫  | 蛍光顕微鏡モードによる応用(全載標本への応用)ー毛包内アクチン束の観察.   | 新しい光学顕微鏡第二巻, 共焦点レーザー顕微鏡の医学・生物学への応用.<br>学際企画, 東京.                                  | 73-79,<br>1995.   |
| 54. | 中山樹一郎  | 悪性黒色腫.   | 今日の治療指針.<br>医学書院, 東京.   | 667-668,<br>1996. |
| 55. | 占部 篤道<br>中山樹一郎   | T細胞リンパ腫, 菌状息肉症.  | 皮膚悪性リンパ腫アトラス.<br>文光堂, 東京.   | 36-45,<br>1996.   |
| 56. | 中山樹一郎<br>森 茂郎  | Anaplastic large cell lymphoma<br>未分化大細胞リンパ腫.  | 皮膚悪性リンパ腫アトラス.<br>文光堂, 東京.   | 92-95,<br>1996.   |
| 57. | 中山樹一郎  | 温熱療法.  | 皮膚悪性リンパ腫アトラス.<br>文光堂, 東京.   | 176-179,<br>1996. |
| 58. | 中山樹一郎  | 腫瘍マーカー一覧表.   | キーワードを読む<br>皮膚科.<br>医学書院, 東京.   | 139,<br>1996.     |
| 59. | 中山樹一郎  | 毛細血管拡張をきたす疾患.  | 今日の皮膚疾患治療指針第2版.<br>医学書院, 東京.  | 18-19,<br>1996.   |
| 60. | 中山樹一郎  | 主な腫瘍のTNM分類.  | 今日の皮膚疾患治療指針第2版.<br>医学書院, 東京.  | 35-137,<br>1996.  |
| 61. | 中山樹一郎  | 基底細胞癌.   | 今日の皮膚疾患治療指針第2版.<br>医学書院, 東京.  | 386-387,<br>1996. |
| 62. | 今山 修平<br>棚橋 朋子   | 環境整備: ダニ対策を中心として.  | アトピー性皮膚炎治療.<br>先端医学, 社東京.   | 52-63,<br>1996.   |
| 63. | 今山 修平  | ハイパーサーミア.  | キーワードを読む<br>皮膚科.<br>医学書院, 東京.   | 117,<br>1996.     |
| 64. | 今山 修平  | 分泌型免疫グロブリンA.   | キーワードを読む<br>皮膚科.<br>医学書院, 東京.   | 127,<br>1996.     |

65.	今山 修平 棚橋 朋子	アトピー性皮膚炎の増悪因子について教えて下さい.	アレルギー疾患Q&A. 医薬ジャーナル社, 東京.	125-127, 1996.
66.	A. Toshitani S. Imayama	Secretory IgA deficiency on skin and mucous membrane in patients with atopic dermatitis.	Current Advances in Pediatric Allergy and Clinical Immunology. Churchill Livingstone, Osaka.	51-54, 1996.
67.	今山 修平	紅皮症 (剥脱性皮膚炎).	今日の治療指針 1997年版. 医学書院, 東京.	658-659, 1996.
68.	安元慎一郎	男性性器ヘルペス.	ヘルペスウイルス 感染症. 臨床医薬研究会.	164-168, 1996.
69.	安元慎一郎	小児の急性発疹症.	今日の皮膚疾患 治療指針第2版. 医学書院.	4-7, 1996.
70.	桐生 美麿	皮膚白血病.	皮膚リンパ腫 アトラス. 文光堂, 東京.	102-105, 1996.
71.	中山樹一郎	悪性リンパ腫, ATL (成人T細胞白血病・リンパ腫).	皮膚疾患最新の治療 '97-'98. 南江堂, 東京.	194-197, 1997.
72.	安元慎一郎	Gianotti 病および Gianotti 症候群.	皮膚疾患最新の治療 '97-'98. 南江堂.	156, 1997.
73.	松田 哲男	放線菌症, ノカルジア症.	皮膚疾患最新の治療 '97-'98. 南江堂, 東京.	147, 1997.



## その他

- |     |  |  |                                 |                        |
|-----|--|--|---------------------------------|------------------------|
| 1.  | 中山樹一郎  | 悪性リンパ腫に対する温熱療法の研究.                             | 財団法人日本リディアオリリー協会<br>平成元年度年報.    | 13 : 117-121,<br>1989. |
| 2.  | 今山 修平  | 皮膚老化現象の経時的, 形態学的解説—皺とたるみの発症機序—.                | 日本リディアオリリー協会年報.                 | 83-90,<br>1991.        |
| 3.  | 松本 忠彦  | 身辺雑記.  | 皮膚臨床.                           | 33 : 615-616,<br>1991. |
| 4.  | 今山 修平  | 紫外線の皮膚組織への作用—紫外線は組織障害性であるにも拘らず弾性線維が増加するのはなぜか—. | 太陽紫外線防御研究委員会学術報告.               | 2 : 22-29,<br>1992.    |
| 5.  | 桐生 美磨  | 世界の皮膚科学者 (105) : Martin C. Mihm 教授.            | 西日皮膚.                           | 54 : 807,<br>1992.     |
| 6.  | 井上 光世<br>中山樹一郎   | 悪性黒色腫組織における血管平滑筋型 $\alpha$ -アクチンの発現変化.         | 財団法人日本リディアオリリー協会<br>平成4年度年報.    | 16 : 83-86,<br>1993.   |
| 7.  | 今山 修平<br>古賀 哲也<br>久保田由美子<br>宮原 裕子<br>橋爪 民子<br>棚橋 朋子<br>帆足真理子 | アトピー性皮膚炎：ダニ抗原の関与と病型・治療に対する反応性.                 | 厚生省アレルギー総合研究事業研究報告書.<br>(平成4年度) | 212-216,<br>1993.      |
| 8.  | 今山 修平<br>久保田由美子<br>古賀 哲也<br>利谷 昭人<br>宮原 裕子<br>橋爪 民子<br>棚橋 朋子 | アトピー性皮膚炎：ダニ抗原の関与と病型・治療に対する反応性.                 | 厚生省アレルギー総合研究事業研究報告書.<br>(平成5年度) | 197-200,<br>1994.      |
| 9.  | 今山 修平<br>久保田由美子<br>古賀 哲也<br>利谷 昭人<br>宮原 裕子<br>橋爪 民子<br>棚橋 朋子 | アトピー性皮膚炎：患者では汗に含まれる免疫グロブリンが低下している.             | 厚生省アレルギー総合研究事業研究報告書.<br>(平成6年度) | 149-152,<br>1995.      |
| 10. | 今山 修平<br>古賀 哲也<br>利谷 昭人<br>久保田由美子<br>宮原 裕子<br>橋爪 民子<br>棚橋 朋子 | アトピー性皮膚炎：アレルギーの側面と皮膚機能異常の側面.                   | 厚生省アレルギー総合研究事業総合研究報告書.          | 198-202,<br>1995.      |

11. 山本 昇壯  
森田 栄伸  
高路 修  
今山 修平  
古川 福美  
真弓 光文  
田中 浩珍  
田 洋一
- アトピー性皮膚炎の疾患モデル動物の開発, 本症におけるマスト細胞の役割および増悪因子に関する研究.
- 厚生省長期慢性疾患総合研究事業アレルギー総合研究報告書.  
(平成7年度)
- 90-92,  
1996.



日本皮膚科学会第299回福岡地方会懇親会  
堀 嘉昭教授退官記念祝賀会

堀 嘉昭 教授 退官記念 平成 8 年 11 月 23 日 於：ホテルニューオータニ博多



昭和63年(1988)11月 日本皮膚科学会 第267回福岡地方会にDr. T.B. Fitzpatrick を迎えて



昭和62年(1987年)3月 占部 治邦教授の退官記念会にて(西鉄グランドホテル)



昭和63年(1988年)4月 医局対抗野球



昭和63年(1988年)10月 中国江西省 江西医学院での講義に招かれて



平成2年(1990)5月 ニューヨークにて  
Dr. A.B. Ackerman, 占部 篤道先生(九州大), 玉田 伸二先生(徳島市)と



平成 2 年(1990年) 6 月 医 局 旅 行



平成 4 年(1992年) 4 月 第91回 日本皮膚科学会総会・学術大会、幕張にて  
学会懇親会(幕張プリンスホテル) で三島 豊 神戸大教授、大河原 章 北大教授と



平成5年(1993年)4月 第92回 日本皮膚科学会総会・学術大会、岐阜にて  
Dr. Steve Katz (米国 NIH) と

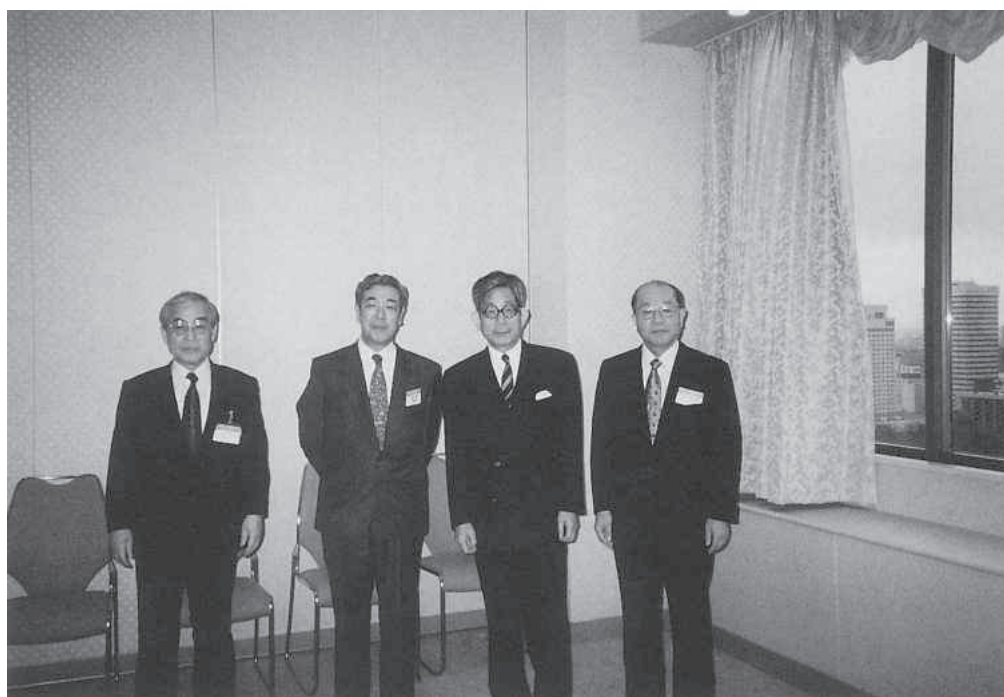


平成5年(1993)7月 日本短波放送の司会  
東京船員保険病院 水野 惇子先生、東京大学保健学 手塚 圭子先生と





平成6年(1994年)4月 第93回 日本皮膚科学会総会・学術大会、  
懇親野球大会の始球式(福岡ドーム)



平成8年(1996年)6月 第95回 日本皮膚科学会総会・学術大会、札幌にて  
大江 健三郎氏、多田 富雄 東大名誉教授、大河原 章 会頭と

## 祝 辞

九州大学総長 杉 岡 洋 一

皆様、ご紹介いただいた杉岡でございます。堀先生のご退官に際しまして、一言、ご挨拶とお祝いを申し述べさせていただきたいと思ひます。

まずは、堀先生、奥様、大変長い間お世話になりました、ありがとうございます。多くの輝かしい業績を挙げられ、また、俊才を多くお育てになりました。そして、ご健康でご退官なさいますことを心からお祝い申し上げます。

実は、堀先生が少し早めにご退官なさいます原因をつくりましたのが私でございます、その点、皮膚科学教室にお詫びを申し上げなければいけないのでございますが、あるとき、麻生社長から飯塚病院の院長についてのご相談がございました。今後国際的に活躍いただく、広い視野を持った先生を院長にいただきたいというお話でございました。いろいろと考えまして、堀先生が最もふさわしいのではないかとということで、先生に大変ご無理なお願いを私、医学部長のときに申し上げます。

堀先生は国際的にも非常に活躍でございますし、学術審議会の委員や大学設置・学校法人審議会の委員をなさったり、学位授与機構の審査会の委員もなさっておられるという、非常に広い視野をお持ちでいらっしゃいますので、これはもう堀先生しかないと思ったわけあります。また、以前から、教室と院長人事の連携というご縁がございましたが、今後は九大の中で最も

ふさわしい方を院長としてお願いし、ご推薦申し上げるのが、やはり、九州大学の生きていく道であろうということで、堀先生には大変ご迷惑をおかけいたしました。しかし、快くお引き受けいただきまして、麻生社長ともいろいろお話をなさり、お2人とも非常に気がお合いになったのではないかと思います。九州大学の大きな関連病院の一つである飯塚病院が堀院長のもとで今後ますます発展していくことは間違いないと思っています。

この点、堀先生にはご迷惑もおかけいたしました。今後、九州大学のためにより一層ご活躍いただきますようお願い申し上げます。

今は、バブルがはじけ日本は経済的打撃を受けましたが、これも何か聞くところによると、過去の米国大統領のブレーンには経済学者が多くて、金利だとか、為替の問題だとか、そういう経済の仕組みのみ世の中が動くとしか考えなかった、ほかの地道な技術面や科学の重要性をあまり考えなかった、これが問題であるということです。今後の医療に関しても経済論理が優先する危険が大いにある世の中でございますので、日本の医療全般に関してもどうぞ堀先生の広い視野に立ったご指導をいただけるようお願い申し上げます。私のご挨拶とお祝いの言葉にかえさせていただきます。

本日はどうもおめでとうございました。

## 祝 辞

九州大学医学部長 杉 町 圭 蔵

堀先生、本日はおめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

堀先生におかれましては、昭和62年の10月に九州大学医学部の教授にご就任以来、今日まで9年余りにわたって九大医学部のために大変ご尽力いただきました。本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

先生はその円満なお人柄、あるいは素晴らしい探求心、それに教室をまとめてうまく運営していられるリーダーシップ、こういうものをいかに発揮していただきまして、九大の皮膚科のために、あるいは九大医学部のためにご尽力いただきました。この間、堀先生におかれましては、日本皮膚科学会の理事長をなさり、一昨年でしたか、日本皮膚科学会総会をこの福岡で開催されました。また、先生のライフワークである Melanoma の国際シンポジウムを昨年、福岡で開催しております。

Melanoma は我が国では非常にまれな、少ない疾患だと聞いておりましたが、現在、どんどん増加していております。おそらく、21世紀には我が国においても Melanoma は common disease といいたいでしょうか、患者さんが非常に増えてくると思います。そういう意味で、堀先生のこれまでのご業績が21世紀になりますと、ますます輝いてくるのではないだろうか、このように私は期待しておりますし、楽しみにしております。

九大医学部ももう間もなく100年になりますが、堀先生におかれましては、来月から飯塚病院の院長先生にご就任なさることになっております。先生は来年の3月にはご退官になる予定

でしたが、飯塚病院の方から、院長先生としては是非来ていただきたい、しかも一日も早く来ていただきたいと、強いラブコールがございました。九州大学医学部といたしましても、堀先生を手放すのは非常に残念ですが、飯塚病院からの熱意にほだされまして、12月から飯塚病院の方に移られることになっております。

飯塚病院は先生方、ご存じと思いますが、ベッドが1157床ございます。日本でも有数の病院でございますし、九大医学部の卒業生も非常に沢山お世話になっております。そういうことで、九大医学部がまた先生のお世話になることが多いと思いますが、これからもどうかよろしくお願いいたします。

私は、研究棟では堀先生と同じ4階に同居しておりまして、堀先生のお部屋の前、あるいは皮膚科の研究室の前を通ることが多く、堀先生には個人的にも大変親しくしていただいておりますので、これから先生のお姿を毎日お見受けできなくなることは非常に淋しく、残念ですが、今後も堀先生におかれましては、より高いところから九大医学部をご指導いただきたいと思っております。

10月21日でしたでしょうか。堀先生の最終講義がございました。先生のこれまでのご研究を非常にわかりやすくお話いただきましたが、その中で、特に印象に残っておりますのは、「皮膚は内蔵の鏡である」というお言葉でした。私も全くそう思います。堀先生におかれましては今後もこの皮膚を大切に、ぜひお元気で活躍いただきたいと思っております。

きょうは本当におめでとうございます。

## 祝 辞

九州大学医学部附属病院院長 熊 澤 淨 一

ご紹介賜りました、ただいま病院長を務めております、熊澤でございます。

堀先生には九大においてになって約10年間、皮膚科学教室、診療科を上手にマネジメントしていただきました。高度な最新医療にもいろいろと取り組んでいただいて、それを推進されたこと、九大病院の名を発揚していただいたこと、また、後輩や弟子を沢山お育てくださったことに対して、九大病院を代表しまして、まず最初にお心から御礼申し上げたいと思います。先生、ありがとうございます。

私、実は泌尿器科を担当しております。で、感慨深くこのステージに立っているのです。2年前、堀先生がここで、皮膚科学会総会を主宰されました。その2週間前、私もここで泌尿器科学会の総会を開催したのでございます。そのときに、「九州大学泌尿器科学教室開講70周年記念パーティー」というものも行わせていただきました。日本で最初に泌尿器科学講座ができたのが、九大なんですよ。それはとりもなおさず、皮膚泌尿器科学からの分離でございますので、当時の皮膚科の先生方の深いご理解があった賜物と感謝しています。

その記念行事のことでございますが、ちょうど今日みたいに全国から泌尿器科の先生方がおいでになっていて、各地区からの代表の方々が壇上に上がられたお祝いの言葉を次々にお述べになったわけでございます。日本で最初の教室であることが、大変嬉しく感じられたひとときでございます。ただ、これにはちょっと裏話がございまして、慈恵医大教授が帰られた後お分りになられたのですが、泌尿器科学講座ができたのは、慈恵医大の方が九大より数カ月先だったそうでございます。しかし、こういうのはお祝いをした方が「先」なんですよ。(笑)

そういうことで、泌尿器科は皮膚科学教室から70年も前に分かれさせていただいたのですが、

私は先ほど座長をされた幸田先生と一緒に昭和35年に入局致しました。34年卒の35年入局ですが、そのころ、世間一般は「皮膚・泌尿器科」標榜の関連病院ばかりでございました。したがって、私どもも就職したときには皮膚科に泌尿器科も知っていた方がいだろうということで、外来診療、病棟診療もお互いに若干持たせていただいております。このシステムは、私どもで終わりになり翌年から完全に分かれてしまいました。

その1年間、私、非常に苦勞したことがございます。先ほど西川先生が、日本の方が見つけられた三つの病気をご紹介くださって、私も感慨深く聞かせていただきました。私は皮膚科の外来ではいわゆる *Beschreiber* をさせていただきました。当時は樋口教授でして、「なんとかか」という診断名の後に必ず “nach Higuchi” と言われるんです。その意味がよくわからなくて、要するに「樋口がこう病名をつけたのだ」ということだと思っていたのですが、まさにそのとおりでございました。その「樋口が命名した病気」というのが何か沢山ありましたが、きょうは一つも出てまいりませんでしたね(笑)。

とにかく “nach Higuchi” とだけ書いていると、西尾先生が、あれは「○○というんだ、そしてもう一つの病名は△△というんだ」と言われる。その△△が教科書に載っている病名でございました(笑)。

まあ、そういうふうにして1年間は入院患者さんの主治医もさせていただきましたが、私は psoriasis の方を数例持たせていただいております。毎週、回診のときに困りました。何をしたかということをお報告しなくちゃいけないんですが、Goeckerman 治療というものをやることになっていまして、毎週「ゲッカーマンをやっています」、「ゲッカーマンをやっています」と

言っているものですから、とうとう最後の頃、樋口先生は私のところで「あ、ゲッカーマンやっっているんだらう、いいよ」とか言って行かれたようなことでした。ちょうど月光仮面がはやっていたところでした（笑）。

実は、教授会で堀先生に来ていただきたいということが決まったときに、正直申し上げまして、本当に来ていただけるのだろうかという心配がございました。中央でどンドン活躍される先生だと思っておりましたので。しかし、おいでいただけるということで大変嬉しく思ったのですが、教授会一同のほかにも、もう一人ものすごく喜んだ男がおります。本当に個人的なことを申し上げて恐縮ですが、私の父親がでございます。私の父親は、今日おいでになっている堀先生の奥様のお父様と非常に親しくさせていただいておりますので……。幸いにして、父は92歳でまだ健在で田川に住んでおります。そこでもう50数年間、臨床医をやっておりますが、堀先生が飯塚病院の病院長になられることを聞きましてさらに身近においでになると大変喜んでおります。

きょう全国各地からお集りの先生方に申し上げておきますが、堀先生が何か炭鉱病院の病院長になるのではないかと、心配しておられるかもしれませんが、炭鉱はもうなくなりました。今、筑豊には炭田は一つもございません。ボタ山が幾つか記念的に残っているだけです。飯塚と田川と直方、この三つを含めて「筑豊」と申しますが、その中で飯塚が一番の文化都市でございます。「嘉穂劇場」という劇場もございまして、もうすぐ梅沢富美男も来演しますが（笑）、日本で非常に古い劇場でございます。そういう古い文化も残している一方、「飯塚コン」

とって、オペラのアリアとか、ピアノのコンテストもやっています。本当に変わっております。「変わっている」というのは「ヘン」ではなく、近代的に変わってきたわけでございます。その代表が飯塚病院なんです。

飯塚に行けば、いやが応でも飯塚病院が目に入ります。飯塚病院がもっとも高い建物なんです。病院長室は立派な部屋でして、堀先生は非常に狭い九大の教授室におられました。あとしばらくすると、あの大きな病院長室を使われるのだと、私、本当に羨ましく思っております。

全国からお集りの先生方、飯塚病院はそういうところでございます。本当に立派な病院です。病院の宣伝をするわけではございませんが、1000ベッド以上で黒字でございます。黒字というのは大変だと思います。しかし、先生が恋い焦がれて赴任されるということは、さらに利益を上げてほしいという病院の要望があるのかもわかりませんが……。先生、そこは覚悟しておられた方がいいかと思っております。

堀先生、九大の10年間、本当にありがとうございました。九大病院としても本当に残念なところが多々あるのでございますが、先生の意を酌んだ次の方がまた九大の皮膚科教室、また、その診療面も継いでいかれることと信じております。近くでございますから、今後ともご指導にお立寄り頂きたいと思っております。奥様と子どもどうぞお元気で更なるご活躍を心からお祈り申し上げます。

途中はどうぞ個人的な話しになったみたいで、申しわけございませんが、最後にもう一度、心からのお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

## 祝 辞

日本皮膚科学会理事長 原 田 昭 太 郎

堀先生、ご退官、どうもおめでとうございます。長い間、ご苦勞様でしたと申し上げたいと思います。

実は、堀先生とは、私が医学部に進学して野球部に入ったときに、2年先輩に先生がおられた。その青春時代からの付き合いでございます。40年近いかなり長い付き合いをしていると思います。私が先生に初めてお目にかかったとき、私なんか田舎者で、学生服を着ている野暮ったい学生でしたが、堀先生は非常に都会的な洗練されたスマートな学生だったと思います。野球も非常にうまく、そつのない、頭腦的なプレーをしていました。

野球の話から入って申しわけありませんが、要するに、青春時代からの付き合いの中で、今さら私が堀先生の業績や日本皮膚科学会に対する貢献の話をして、堀先生もテレるだろうと思いますので省略させていただきます。

そのころ、我々田舎から来た連中は、どちらかという金がなくて、酒は主にトリスを飲んでいましたけれども、堀先生のように東京の自宅から通っている人は多少リッチで、もうちょつといい酒を飲んでいたようでした。野球部の合宿を毎年夏やっていましたが、ある夏、先輩の後に東京医科歯科大学の外科の教授になられた三島先生が、サントリーの角瓶を差し入れてくれました。これは合宿明けの最後の晩に、酒を飲んで騒ぐという習慣があったからですが、そのサントリーを、我々の部屋で先輩たちが全部事前に飲んでしまいました。当時、角瓶というと、我々から見るとかなり高級なお酒という感じがしましたので、バレたら先輩がうるさいからというので、寮の売店で当時1瓶360円で売っていたトリスを買ってきて詰め替え、最後の晩にそれを出しましたら、堀先生はじめ先輩たちは「いやァー、やっぱりウマイな」とか言っ

て飲んでおりました(笑)。我々後輩は「よかった、よかった、バレなかった」と、ほくそ笑んだようなこともありました。

堀先生も我々も青春時代は野球にもそこそこの情熱を持ってやっておりましたが、医局に入りますと、当時、久木田先生も猛烈に野球熱心でした。医局野球が盛んでして、野球部出身者が皮膚科に結構入っておりました。中内先生、伊藤先生、堀先生、高岩先生、そして私が入って、その後も何人も入りましたが、実は、その野球部から入った連中というのは大体勉強が嫌いで、大勢入ったんだけど、この中で将来教授になれるようなヤツがいるのかなという話もありまして、実は心配していたんですが、その中で堀先生が我々と違って非常に熱心に研究を始めまして、努力されて順調に教授になられました。1人ぐらい教授になってくれると我々も格好つくなど言っておりましたが、その後、高岩先生もなられまして、我々もほっとしたという思いもありました。

そういう若いころの野球に対する情熱が、堀先生が当地で日本皮膚科学会総会の会頭をなさったときに、福岡ドームで野球をやろうというような話にもつながったのだらうと思います。当日は久木田先生、占部先生をはじめ多数の先生方が参加して若いころを思い出して非常に楽しくやったという記憶が、まだ昨日のように残っています。

堀先生はこれから大きな病院の病院長になれるということですので、今までと違った畑でのお仕事で大変だらうと思いますが、青春時代に野球にかけた情熱、根性をもって、これからもどうかまた頑張ってくださいと思っています。

これで挨拶を終わらせていただきます。

## 祝 辞

九州大学名誉教授 占 部 治 邦

ご指名でございますので、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は堀教授の退官記念会に、日本全国からこのように多数の先生方がお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。發起人を代表しまして、まず御礼申し上げます。

私の後任として昭和62年から10年間、九大皮膚科学教室を主宰された堀教授が、このたびめでたく退官されることになりました。長い間、本当にご苦勞様でございましたと御礼申し上げるとともに、私にはまたひとしおなものがございます。

九大医学部は1903年（明治36年）に京都帝国大学福岡医科大学として設立されました。そのときの初代の学長兼病院長は大森治豊先生でございます。大森先生は東大医学部の第2回の卒業生であります。また、皆様ご承知のように、九大医学部の皮膚科学教室の初代教授旭憲吉先生は、有名な東大の土肥慶蔵先生の高弟でございます。本日お見えになっている産業医大の旭教授のおじい様にあたられます。

九大皮膚科の第2代教授の皆見省吾先生もまた、東大のご卒業でして、岡山医科大学を経て九大にご赴任になられまして、終戦の年までご在職、有名な『皆見皮膚科学』の名著を出しておられます。

第3代は、私の恩師樋口謙太郎教授でございます。ここで初めて九大出身の先生が教授になられましたが、先生は非常に精力的に九大の皮膚科学教室の発展に努力されましたことは、皆様、よくご存じのとおりでございます。その後、私が引き継ぎまして、15年間務めて定年退職い

たしました。

このように、九大出身の皮膚科教授の時代が2代、40年間続いたわけでありますので、私はそのときに、ここで、九大の皮膚科に新しい血を導入して教室の活性化を図る必要があると決断しました。そして今からちょうど10年前、私は山梨に出かけまして、当時の山梨医大の皮膚科教授であられた堀嘉昭先生にお目にかかって、ぜひ九大に来ていただきたいと要請をいたしました。そして、その足で久木田東大名誉教授のお宅を訪ねまして、ぜひ九大の後任教授に推薦していただきたいとお願いをして帰ってまいりました。幸いに私の念願どおり、堀教授の九大ご赴任が実現いたしまして、ご家族ともども福岡に来ていただくことができました。

その後の堀教授のご業績とご活躍は皆様、ご承知のとおりでありまして、また、ただ今諸先生方が述べられたとおりでございます。沢山の俊才を育てられまして、また、海外との交流を図り、内外の幾つもの学会を主宰されております。さらにまた、日本皮膚科学会の理事長をも務められまして、非常に大きな功績を上げておられます。

私は堀先生に九大に来ていただいたことに対して、心から満足しておりまして、先生には本当に長い間ご苦勞様でございましたと、心から御礼申し上げたいとおもっております。

堀先生には今後麻生飯塚病院の院長としてご活躍されると聞いておりますが、どうかご健康に留意されまして、ご家族ともどもお元気にご発展のほどを心からお祈り申し上げます次第でございます。ご静聴ありがとうございます。

## 祝 辞

麻生セメント社長 麻 生 泰

ご紹介いただきました麻生でございます。

きょうの堀先生の退官式で、全国の遠いところからもいらしている皆様は、堀先生がどういふ病院に行かれるのだろうかと思っていらっしゃるかと存じます。筑豊というのとは何か『青春の門』のところではないかと、いろんなイメージがあたりになると思いますが、飯塚病院は私の曾祖父が石炭で非常に大きな仕事をさせていただいたので、地域貢献のため、広く嘉穂郡民のためということで85年前に設立した病院でございます。だんだん大きくなって、今、1000床以上になりましたけれども、ただ大きい病院だったわけです。しかし、昭和57年に県の指定を受けて救命救急センターを併設し、また、平成元年から研修指定病院になりまして、おかげさまで、毎年研修医の希望者が次第に増えて、5倍ぐらいの率で選べる病院になってきたということ、一言、PRさせていただきます。

そういうわけで、堀先生は何か淋しい筑豊の中で、病院だけが建っている町にいらっしゃるわけではございませんので、どうぞ皆様方もご安心いただきたいと思えます。

私はすでに17年間、社長になってこの病院を運営しているんですけども、玄関の入り口に“WE DELIVER THE BEST”という言葉掲げております。その下に「まごころ医療、ま

ごころサービス、それが私たちの目標です」と書いて、大胆にも、日本一のまごころ病院になろうというのが、私の気持でございます。本心でございます。

先ほど総長からお話しいただいたように、私は堀先生にお会いして、ぜひ先生と一緒にやっていきたいなと思えました。堀先生にはいろんなマネジメントでご心配をかけることはないと思えます。そのスタッフは沢山おりますので…。私は堀先生にはリーダーシップを期待しております。「これはやりましょう」ということは引っ張っていただき、「それはできないよ」ということはできないと言って、リーダーシップをとっていただいて、日本一のまごころ病院が筑豊からでも発信できるのだという、私と一緒に夢を持って運営していただきたいという気持ちでいっぱいでございます。

このような立派な会にお招きいただき、私みたいな一介の地方病院の経営者にこういう場を与えていただいて大変光栄に思っております。日本の医療のために、患者のために、真心のある病院を堀院長のもとで運営していきたいと思っております。どうかいろんな形で皆様方がこの筑豊に興味を持って目を向けていただき、応援していただきたいと思えます。

きょうは本当におめでとうございました。



## 祝 辞

国際色素細胞学会会長 Vincent J. Hearing

When I was invited to attend Professor Hori's retirement ceremony, I simply could not consider saying "no", since he has been such a remarkable stimulant and supporter of my scientific career for the past 15 years. I would do anything to come and say "congratulations" to him in person on this tremendous occasion.

Professor Hori, as you know, trained in the Dermatology Department at Harvard Medical School at the beginning of his scientific career and was a part of Dr. Fitzpatrick's "Yakuza", which continues to exert an important influence on pigment cell research today.

Professor Hori, over the years, has made innumerable important advances, especially to our understanding of hypopigmentary and hyperpigmentary disorders at the clinical and basic research levels, but in addition he has given so many other important contributions to science and medicine. These include the hosting of many scientific meetings, such as we have here today, that foster international cooperation and collaboration as well as establishing important friendships and dispersing scientific knowledge. In sum, he has made a number of remarkable contributions to science on many different levels over the past 15 years.

This past month was a special pleasure for me as I was fortunate enough to be selected as an Officer of the International

Federation of Pigment Cell Societies, the IFPCS, and Professor Hori was selected to lead the IFPCS with me. We will now work as a very strong international team over the next 3 years to promote the scientific development and interactions of the IFPCS together.

I would like to tell you one story about Professor Hori that complements his role as a remarkable scientist and clinician. This is perhaps something many of you may not be familiar with, but Professor Hori is also an accomplished artist, among other things. Several years ago, we went on a tour together, and during that trip, we visited a china factory where they gave each of us a cup to paint and keep. We sat down on small benches and began; I of course took my paint brush and finished my painting within about 15 seconds. When I had finished, I looked over at my companion, Professor Hori, who was sitting there looking at his cup and thinking and thinking. He was trying to decide which size paint brush to use, what picture to paint, what colors to use, and everything else. And so, we waited and waited. After about 30 minutes, he was finished. I looked at my little cup and I had painted a very simple happy face on it, I think, with a little smile. Then I looked at Professor Hori's cup—he had painted a beautiful forest on it, with different types of trees, with Mount Aso in the background, and with birds flying overhead, and with so many other incredible details—it was truly a work of art.

And so, we now know that Professor Hori has at least one completely different career than the scientific and clinical one that most of us are familiar with. He is truly an accomplished and successful man of many different talents.

I would like to take this occasion to wish him all the best in his new jobs as Director of the Asoizuka Hospital, as Vice-President of the IFPCS and also for his

many other scientific challenges that will face him in the future. So I must thank you very much for the great honor of inviting me here and allowing me to make my comments about my good friend and Sensei, Professor Yoshiaki Hori.

## 祝 辞

ハーバード大学医学部名誉教授 Thomas B. Fitzpatrick

Dear Professor Hori :

You have had a brilliant career as a physician-scientist, teacher and administrator.

Your patients, your students, and the whole field of dermatology is indebted to you for setting a high standard of ability,

intelligence, kindness and humanity.

You will, I am sure, be a wonderful high administrator in your new position.

Congratulations and good luck !!

## TRIBUTE TO PROFESSOR YOSHIAKI HORI

Oregon Health Sciences University Jon M. Hanifin

Dr. Yoshiaki Hori had recently returned from his research fellowship at Harvard when I arrived in Japan in autumn 1969 for two years as Chief of Dermatology at the U.S. Army Hospital, Camp Zama, near Sagamihara. Professor Kimie Fukuyama introduced me to Dr. Hori at a Tokyo Dermatology Society meeting and said to him, "You must take care of Jon Hanifin." I subsequently attended the monthly Tokyo Dermatology meetings and Dr. Hori was always careful to be sure that I felt comfortable, and translating so that I could follow the presentations.

The meeting I remember best was attending the East Japan. D. A. meeting in Sapporo around 1970. It was a huge meeting, hosted with characteristic flare and exuberance by Professor Kukita. Dr. George Odland was the special guest and I was delighted to be able to assist him and his wife in shopping and sightseeing during their visit. My favorite memories are of the social gatherings and "second meetings" and being led to these all over Sapporo by Dr. Hori and his associates. It was at one of these gatherings that I first became acquainted with Professor Yasuda and I will always cherish the vision of his smiling, mischievous face and his warm manner of making young dermatologists feel part of the community. It was my first introduction to individual singing of old school songs and the realization that this custom is not limited to Western universities but part of a shared tradition throughout the world. That meeting was the start of many

friendships that endure to this day and I am forever very grateful to Dr. Hori for making them possible.

This was the start of a long and very pleasant friendship for us and for our families as well. Dr. and Mrs. Hori have made several visits to see us in Portland and we have made many pleasant reunions in Japan during the past 25 years. Dr. Hori has been a very sensitive and supportive friend during my trips to Japan and his lovely wife, Yukie, has been so very gracious, especially on those occasions when my wife was able to visit as well. They have arranged for us to experience new locations both independently and when hosted by the various friends we have made in academic dermatology all over Japan.

The Portland story I remember best is a time when Dr. Hori came to our home and was scheduled to be a guest speaker in our department the next morning. His subject was electron microscopy and the then-new technique of electron spectroscopic chemical analysis. However, his slide photographs have been lost on the airline in transit. He was understandably anxious, not only about having to give a lecture in English, but then to have to give it without slides—a dermatologist's worst nightmare! However, he rehearsed and drew diagrams with me the night before and gave one of the best "electron microscopy" lectures ever. He clearly proved that dermatologists are not limited to visual images for learning. This story nicely illustrates Dr. Hori's strength of character. He can face

challenges that are quite daunting but he has a resoluteness that allows him to push onward and succeed when others might have give up.

In Sagamihara our workplaces were, for a time in 1971, only a few kilometers apart when Dr. Hori was affiliated with the new Kitasato University Medical School. I was able to be there within minutes from my clinic at the U.S. Army Hospital in Sagami-ono. I became acquainted with Professor Nishiyama and others in that excellent group and was later able to visit them on trips back to Japan.

Few honors can match the occasion of my being selected to give the Dohi Memorial Lecture in 1994 and being hosted by Dr. and Mrs. Hori. There are so many good memories associated with that excellent meeting. Dr. Hori's elegant style of running that meeting and his precise attention to details made it a pleasure for all of us fortunate enough to attend -- Drs,

Fitzpatrick, Lawley, Caughman, Ackerman, Baker and others. I was also impressed by the unusual and amazingly informative public forum meeting attached to the Congress, in which key dermatologists met with a huge audience of lay people to discuss and answer questions about atopic dermatitis. I am unaware of such a gathering anywhere else and it was enormously enlightening to my interest in atopic dermatitis.

My life has been made much richer by my having lived in Japan and that experience has been enhanced immeasurably by my friendship with Yoshiaki Hori, I am among many friends and colleagues throughout the world who hold the highest level of respect and admiration for his accomplishments and his contributions to international dermatology. I appreciate his enduring friendship to myself and my family.

## 堀 嘉昭先生のこと

帝京大学医学部客員教授(溝口病院) 久木田 淳  
東京大学名誉教授

畏友九州大学医学部皮膚科堀嘉昭教授が平成8年11月末をもって退官され、九州地方での有数の総合病院である麻生飯塚病院の院長として赴任されたことは誠に目出度く心よりお喜び申し上げます。

堀先生は昭和35年3月東京大学医学部医学科を卒業以来、皮膚のメラニン形成、色素細胞に関して興味を持たれ、恩師川村太郎教授の下で神経橋起原細胞である母斑細胞に関して「母斑細胞の組織培養所見並びに病理発生に関する考察」と題する研究論文により東京大学より医学博士の学位を授与されて、昭和41年には米国Boston市Harvard大学医学部Thomas B. Fitzpatrick教授の要請により留学され、同教授との共同研究において自分の研究を大いに発展させて、2年5ヶ月間の留学期間に数多くの研究論文を発表された。私もFitzpatrick教授のOregon大学時代の弟子であり、先生とは兄弟弟子となります。昭和42年西独Munchen市での第13回国際皮膚科学会に出席の帰途にBoston市を訪問した時に色々先生にお世話様になり大いに感謝しております。写真はFitzpatrick教授の自宅でのパーティーの時の留学中の堀先生御夫妻です。

堀先生の研究の主要分野は皮膚におけるメラニン形成機序、母斑細胞母斑、皮膚色素異常症、神経皮膚症候群の病態生理、悪性黒色腫、悪性皮膚腫瘍の免疫組織化学的診断および治療、Behcet病の病態生理等多岐に渡っており、数多くの研究成果は本邦はもとより広く欧米の主要な学術雑誌に投稿発表されております。

また先生には欧米の若き同学の友が多く、先生が主催される学会に招待され日本皮膚科学会に大いに貢献され、東京都で開催された第16回国際皮膚科学会では国際講習会の学術委員として講演者として活躍されました。

また先生は若手研究者の教育に積極的にこれに当り、多くの若き俊才を海外の研究施設に派遣して海外との共同研究を行い、日本皮膚科学会においては各種役員を歴任され、理事長を務められたことは他学の諸先生よりの信頼と敬慕の結果であると信じております。

先生は学生時代東大医学部野球部に属するスポーツマンであり、2年前の福岡市での第94回日本皮膚科学会総会の時に福岡ドームにおける各支部対抗野球大会を企画されたことはこの現れと思っております。

このたび大学を離れ、病院長として病院経営の道に入りましたが、先生の人柄、能力、人間性を通じて必ず大成されると信じております。今後の御多幸を心よりお祈り致します。



## 堀教授の退官に際して

西 山 茂 夫

大学教授を退職した後の身の振り方を考えてみますと、才ある人は大病院の長となり、能のある人は開業の道を選び、私のような取り得のない者は年金で糊口をしのぐこととなります。

堀先生は占部前教授に請われて、山梨医大から九大に教授として移り、その後、日本皮膚科学会の総会を主催され、理事長も歴任、そして今回は飯塚病院長に就任されました。学術的にも、学会活動でも最高の経歴で何もいうことはありません。その上、老後の安定した生活を保証されたのですから、何とも喜ばしい限りです。北里大学の創生期に、7年の長きに渡って、我儘な私の面倒を見ていただいた身として、心から嬉しく思います。三流大学の教授に終始し、何の業績もない私と比べて、“随分と差が開いたね”と話したところ、堀先生は黙って小さく笑っていました。思えば、頭の回転と会話の

テンポの早い堀先生と一緒に7年間の生活は楽しいものでした。最近では学会でも逆三角形の話し方が流行っていて、苛々することが多いのですが、先生の思考と表現は爽やかでした。しかし鋭角三角形の論法は日本では誤解を招くことも少なくありません。

随筆や西日本皮膚科の編集後記を集めた「皮膚科医の春秋」を読むと、堀先生の最近の文章は素晴らしく、医学以外の万物に対する識見が広く、深く、かつ暖かくなったのに気がつくうち、一度、生死の深淵に臨んだ体験が先生の間人形成に影響したのかも知れませんが、怠惰な生活をし、良い加減な人生観をもつ私と先生との間には“差がついてしまったね”と特に思うのです。

教授や理事長を早く止めて良かったです。これからは奥様と一緒に人生を楽しんで下さい。

## 江戸っ子教授 堀 嘉昭先生

社会保険広島市民病院 吉 田 彦 太 郎

少々気が短く、思い切りがよい、あたたかい、一寸そそかしい、一寸子供っぽいが頼りになる。間違っているかもしれませんが、これらが堀嘉昭教授を語る私のキーワードです。そして、東京育ちということを考え“江戸っ子嘉昭さん”と、勝手にお呼びしています。

最近、皮膚科学でも分化、専門化が進み、分野の違う人達との交流は、少なくなったように思います。この意味では堀先生と私との繋がりも淡々としたものでした。この関係を太く結びつけられたのは故谷奥喜平先生でした。

ある日、私は同先生から皮膚科の検査法の本を堀、荒田の両教授と一緒に買って作りなさいとの御命令を受けました。谷奥先生が何故、この3人を指名されたのかはわかりませんが、堀先生との親交を深める何よりのチャンスとなったことは事実です。そして、随分勉強にもなりました。その時の共同作業のおかげで私は、堀先生独特の鋭い洞察力と理解力、自信に満ちた決断力とバランス感覚を知ることができたのです。

それ以後、私は自ら研究会を組織する機会がありました時には、いつも堀先生に御協力をお願いすることにしました。そして、いつも期待通りの御力添え頂きました。

先生は学生時代から野球部で活躍され、九大へ赴任されてからも、医局員と共に野球を楽しまれたそうです。板についたユニホーム姿で多くのファンを作られたと聞いております。運動神経の欠落している私には大変、羨ましいこと

でした。それでも少しは堀先生との間に共通点はありました。それは、共に九州以外の地から赴任してきましたことと、定年前に診療病院へ転出しましたことなどです。しかし、私の病院は毎月1億円の赤字を出していますのに、先生の病院は黒字経営を続けておられる点は、大きな違いです。私は、1ヶ月でも2ヶ月でもよいから黒字病院に勤めてみたいと思わずにはおられません。先生のことですから、黒字幅を益々拡大なさることと思います。近い将来、病院経営のノウハウも教えて頂けるものと期待しております。

堀先生が平成6年4月に主催されました第93回日本皮膚科学会総会は、きわめて印象的でした。総会では、どことなく会頭の個性が滲み出るものですが、この総会でもその例外ではありませんでした。国際色豊かな学会でありましたこと、市民公開講座の開設、大型ハイビョンを使つてのシンポジウムなどは、私の脳裏に鮮やかに残っています。

また、出来たばかりの福岡ドームでの親善野球は堀先生ならではのアイデアであり、これらを見事に結実させ、成功させられた事に感服し、脱帽いたします。

これからも、先生に寄せられる期待は大きく、御多忙な毎日を過ごされることと思います。しかし、先生も決してお若くはないのですから、十二分に御自愛下さいますように。

今後の御健勝を祈ってペンを置きます。

# 堀 嘉昭先生との思い出

北海道大学皮膚科 大河原 章

## 堀先生との出会い——夕暮れの東大駒場球場

[ゲームセット]堀嘉昭主審(当時東京大学医学部3年生)の一声が夕暮れの駒場球場に響きわたり試合は終わった。そして結成されて間もなかった北海道大学医学部準硬式野球部は決勝戦を戦い抜き、思い掛けず第一回東日本医科大学総合体育大会で優勝した。それは昭和33年夏のことであった。

北大医学部に準硬式野球部が結成されたのは昭和33年5月のことであり、創部後わずか数カ月で初優勝を飾ることが出来た。この大会は東京大学が主管校であったため、東京大学医学部準硬式野球部の先生方には大変お世話になった。宿舎には駒場の寮を斡旋して頂き、真夏の東京故、暑く寝苦しくはあったが、安価で便利に球場に通うことが出来た。皮肉なことに第一戦の相手が東大で、北大は運良く勝たせて頂いた。堀先生は東大の二塁手、私は北大の三塁手であった。その後北大は準決勝で群馬大学を破り、順調に勝ち進み、決勝戦で東京医科歯科大学と対戦することになった。決勝戦は堀主審の元に開始された。終盤相手に追い上げられて危ないところであったが、堀主審の手際良い、かつ公正な審判により辛うじて4対3で優勝することが出来た。合わせてこの大会を通して種々お世話頂いた金井弘一先生(現東芝病院院長)にも感謝申し上げます。

## 皮膚科学会での再会

私が北大皮膚科に入局したのは昭和37年であったが、思えばその一年前に堀先生は東大皮膚科に入局されていた。故安田利顕先生から東大皮膚科に入局された堀先生のことをお話頂き、これは奇遇だと感じた。

すでに堀先生が日本医師会雑誌の[我が旅]の欄(日本医師会雑誌平成3年3月15日号)に書かれているように、野球でお会いした約2年

後の昭和35年春、九州旅行への途中の東京からの夜行寝台列車で先生には偶然お会いしているからである。その後ほぼ同時期に堀先生はボストンのハーバード大学へ、私はオレゴン州ポートランドのオレゴン大学へ留学することになる。先生はその後一時新設山梨医科大学の皮膚科学講座の初代の教授に就任なさったが、山梨県は私の生まれ育った土地でもあり、先生との不思議なご縁を感じる。

## 生涯スクラッチ

堀先生は長年のゴルフのライバルでもあった。そして何時も楽しくプレイさせて頂いた。その締めくくりとして、昨年11月先生の退官記念の学会の翌日曜日、久しぶりに同じ組でラウンドさせて頂いたが、結果は先生も、私も散々であった。名誉のため一言弁解させて頂くと、お互いにゴルフに多少の闘志を燃やしていた頃は、先生はアプローチショットとバットの名手であり、しばしばコンペで優勝されたし、私もフロックながら何度かハーフを30台でラウンドしたこともあった。

先生とは思い出に残る名勝負(?)もあった。私が旭川医大に勤務していた頃の夏休みに、堀先生は慈恵医大の新村教授と北海道を訪ねて下さった。夏休みでもあり、三浦祐晶名誉教授も参加して下さり、猛暑の旭川と札幌での3連戦となった。当時は一打につき賞金はチョコレート一枚という相場であったが、兎に角3日間の勝負であったので、三浦名誉教授が審判で、堀先生、新村先生と私の三人はスクラッチでの勝負となった。それ以後は生涯スクラッチでお相手させて頂いてきた。初日、2日目まではお互い真剣にプレイしたが、流石に3日目になると、夜の不摂生も手伝い、疲労困憊し、打球は地を這うか、真上に力なく上がるかのどちらかで、三人とも到底ゴルフなどと呼ばれるものではな



かった。職業とはいえ、4日間緊張感を持続して、毎週毎週プレイを続けるプロの選手のコンディションの維持は並大抵なものではないと、つくづく感じたものであった。

思い付くままに、書き連ねたが、長い間お付

き合い頂き、ご指導頂いた堀嘉昭先生に長年のご交誼を感謝し、これからは大病院の名院長として、ご健勝で益々ご活躍されることを祈念致します。

## 堀 嘉昭先生の御退官を祝す

日本皮膚科学会西部支部長 荒 田 次 郎  
岡山大学医学部皮膚科学教室

堀嘉昭教授がこの度九州大学を退官されて飯塚病院の病院長に就任されたことを心からお祝い申し上げたいとおもいます。長年にわたる国際的業績とともに、九州大学皮膚科学教室をまとめ人材をお育てになった先生の御実績の結果であるとお慶びする次第です。

先生が日本皮膚科学会理事長に就任なさった後を受けて、日本皮膚科学会理事および西部支部長を拝命したこともあり私は先生から色々ご教示いただきました。心より御礼申し上げます。

いま皮膚科でも国際化、国際化と叫ばれています。先生は早くから国際的に素晴らしい業績を挙げられ、多くの国際的な知己をもっているわが国の皮膚科学の国際化と発展に貢献なさいました。心より敬服申し上げる次第です。

先生の生き方は背筋を伸ばし胸を張ったお姿に象徴されていると思われます。しかし、先生は片意地を張ることなく都会的な自然体で我々に接して下さいました。選良の矜持と江戸っ子の含羞とが微妙に混ざり合ったとでも申せましょうか。それに加えてスポーツマンらしさもあり

ます。

先生の魅力的なお人柄は一つには幅広い教養にあると思われまふ。先生御退官の折りいただいた随筆集『皮膚科医の春秋—時のまにまに—』は先生が折にふれて書き記された短文により構成されていますが、皮膚科医としてのみならず、科学者として、また一人の人間として、専門にこだわることなく色々な話題を、それこそ肩の力をぬいてお書きになっているだけに読むものを魅了します。『西日本皮膚科』を編集後記ののっている最終ページから読むことを楽しみにしていた人の多かったのも頷けることです。

幸い先生は御退官後も飯塚病院長として西部支部にとどまられます。引き続きさまざまご指導をお願いいたします。

若さを保つ秘訣として、先生がお書きになった最後の『西日本皮膚科』編集後記に、「それは好奇心、行動力、童心であると思う」とある。先生にもその三要素は十分備わっている。どうかこれからも末永くご健勝でご活躍なさいますことを心からお祈りいたします。

## 堀 嘉昭教授の御退官に際して

聖マリアンナ医大 溝 口 昌 子

堀先生は何事もサッと考えパッと決められる。「あーでもない。こーでもない。」と迷われることもないし、愚痴をおっしゃることもない。明解・即決を常とされる。その上、威張ることもなく、後輩とも自然体に気軽に接し話をされる。後輩にとっては、いろいろご相談しやすい大変有難い先輩である。

私は東大皮膚科へは堀先生の4年後に入局したが、堀先生は、私が入局後まもなくハーバード大学に留学され、帰国後すぐに、北里大学に助教授として赴任されたため、残念ながら御一緒に診療や研究をしたことはほとんどない。幸い色素細胞の研究を通じてご指導いただく機会があり、以後、日本色素細胞学会をはじめ、多くの学会で大変お世話になっている。周囲をみまわすと特に共通の研究などなくても堀先生を慕いお世話になっている者は沢山いる。学識が高く、優れた指導力をお持ちだけでなく、包容力があり、明るく気さくな先生のお人柄のためと思う。

堀先生がみつけれられた遅発性両側性太田母斑

様色素沈着という疾患がある。最近、聖マリアンナ医大でこの疾患を集め、免疫組織化学、免疫電顕を行って発症病理を検討したところ、堀先生が最初に報告された *J Am Acad Dermatol* に載っている3つの仮説の中の1つであった。堀先生の説を確認することになり、改めて先生の優れた洞察力に感服した次第である。

堀先生の退官祝賀会および記念福岡地方会が行なわれ、私も出席させていただいた。その地方会でも、堀先生は相変わらず盛んに鋭く簡潔な質問をなさっておられ、ご退官というイメージからは遠く、ご退官がおめでたいというより、非常に残念という気がした。

堀先生が皮膚科学および学会のために、多大な貢献をされたことは、改めて述べるまでもない。ご退官後は1200床もある飯塚病院院長という要職につかれ、皮膚科以外の仕事がさらに増え相変わらずご多忙と思われるが、ご健康にご留意され、いつまでもお元気でご指導いただきたいと願っている。

## 堀先生のこと

信州大学 斎 田 俊 明

堀先生について私の個人的な感想を述べさせていただきます。私は1980年（昭和55年）秋から1983年春までの2年半の間、東大分院で当時皮膚科の科長であった堀助教授の下で医局長、講師を務めました。そしてその後も、現在に至るまで種々でご指導をいただいております。

堀先生が大変に頭のよい人であることは誰でも知っていますが、それと同時に先生はとてものクールな人間です。だから状況を的確に把握し、適切で妥当な判断を下すことができます。決して自己満足のなかへ沈潜していつてしまうような人ではありません。本当に聡明な人なのだと思います。

また、堀先生はとてものフランクな人です。だから他人に貴重なアドバイスを率直に伝えてくれます。私も何度か学問や生き方の点で先生から貴重な忠告をしてもらいました。陰にこもって怨念を燃やすなどということは絶対にしない人です。とてもの正直な人なのだと思います。

堀先生はスポーツマンです。野球もゴルフも大変に上手で、スキーも大好きです。野球の打席ではツーストライクになるとバッティングの

仕方を全く変えるという、私などにはとてもの真似のできない技量をもっています。ある日、一緒にゴルフをしていて、下手な私が、（それ程よい当たりをしているとは思えないのに）スコアのよい堀先生に「どうして先生はそんなにスコアがいいのかナー」と訊いたところ、「オレは考えながらゴルフをしているからな」と答えました。ゴルフは頭でやるもののようなのです。

堀先生は、何故か女の人にとてものもてます。この何故かが解ければ、私も多少はもてるようになるかもしれない、と一生懸命考えたのですが、まったく解りませんでした。スマートで率直で明るい人柄だからなのでしょう。堀先生から私は沢山のことを学びましたが、この点だけはどうしても学びとることができませんでした。もっとも、こういうことは他人から学べるようなものではないのかもしれませんが。

堀先生については、まだまだ話したいことが沢山ありますが、それはまた次の機会に譲らせていただきます。以前と同様に、これからも先生と親しくおつき合いさせていただけるものと楽しみしております。

# 堀先生と私

山梨医科大学皮膚科 島田眞路

私が堀先生に初めてお会いしたのは私がまだ学生の時でした。当時堀先生は北里大学の助教授でしたが、野球の親善試合（東大一群大）に参加された際、われわれ野球部員が審判を依頼されたときです。

その後昭和52年東大皮膚科へ入局後、すぐに堀先生は東大分院皮膚科長・助教授として戻って来られました。先生は当時から野球部の後輩ということで、何かと声をかけて下さり、研究も一緒にやらないかと誘われました。そこで私の最初の仕事である「悪性黒色腫の phase-synchronization に関する基礎的研究」という皆見賞論文があるわけで、先生のご指導の賜物でありました。

昭和57年先生の東大分院最後の年に、東大医局長を終えて私は分院へ赴任することになりました。そこで私は、当時東大皮膚科ではめずらしかったのですが、基礎の研究室で研究することを希望しました。これが多田富雄教授の主宰する東大免疫学教室で、その後の私の方向を決定づけることになりました。この異例の私の申し入れを先生は快く聞き入れて下さいました。今でも大変感謝しております。

翌年に私は NIH へ留学することになりました。その留学中、昭和60年東大教授選の直後、先生から山梨へ来ないかとのお話をいただきました。当時の私の研究も乗りに乗っていた時期でこのチャンスに山梨医大からもう1年留学したい旨申し出ましたところ、再び快諾して下さいました。それで私は NIH へ4年間という異例の長期間留学することができました。

ところが、山梨医大へ帰る数ヶ月前、昭和62

年の初めだったと思いますが、堀先生から国際電話で九州大学教授選出馬のご相談をいただきました。東大教授選のこともありましたので私は即座に賛成させていただきました。そのため山梨で先生の下で働けたのはほんの3ヶ月ほどであったのは少し残念でありました。

先生が九州大学へ赴任されてからも、福岡へは機会あるごとにお呼び下さり、山梨医大助教授時代、東大助教授時代、そして山梨医大へ教授として赴任してからも何回もお邪魔させていただきました。九州大学皮膚科教室の先生方も中山助教授、今山講師、永江講師をはじめとして、いつも暖かく迎えて下さり、博多の地に（中洲も含めて）その他の地方とは一味異なる親近感を抱いております。堀先生を通じて九州大学の多数の先生方の知己を得たことは一生の財産と思っています。

先生の主宰された学会で思い出深いものは私のボスの Steve Katz や Tom Lawley を迎えての日本研究皮膚科学会、Ackerman を迎えての福岡皮膚病理カンファランス、最近では日本皮膚科学会総会や、International Symposium on Melanogenesis and Malignant Melanoma などがあります。

このように私の半生を振り返ってみると、私の今日あるのは先生のおかげであると言っても過言ではありません。本当にありがとうございますと申し上げたいと思います。

先生が益々ご健康で、益々ご活躍されることを心よりお祈りしてこの稿を閉じたいと思います。

## 堀 嘉昭教授の思い出

九州大学医学部皮膚科 中 山 樹 一 郎

堀嘉昭教授が山梨医科大学皮膚科から九州大学医学部皮膚科に赴任されたのは昭和62年10月である。赴任されて間もなくの歓迎会の時の御挨拶で「これからこの医局で新たな気持ちで精一杯仕事をするつもりである。」と述べられた。そのお言葉通り昨年12年1日の御退官の日まで文字通りの激務をこなされた。

堀教授は平成6年4月に日本皮膚科学会総会・学術大会を主催された。それ以外にも全国的な学会として、日本研究皮膚科学会（昭和63年7月）、皮膚リンフォーマ研究学会（平成元年7月）、日本色素細胞学会（平成元年12月）を主催された。また国際シンポジウムとして上記日本皮膚科学会総会・学術大会に付随したサテライトシンポジウム（1. Adhesion molecules 2. Malignant melanoma）および色素細胞と悪性黒色腫に関するシンポジウム（Melanogenesis and malignant melanoma）を主催された。いずれも国内外の著名な専門家が一堂に会し最先端の研究討議がなされた。学会の開催に当たっては立案、運営に関して堀教授自ら先頭に立って我々医局員に細かく指示をされた。

堀教授は平成2年4月から平成6年11月まで日本皮膚科学会西部支部長、平成6年4月から平成8年3月まで日本皮膚科学会理事長を務められた。また多くの学会の理事や厚生省班会議の班員になられ、九大油症治療班の班長を6年間務められた。堀教授は雑誌「西日本皮膚科」の編集長を昭和62年12月から平成8年12月までされ、毎号全ての原稿に目を通され訂正、加筆などきめ細くなされた。編集後記には毎号興味ある随筆を載せられた。それらは『皮膚科医の春秋』（旺史社出版）という本の中にまとめ

られ、堀教授の退官式に出席された方々に記念品として配布されたのはまだ記憶に新しいところである。私はその本の中で堀教授の御両親の家系は代々医者であり、御尊父は内科医で皇室の侍医を勤めておられたことを始めて知った。ただ堀教授の御実家は東京の世田谷にあり、お隣り近所には舟橋聖一や佐藤栄作元首相が住まれているとうかがったことがある。

堀教授は学生の教育には大変熱意をもって取り組まれた。そのお陰と思われるが後年当科への入局希望者が定員を越える程多かった。また医局員一人一人にきめ細かい御指導をされた。それは一面厳しいものであったが学会発表などが終わると「御苦労さんでした。」といつも暖かく声をかけていただいた。

私事で恐縮であるが堀教授より平成3年4月に助教教授に取り立てられ御退官の日まで務めさせていただいた。よく考えると私は島田眞路現山梨医科大学皮膚科教授に次いで二番目の助教教授でこれは私の人生にとって大変な幸運であった。と同時に、九大皮膚科の先生方にはその幸運を分けられなかったことを申し訳なく感じている。堀教授には言葉では言い表せない程の御指導、御支援を賜わった。とくに論文の中での言語の正確な使い方を邦文、英文ともに教えられた。それらの御指導を受ける間に堀教授の学識の広さ、深さに感銘した。

堀教授にはこれからも益々御健勝であられることを心よりお祈り致します。本稿の中に言葉の使い方がおかしい所があるのではといつものように冷や冷やしていますがどうか今回は大目にていただきますようお願い致します。

## 堀 嘉昭教授の思い出

九州大学医学部皮膚科 永 江 祥之介

私が堀教授のお名前を身近なものとしてお聞きしたのは昭和61年に島田眞路先生（現山梨医大教授）からでした。当時私はNIH（米国衛生研究所）のDr. Stuart H. Yuspaの研究室に留学しておりましたが、Dr. Stephen I. Katzがチーフである皮膚科のclinical roundに参加させていただいていました。Dr. Katzの研究室には東京大学から島田眞路先生と窪田泰夫先生（現聖マリアンナ医大助教授）の両精鋭が留学されており、住んでいるアパートメントが近かったせいもあり、家族ぐるみで親しくさせていただいていました。島田先生と窪田先生は当時から堀教授の1番、2番弟子と自負されており、両先生からうちのボスは多少せつかちだが、非常に立派で魅力的であり、自分たちはとにかくついて行くつもりだというようなお話をいつも伺っていました。昭和61年に九州大学に戻ってきて、次期教授に堀教授が就任されるということを知り、何となく安心した記憶があります。

昭和62年10月に九州大学皮膚科教授に赴任されてからは、日常医療や医局で教授と接する機会が増えるにつれ、教授のお人柄や言動に感心し教えていただくことばかりでした。

若い医局員にも直接声をかけていただいたり、時にはざっくばらんに勉強以外の話題でも話をされたり、若い先生達や医学生達にも話がしやすい教授として人気があり、入局希望者も定員を超えることもしばしばでした。またスポーツの面でも、教授というのはやはり年配の先生なので、ゴルフはお上手かもしれないが他のスポー

ツはどうもというのがわれわれの今までのイメージでしたが、野球もスキーもお上手なのはびっくりしてしまいました。九州大学皮膚科は医局対抗野球大会では有史以来2勝しかしてない南海～ダイエーの様なチームで、堀教授が赴任以来弱小体質改善のため練習試合を行い医局対抗戦に臨みましたが、ほとんど教授がピッチャーとして孤軍奮闘されるだけでやはり勝てませんでした。医局員全員申し訳なく思っています。臨床研究の面では、よい意味でいかにスマートに仕事をするかという姿勢を見せていただきました。回診などの時も以前ご自分が言われたことや医局員が言ったことをすべて記憶しておられたので、皆にとって回診は緊張するものであったと同時に、自分の言動に責任を持たなければならないということを教えられる場でした。また堀教授のことをお話しする際に忘れてならないのは奥様のことだと思います。学会が終わった後や、新年会の時など医局員全員にこちらが恐縮するくらい丁寧に声をかけていただき、時には素晴らしくきれいな字のお手紙をいただいたり、奥様の心配りにはいつも感謝しておりました。

堀教授には公私ともども言葉では言えないくらいのご指導、ご支援をいただいたのにも係わらず、ご恩返しができなかったことが今になって悔やまれますが、教授の今後のご活躍をお祈りすると同時に、堀教授のご指導を受けたことを辱めないように私共も頑張って生きたいと思っています。

## 永遠の野球少年

九州大学医学部皮膚科 松 田 哲 男

〔西日本皮膚科〕誌の編集後記は、編集責任者堀先生の博学多識に裏付けられた格調高いもので、多くの読者が楽しみにし、最初に頁を開かせるものでありました。第58巻6号（1996年12月発行）の「私の最後の編集後記」と題された一文で、先生は若さを保つ秘訣は、変わらぬ好奇心と行動力と子供っぽさ（童心）にあるとされています。私は、在任最後の3年間医局長を務め、先生の飽くなき好奇心、尽きせぬヴァイタリティーに間近に接し、驚くばかりでした。殊に野球に関して、先生はまさに「永遠の野球少年」としてその童心を爽やかに発揮しておられました。いくつかのエピソードをご紹介しますでしょう。

広く知られたことですが堀先生は学生時代野球部で活躍されており、当教室でも最年長かつ最優秀のプレイヤーでありました。山梨医大から九大に御赴任になって、先ず着手された改革のひとつに、それまで学内医局対抗試合で何年も1回戦敗退を続けていた九大皮膚科野球チームの戦力増強作戦があります。当時の皮膚科のユニフォームは野村、杉浦が在籍した当時の南海ホークスに似たもので、胸のロゴは〔DERŪMA〕となっていました。一文字換えると〔DĀRŪMA〕になり、まさに“手も足も出ない”と宣言しているようなものでしたが、スマートなユニフォームを新調して下さいました（勿論、胸のマークは〔Derma〕に変更されました）。また、自らも先発で投手もしくは三塁手として出場されるとともに、打撃練習のためのバッティングセンターの費用は医局から負担する、製薬会社に練習試合を申し込むなど積極的に取り組まれました。その結果……未だに連敗のトンネルを抜き出せず、そもそも最後の勝利は昭和何年のことなのか知るものもいなくなっていました。'94年の小児科との試合、14対13の1点ビハインドでむかえた最終回

2アウト、ランナー2、3塁、1打逆転サヨナラのチャンス、「僕は、今日は出ないから。」という言葉信じて「代打堀」のコールを遠慮してしまったことは私の采配ミスとして未だに悔やまれます。今後はOBの補強選手として、球足の速いラインドライブのヒットやファウルライン際の打球を逆シングルで華麗にキャッチされるお姿を、再び我々に御披露いただけることを願ってやみません。

またプロ野球も、空港での待時間にはテレビの前で、機内ではスポーツ新聞を、教授室でスライドを整理される間にはラジオのナイター中継を、時には医局でお弁当を食べながら衛星放送をと、様々なメディアで楽しんでいらっしゃいました。御最期のチームを伺ってみましたが、「僕はメジャーリーグのファンだよ。ダイエーは地元として応援はしてるけどね。」と、明らかにはしてくだされませんでした。しかし、ロサンジェルスドジャースの野茂投手とオリックスブルーウェーブのイチロー選手には、特に注目しておられました。'96年9月24日のこと、先生は前日まで福島の学会に御出張だったので、いつになく「いやあ、疲れたよ。」と口にされます。先生は福島から福岡の移動をはさんで、早朝の野茂投手登板試合、午後のオリックスが二連覇を決めた試合、ナイターの巨人ー広島首位攻防戦と3試合をテレビ観戦されていたのでした。

'94年4月、堀先生は第93回日本皮膚科学会総会を主催されました。その約1年前、先生から当時完成したばかりの福岡ドームで学会記念の野球大会を開催したいとお話がありました。早速関係者にあたったところ、先方も、草野球大会を行った経験がなく、とまどった様子でしたが、「何とかやれそうだ。」と報告致しました。早速、先生は「編集後記」において総会会期中に4支部対抗の野球大会をドームで開催するこ



とを宣言なさいました。プロ野球の日程などから、総会前日早朝の大会となりましたが、各支部の御協力で充実した試合が行われました。残念ながら堀先生は選手としてではなく、始球式のみでの登場でした。今思えば、総会の会頭講演を福岡ドームで行けばよかったかもしれません。〔スタンドを埋める数千人の皮膚科医、

ピッチャーズマウンドのマイクの前に仁王立ちの堀先生、35×10mの巨大なスクリーンに映し出される malignant melanoma ……………〕

まだまだ話は尽きないのですが、後ろから「そんなことばかり時間をかけて、論文は仕上がったのか？」という声が聴こえる気がしますのでここでやめておきましょう。

## 堀教授の言葉

米国 NIH 細胞生物学研究室 古 村 南 夫

堀先生に直接ご指導いただいたのは医学部学生時代と研修医としての4年余りでした。その後は総説の執筆等でご指導を受け、先生の色素異常症の論文の多くを繰り返し読んで勉強する機会を与えて下さいました。先生は色素異常症の権威として論文多数を公表されていますが、全身性疾患と色素異常症の関連に関しても示唆に富む総説があります。皮膚は内臓を映す鏡である。先生はスピーチでこの言葉をしばしば説明されます。九大皮膚科では皮膚の所見だけでなく、患者の全身状態や内科学的所見、これらすべての経時的変化や相互の関連性などについて気を配った上で、常に広い観点で患者を診るように若手医師に指導されていました。以前、関連病院の皮膚科で強い全身倦怠感を訴える初診患者の尋麻疹様の皮疹をウイルス感染症疑いと診断ただけで精査目的で安易に内科を紹介受診させた私は、翌日、ベテランの内科学部長から急性B型肝炎の重症患者を診断できなかつたのですかと糾弾されてしまった苦い経験があります。フィッツパトリックの皮膚科学書の冒頭の、ゲーテの言葉で始まる皮膚科医の使命についての章を改めて読みなおすたびに堀先生の言葉を思い出すのは私だけではないと思います。

研究面でも堀先生が広い視野で論理的に議論を展開される姿は私の心に強く残っています。研修医時代と皮膚科大学院在籍中は形態学的な観察が私の研究手段の中心でした。先生は形態学的なうわべの結果だけで推測して新しい機能や知見を報告するのではなく、生化学的な結果や数値の裏付けを元とした機能的な意義づけを中心に据えた論理展開を心がけるように常々指導されていました。加えて、大学院在籍中の国内留学は前例の無い新しい企てでしたが、堀先生の尽力で群馬大学の解剖学教室と皮膚科教室で3年余を過ごすことができました。母校を他大学の教室や医局から見つめなおすことができたのは、複数の視点から物事を捉えることの大

切さを知った貴重な体験でした。

初めての関東での生活は、言葉だけでなく食べ物の味付けの違いにも戸惑う毎日でした。群馬に送ってもらっていた西日本皮膚科の編集後記で堀先生が東京と西日本の鰻の蒲焼の味について述べられた一節がありましたが、背開きと腹開きの違い、串の刺し方から焼く順番まで違う事を論理的に説明されていたのを面白く拝読したものです。鰻を切り開いて串に刺し、たれをつけて焼いてしまえばどういふ手順でも同じ蒲焼になりそうですが、でき上がるまでの一つ一つの調理手順の違いから、旨いんだよと先生がおっしゃっていた東京の鰻の美味しい蒲焼が生まれるのだと納得しました。その論理を微笑ましく思いながら反芻しているうちに、柳川の鰻のせいろ蒸しを無性に食べたいと群馬で思ってしまったのは私が九州人であることの証でしょうか。

2年前より堀先生の御紹介で米国国立衛生研究所 (NIH) に留学する機会を与えられ、米国色素細胞学界を代表する Hearing 博士のもとで色素細胞の研究をしています。欧米の一流の皮膚科学者や医学研究者たちは、堀先生をメラノサイトーシスの疾患概念の確立で代表されるすぐれた皮膚科学研究者であると考えとともに、決断力と実行力に富んだ日本の皮膚科学界のリーダーであられると考えています。日本皮膚科学会は言うに及ばず、日本色素細胞学会や国際色素細胞学会の運営、国際的なメラノーマシンポジウムの開催など基礎医学、臨床医学の両面で活躍される姿は日本で拝見するより遥かに大きな存在として私の目に映りました。教授の引退を惜しむ声が米国でも事あるごとに聞かれたのは言うまでもありません。

最後になりましたが、心より畏敬と感謝の念をこめて、堀嘉昭先生のご健康と今後の益々のご活躍を祈念します。

## 編集にあたって

堀 嘉昭教授の退官に際し、堀教授のご希望と昨今の情勢などから今回は退官記念事業を執り行う組織を別個に構成することはせず、平成8年11月23日に第299回日本皮膚科学会福岡地方会が退官記念講演会を兼ねて行なわれた。業績集についても教室の事業として発行することになり、私たち4人がその編集を担当することとなった。

この業績集には堀 嘉昭先生の論文および著書などを九州大学ご着任前とご在任中の2項に分け、さらに堀教授ご在任中の教室業績を別項として加え、収載している。

後半には堀先生お手持ちの写真から十数葉を収録し、つづいて退官記念祝賀会を兼ねた学会懇親会でいただいた祝詞と、全国のあるいは教室の先生方からご寄稿いただいた祝辞や思い出話を配列している。

業績集の編集に携わるのは4人ももちろん初めてのことであり、その作成が遅れていたが漸く出版できることとなった。この間に平成9年10月16日付で後任の古江増隆教授が就任され、21世紀に向けたさらなる発展をめざして教室員全員が決意を新たにしている。

ご祝辞あるいは思い出話をご寄稿いただいた諸先生方には突然のお願いであったにもかかわらず快くお引き受けくださり、厚く御礼申し上げます。また、論文、資料の整理に多大なご協力をいただいた笹木珠美氏と隈井真紀氏に深謝いたします。

1997年11月

安 元 慎一郎  
松 田 哲 男  
永 江 祥之介  
中 山 樹一郎

